目　　次

１章　「歴史文化基本構想」策定の目的・行政上の位置づけ　1
　１．歴史文化基本構想策定の背景　1
　（１）豊前市のこれまでの文化財保存・活用の取り組み　1
　（２）文化遺産の継承と更なる活用の必要性と期待　2
　（３）歴史文化基本構想策定の目的と期待する効果　3
　（４）策定組織　3
　（５）歴史文化基本構想の位置づけ　4
　２．歴史文化基本構想の基本理念・基本方針　9

２章　豊前市の概要　10
　１．自然環境　10
　（１）位置　10
　（２）地形・地質　11
　（３）水系　11
　（４）気候　13
　（５）植生・植物　13
　（６）動物　15
　（７）自然景観　16
　２．社会環境　17
　（１）人口　17
　（２）産業　19
　（３）交通　19
　（４）教育　21
　（５）文化施設　21
　（６）運動施設　21
　（７）観光施設（宿泊、温泉、集客）　24
　（８）公園　24
　（９）景観　26
　(10) 特産品　28
　３．豊前市の歴史的環境　30

３章　豊前市の歴史文化の特徴　35
　１．文化財の種類　35
　２．文化財調査の概要　36
　３．種類別文化財　46
　（１）神社　46
　（２）寺院　51
　（３）石造美術　54
　（４）古文書　58

（５）民俗芸能・祭礼 59
（６）伝承・民話 71
（７）遺跡 74
（８）植物・動物・地質鉱物 82
（９）文化的景観 85
（10）街道・信仰の道 87
（11）町並み 90
（12）港 93
（13）産業遺産 95
４．豊前市の歴史文化の特徴 97

４章　豊前市の関連文化遺産群 99
１．関連文化遺産群のテーマの設定 99
（１）基本的な考え方 99
（２）関連文化財群の５つのテーマ・ストーリー 99
２．テーマとストーリー 102
（１）宇佐神宮への道　－勅使街道－ 朝廷使者と八幡信仰 102
（２）求菩提信仰の路　－修験者を支えた路と里－ 104
（３）中津街道　－往来と交流－ 108
（４）瀬戸内海のみち 111
－海路の出発点宇島港 地域に貢献した小今井潤治
（５）維新へのみち　－幕末に現れた千束藩と武家社会－ 114
３．歴史文化保存活用区域の考え方 116
（１）文化財の保存・活用の基本理念件 116
（２）区域の必要性と要件 116
（３）歴史文化保存活用区域 117

５章　保存活用（管理）計画の考え方 123
１．基本的な考え方 123
（１）基本的枠組み 123
（２）保存活用（管理）計画を策定する主体 124
（３）文化財（群）とその周辺環境の整備方針 124
２．関連文化財群と歴史保存活用区域の保存活用（管理）計画に係る事項 125
（１）関連文化財群の保存活用（管理）計画に関わる事項 125
（２）歴史保存活用区域の保存活用（管理）計画に関わる事項 125

６章　文化財の保存・活用を推進するための基本方針及び体制整備の方針 126
１．関係団体の活動 126
（１）活動の方針 126

（２）活動の状況 126
２．中心組織の必要性と役割 127
（１）体制の方針 127
（２）組織体制の整備 127
３．行政や市民等の役割 128
（１）行政の役割 128
（２）学校の役割 129
（３）市民の役割 129
４．防災・防犯・修理 130
（１）防災 130
（２）防犯 131
（３）応急対応 131
（４）災害復旧計画 131
（５）文化財の毀損に係る修繕などの基本的な考え方 131

１章　「歴史文化基本構想」策定の目的・行政上の位置づけ

１．歴史文化基本構想策定の背景

古く「豊国」と呼ばれた豊前地域は原始より人々の営みが確認でき、その足跡をたどることができます。弥生時代には北部九州地域の一員として政治勢力の台頭が見られ、朝鮮半島との関係の中、佐井川流域には青銅器文化が芽吹きます。古墳時代にはヤマト王権の勢力下で瀬戸内海を通じた交通の要衝として、また渡来系民族の定住の地として最先端の技術を受け入れながら発展をしてきました。

一方、平安時代以降、日本独自の宗教形態である修験道文化を育み、求菩提山を中心とした豊前修験道の一大霊場として華やかな文化を開花させました。その後、宇都宮氏の影響下での歴史と徳川の時代、小倉藩の中でその支藩としての位置づけが旧豊前国の中で本地域の歴史文化を形成してゆきます。近代以降は宇島港を中心として産業の振興による地域の発展が図られ、昭和 30 年（1955）、豊前市が成立します。

こうした歴史的な変遷の中形成された豊前市の歴史文化は、修験の山である求菩提山とそれを支えた地域が織り成す修験道文化、幕藩体制の中で街道を中心として発達した町家の文化と幕末に突然もたらされる武家文化、さらには宇島港を舞台とした港町の文化に特徴づけられるといえます。

こうした歴史によって遺された文化財は国の指定を受けるものから道端に残された石仏にいたるまで正に多様な姿を私たちに見せてくれます。その一つひとつが今に伝えられた貴重な文化財であり、それらの関わりを整理しそれぞれを歴史遺産群として理解することで豊前市の歴史文化の本質を明らかにすることが可能であろうと考えられます。

「豊前市歴史文化基本構想」は豊前市の歴史的な背景を踏まえ、その総合的な活用を図るためのマスタープランとして策定するものです。

（１）豊前市のこれまでの文化財保存・活用の取り組み

豊前市で最初に文化財の保存と活用が意識され始めたのは戦前にまで遡り、求菩提山における取り組みがその嚆矢（こうし）となりました。これは民間の郷土史会が中心となったもので、早くから求菩提山に対する意識が高かったことを示しています。その後、戦後の郷土史ブームを経て、行政がその役割を担うのは昭和 40 年代に入ってからになります。ここでも最初に注目されたのは求菩提山で、昭和 40 年（1965）から 2 ヵ年事業として「求菩提山民俗資料緊急調査事業」が実施されました。これを契機とし、重松敏美氏により編集された「豊劦求菩提山修験文化攷」を基礎資料として関係する文化財の保護を前提に福岡県による文化財指定が行われ、さらにその活用を図るため、昭和 49 年（1974）に求菩提資料館が設置されました。

一方、昭和 50 年（1975）の文化財保護法の改正に伴い昭和 52 年（1977）に豊前市文化財保護条例が制定され、豊前市文化財保護審議会を設置したことにより豊前市の文化財保護行政は本格的なスタートを切ります。昭和 59 年(1984)には豊前市指定文化財として 5 件が指定され、その後も審議会での調査研究をもとに指定が行われてきました。現在、豊前市内の指定文化財は国指定 7 件、県指定 17 件、市指定 37 件の都合 61 件に上ります。

また、昭和 61 年（1986）には初めて豊前市として文化財専門職員の採用を行い、課題であった埋蔵文化財の発掘調査に対応できるようになりました。折しも本格的に農業基盤整備事業が推進されまた、工業団地の造成や各種公共事業が目白押しの中、多くの遺跡の調査が実施され、その保存と活用が新たな課題となりました。その解決のために平成 24 年（2012）に豊前市立埋蔵文化財センターがオープンし、発掘調査による成果を常設展示し広く市民に公開することが可能となりました。

さて、豊前市における文化財保護の原点となった求菩提山は平成 13 年（2001）に修験道の山として国の史跡に指定され、さらにその周辺地域は「求菩提の農村景観」として平成 24 年（2012）国の重要文化的景観に選定、さらにその山伏が関わったとされる「豊前神楽」も平成 28 年（2016）に国の重要無形民俗文化財に指定されました。その保存と活用については平成 9 年（1997）に『求菩提山整備基本構想』、平成 14 年（2002）『求菩提山整備基本計画』平成 20 年（2008）『求菩提地区文化的景観保存計画』平成 21 年（2009）『国指定史跡求菩提山保存管理計画』など各種計画の策定が行われ、現在その計画に従って整備と活用が図られています。

求菩提山と求菩提の農村景観

このように、豊前市における文化財保護の取組みは様々な経緯を経て現在実施をされています。しかし、計画的な整備・保存が行われているのは「求菩提山」に係る地域であり、その他多くの指定文化財、ましてや未指定の文化財についてその方針を示したものは検討されていません。そうした問題を踏まえ、今回の歴史文化基本構想を検討する上で豊前市全体の文化財の保存と活用を考える時期に来ているといえます。

（２）文化遺産の継承と更なる活用の必要性と期待

先に文化庁の諮問機関である文化審議会が示した「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について」（第一次答申）は全国的な人口減少と地方の高齢化が進む中、文化財保護の在り方に対して相当の危機感を示しながら問題を提起しています。

こうした動きの中で豊前市では 35%に迫る高齢化率と、急激な人口減少に見舞われ、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によれば 2035 年には豊前市の人口は 20,000 人を下回るという見方もあり、危機感を募らせる要因となっています。

特に懸念されるものとして「求菩提の農村景観」の維持、「豊前神楽」の後継者問題、近世の街道筋の景観などが考えられます。さらに、活用に当たって市民ボランティアの高齢化と人材の育成等の課題も考慮しなければなりません。

こうした課題を解決するためにも、今回の構想を広く市民と共に策定することで現状について周知できること、関連文化遺産群としての文化財の価値と評価といった情報を官民で共有できること、今後の保存と活用について共通認識を持ちながら協働の取り組みが可能になることなどが期待されます。

（３）歴史文化基本構想策定の目的と期待する効果

１）目的

本構想の策定は、地域に存在する文化財を指定や登録、未指定、未登録にかかわらず幅広く捉え、的確に把握し、歴史文化資源をその周辺環境まで含めて総合的に保護・継承すること、あわせて、豊前市特有の資産ともいえる歴史や文化財を生かした魅力あるまちづくりを推進することを目的とします。

２）期待する効果

本構想を策定することにより、市民共有の財産である地域の歴史や貴重な文化財に対し、その価値の再確認がされ、郷土への誇りと愛着につながります。これまで伝承されてきた歴史文化資源を核とした地域での自主的な活動が発生し、連帯感の増進と地域の活性化につながります。また、そうした活動を通じて、歴史文化資源を後世に継承すべきものとして捉える意識の定着にもつながります。

個別の歴史文化資源だけでなく、周辺環境と一体的に保存し活用する必要性が認識され、地域の魅力向上にもつながります。また、まちづくりや農業、観光など文化財行政だけでなく、様々な分野との連携を図る必要性が認識され、地域や市内の各団体との連携強化とともに、コミュニティ再生の契機となります。

その結果として、歴史文化資源の保存・活用の充実と次世代への適切な継承が進むものと考えます。

（４）策定組織

歴史文化基本構想策定については、豊前市全域の歴史文化に係る保存・管理や整備・活用を念頭に基本構想を定めるため、考古学や文化財保護審議委員、観光関連の代表者などの学識経験者や専門家等で構成する「豊前市歴史文化基本構想策定委員会」を設置し、審議を行いました。

豊前市歴史文化基本構想策定委員会（平成 30 年度現在）

委員長	段上　達雄	別府大学　文学部　史学・文化財学科教授
委員	飯沼　賢司	別府大学　文学部　史学・文化財学科教授
〃	井上　晋	元九州大学准教授
〃	河上　信行	福岡県文化財保護審議会専門委員
〃	恒遠　俊輔	豊前市自然と文化財を守る会　会長
〃	尾座本雅光	豊前市文化財保護審議会　会長
〃	清田　韶子	豊前市史跡ガイドボランティアの会
〃	吉仲　英俊	豊前市観光協会　事務局長

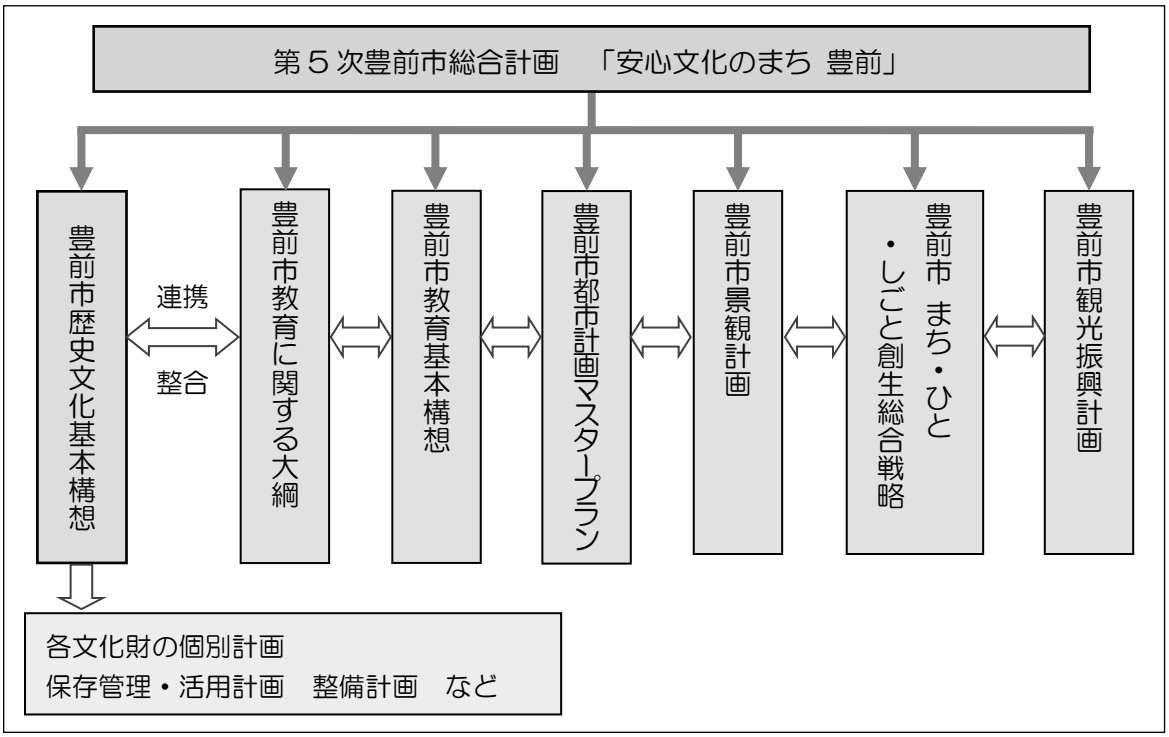
指導助言　文化庁文化財部広域文化観光・まちづくりグループ
　　宮地　聡一郎　福岡県教育庁教育総務部文化財保護課　文化財保護係

事　　務　　局	中島　孝博	豊前市教育委員会 教育長
	藤井　郁	豊前市　総合政策課長
	大谷　隆司	豊前市　観光物産課長
	栗燒　憲児	豊前市教育委員会　教育部長
	山田　功治	豊前市教育委員会　生涯学習課長
	坂梨　祐子	豊前市教育委員会　生涯学習課　副主幹
	棚田　昭仁	豊前市教育委員会　生涯学習課文化芸術係長
	中内　華奈	豊前市教育委員会　生涯学習課文化芸術係
	元重　佑香	豊前市教育委員会　生涯学習課文化芸術係
	相良　悦子	求菩提資料館　副館長

（５）歴史文化基本構想の位置づけ

本構想は、豊前市の文化財行政における上位の計画として位置付けます。

なお、行政全体の最上位計画である第５次豊前市総合計画（2013 年～2022 年）を踏まえるとともに、関連する他の計画や法制度との整合・連携を図るものとします。



豊前市歴史文化基本構想と他計画との関連

１）豊前市総合計画（平成 25 年度～34 年度）

平成 25 年度に「第５次豊前市総合計画」が策定され、前期基本計画を平成 25 年度から平成 29 年度までとしています。

豊前市総合計画の基本構想では市の将来像として、豊かな海と山　歴史と暮らしを人がつなぐ『“安心文化”のまち　豊前』を定めており、その実現のための５つの「安心目標」「いつま

でもいきがいを持って学べるまちづくり」を掲げ、「学校教育の充実」と「生涯学習の推進」の2 つを施策項目としています。次世代を担う子どもの教育と、いくつになってもだれもが学ぶことができる生涯学習の推進や、先人から受け継いだ歴史・文化を守り、活かしていく取組みを推進するとしています。

２）豊前市教育に関する大綱（平成 28 年（2016）1 月）

計画期間は平成 28 年度から平成 32 年度としています。

主な施策のうち、文化芸術の振興の中で文化財関連について以下のように示しています。

①求菩提資料館、埋蔵文化財センター等の利活用の向上

常設展・企画展等の広報を強化するとともに、体験型・参加型の講座等を増やし、多角的な学びの場としての活用を進めます。また、施設相互での共通テーマ展や関連イベントの実施など利用者を市内の関連施設へ誘導する仕組みを構築します。

また、学芸員を要望に応じて学校での出前授業や公民館での歴史講座等へ講師として派遣し、求菩提資料館や埋蔵文化財センターの展示に自然と足を向けるように促します。

②史跡ガイドボランティアや地元の文化財保存団体との連携による文化財の保存・活用

指定文化財の保護を目的とした文化財パトロールを多団体で効率よく実施するとともに、諸行事での協力体制を確立します。また、文化財保護研修を実施し、文化財愛護精神の涵養とともにスキルアップ・意欲向上へとつなげます。

また、ガイド要請への対応が個々の団体で可能な体制づくりなどが難しい場合の協力体制を構築します。

森林セラピーガイド・地区の壮年会など文化財保存団体以外の団体とも文化財保存団体が連携して、それぞれの催しに文化財を活用した取組を導入することで地区の活性化に寄与します。

３）豊前市教育基本構想（平成 28 年（2016）4 月）

①地域資源としての文化財の活用

・史跡等文化財を地域資源として活用すべく、その整備や活用プログラムの提供を行うための取り組みを推進します。

○史跡「求菩提山」では平成 16 年度より計画的な史跡整備を実施しており、今後生涯学習プログラムの開発なども実施していきます。

◇瀧蔵坊整備事業

○重要文化的景観「求菩提の農村景観」は福岡県で唯一選定されたもので平成 27 年度から計画的に景観保全に必要な農業施設の整備を開始しています。

◇産家地区農業用水路整備事業

○「豊前神楽」は重要無形民俗文化財として平成 28 年（2016）に国の指定を受け、市内では6 団体が継承しています。今後、後継者の育成を含め後世に伝承するための取組みを推進し、併せて将来はユネスコの世界無形文化遺産への登録を目指し、文化庁とも連携して取組みを進めてまいります。

◇九州の神楽ネットワーク協議会での活動
◇福岡県豊前神楽保存連合会の運営

・文化財の活用を図るため未指定文化財を含めた活用の提案を行います。
◇「歴史文化基本構想」の策定

・伝統芸能の伝承と地域活性化の方策として、情報発信や必要な支援を行います。
〇大富神社春季神幸祭（八屋祇園）
〇宇島祇園
〇松江祇園
◇伝統芸能等助成事業
◇民俗文化財調査事業（山田の感応楽指定調査）

②教育普及活動

・求菩提資料館では修験道文化や地域文化の情報発信拠点として様々な活動を行います。
◇求菩提修験道関係資料の収集、調査、研究、収蔵
◇特別展、企画展、ミニ企画展を通じた情報発信
◇市民歴史講座、各学校等への出前講座の実施
◇小学校高学年への副読本「求菩提」の配布と活用
◇史跡ガイドボランティアの育成と活動支援

・埋蔵文化財センターでは市内から発見された考古資料を中心に、地域の歴史をわかり易く紹介し学習活動を支援します。
◇考古資料、民俗資料の調査、収集、収蔵
◇常設展による歴史学習の支援
◇子ども歴史講座の実施
◇小学校への出前歴史教室の実施
◇企画展の実施

４）豊前市都市計画マスタープラン（平成 23 年度～42 年度）

目標年次を平成 42 年（2030）に設定し、豊前市の都市区域を中心に全市を対象とした計画を策定しています。

将来都市像を『京築東部地域の中心として、地域資源を活かした「賑わい」と「安らぎ」の共存するまち･人づくり』としています。

市内の各地域が有する自然や文化･歴史など独自の個性をこれまで以上にまちづくりへ積極的に活用し、快適かつ楽しめる空間を創出することにより地域そして市全体の魅力の向上を図るとしています。北部の市街地は都市機能の充実や工業や観光などの産業を活かした地域づくり、東九州自動車道の豊前 IC 周辺は、豊かな自然を活かしながら豊前の新しい顔としての地域づくりを進めるとしています。一方求菩提をはじめとした山間部は、その雄大な自然および修験道をはじめとした文化･歴史を活かしたふれあい交流空間や景観計画にもとづいた景観の形成を図り、また周防灘が広がる海岸部は、工･水産業と豊かな自然が共存する親水空間としての整備を推進するとしています。

＜将来目標＞

①明確な土地利用を計画する

②将来のまちの規模に適した人にやさしい交通網の整備を図る

③地域振興、地域の活性化を目指す

④高齢者、身障者に配慮したまちづくりを行う

市全体の都市構造として「やま」「まち」「うみ」に分け、地域別構想ではそれぞれの地域の将来目標等を示しています。

都市計画マスタープランの地域別構想

地　域	地域の将来目標
宇島・八屋地域	Ⅰ．賑わいのある豊前および京築の中心地域づくり Ⅱ．ふれあい、支えあうコミュニティのある地域づくり
三毛門・千束・黒土地域	Ⅰ．豊かで健やかな人を育む文化･教育の盛んな地域づくり Ⅱ．快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり
山田・大村地域	Ⅰ．快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり Ⅱ．伝統的な芸能や歴史等を活かした文化の香り高い地域づくり
角田地域	Ⅰ．身近な水や緑とふれあえ、ゆとりと安らぎを感じる地域づくり Ⅱ．農林水産業などを活かした豊かで活力ある地域づくり
横武・合河・岩屋地域	Ⅰ．地域の資源(自然や歴史)を活かした賑わいあふれる地域づくり Ⅱ．地域の自然を保全し、環境と共生した健康･衛生の地域づくり

５）豊前市景観計画（平成 25 年（2013）改訂）

豊前市全域を景観計画区域とし、求菩提地区を景観形成重点地区に定めています。計画では良好な景観の形成に関して、「テーマ：自然と人の営みが育む、歴史と文化の景観づくり」を方針としています。

＜目標＞

1 山と海の大地形に抱かれた 自然の豊かさが感じられる景観づくり

2 人々の営みが支える 活力あるなりわいの景観づくり

3 修験道と八幡信仰の歴史を伝える 文化の景観づくり

4 交流の歴史が息づく みちの景観づくり

5 未来につなぐ 輝きのある都市景観づくり

＜基本方針＞

1 広がりの感じられる眺望景観を守り育てます

2 多様な生態系を育む豊かな自然景観を守り育てます

3 豊かな恵みがもたらすなりわいの景観を守り育てます

4 奥深さのある歴史的文化的景観を守り育てます

5 人々のなりわいとともに伝わる祭礼景観を守り育てます

6 まちの発展を物語る交流基盤の景観を守り育てます

7 新しい都市づくりに向けた景観を創り育てます

市域を「①山と谷筋の景域」「②里の景域」「③街道の景域」「④港と近代化の景域」と 4 つの景域に分け、景観形成の方針と基準を定めています。

求菩提地区は景観形成重点地区として、文化的景観と調和した落ち着きと安らぎのある景観を形成するために歴史的資産との景観的調和を図り、文化財保護地域等にふさわしい景観の創出を心がけるとされています。景観条例では一定規模以上の建築物の建築や工作物の建設、開発行為や土地の形質の変更などの場合には市へ届出を出すことになっています。

６）豊前市　まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年（2015））

国は平成 26 年（2014）12 月に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で 50 年後の人口を 1 億人程度で維持することを目指し、その達成に向けた 5 年間の施策の方向性を示しています。豊前市もこれを受けて、長期的・継続的な人口減少に歯止めをかけ、将来に向けた計画的なまちづくりを展望するための方向性を示すため、豊前市人口ビジョンを策定しており、2040 年の目指すべき人口規模を概ね 20,000 人としています。また、総合戦略では取組み方針として以下の 3 つを掲げています。

①交流人口（観光振興）の獲得について

②教育・文化・スポーツの振興について

③一次産業の振興について

その中で、交流人口（観光振興）の獲得では、施策内容の地域資源に森林セラピー、求菩提山、文化的景観、神楽、水産振興施策等の活用を挙げています。また、「知ってみらんで郷土の文化活用事業（伝統文化を通じた郷土の歴史とふれあい）」では、小学校高学年と中学校に郷土文化を紹介する副読本や、地域文化とのふれあいを通じて、故郷の優れた文化を体験するための環境整備を挙げています。

２．歴史文化基本構想の基本理念･基本方針

これまでの経緯と今後の課題を踏まえ、豊前市歴史文化基本構想の基本理念とその基本方針について以下の通り整理します。

－基本理念－

文化財とはその地域の風土により形成され遺されたものであるから、豊前という地域の歴史と人々の生活、風習をよく理解し、その特徴を的確に把握することが必要である。そしてそれらを地域の関連文化遺産群として位置づけ、その本質的な価値を評価し、今後の保存と継承、活用について明らかにすることが求められている。

こうした前提に基づき、豊前市の歴史文化の特質を明らかにするとともにその継承の在り方を示すマスタープランとして「豊前市歴史文化基本構想」を策定するものとする。

－基本方針－

１　豊前市に遺される文化財について指定、未指定を問わず一定の把握を行う。
２　把握された文化財を関連文化遺産群として整理し、包括的な保存と活用の方針を示す。
３　それぞれの関連文化遺産群については、豊前市の歴史的な特性を示すものとして広く市民に周知する。
４　その上で地域での文化財保護が官民協働の取組みとして推進できる体制づくりを目指す。
５　今後、本構想によって保存・活用を図る関連文化遺産群が適切に継承されるよう必要な措置を講じるものとする。

２章　豊前市の概要

１．自然環境

（１）位置

豊前市は、福岡県の東部に位置し、東は築上郡吉富町と上毛町に、西は築上郡築上町に、南は大分県と接し、北は周防灘に面しており、北九州地域の南に位置しています。総面積は 111.10ｋ㎡ となっています。

市域面積の約 7 割を占める山岳丘陵地は、九州北部の筑紫山地の東端であり、犬ヶ岳（標高 1,131m）を中心とした豊北山地は筑豊地域との境をなす雄大な山容を誇ります。北東の平野は豊前平野の一部となっており、大分県側を流れる山国川（一級河川）下流域に広がる穀倉地域の一角を占めています。

北九州市中心部とは約 43km、隣接する中津市の中心部とは、約 7km の距離にあります。

豊前市の位置図

（２）地形・地質

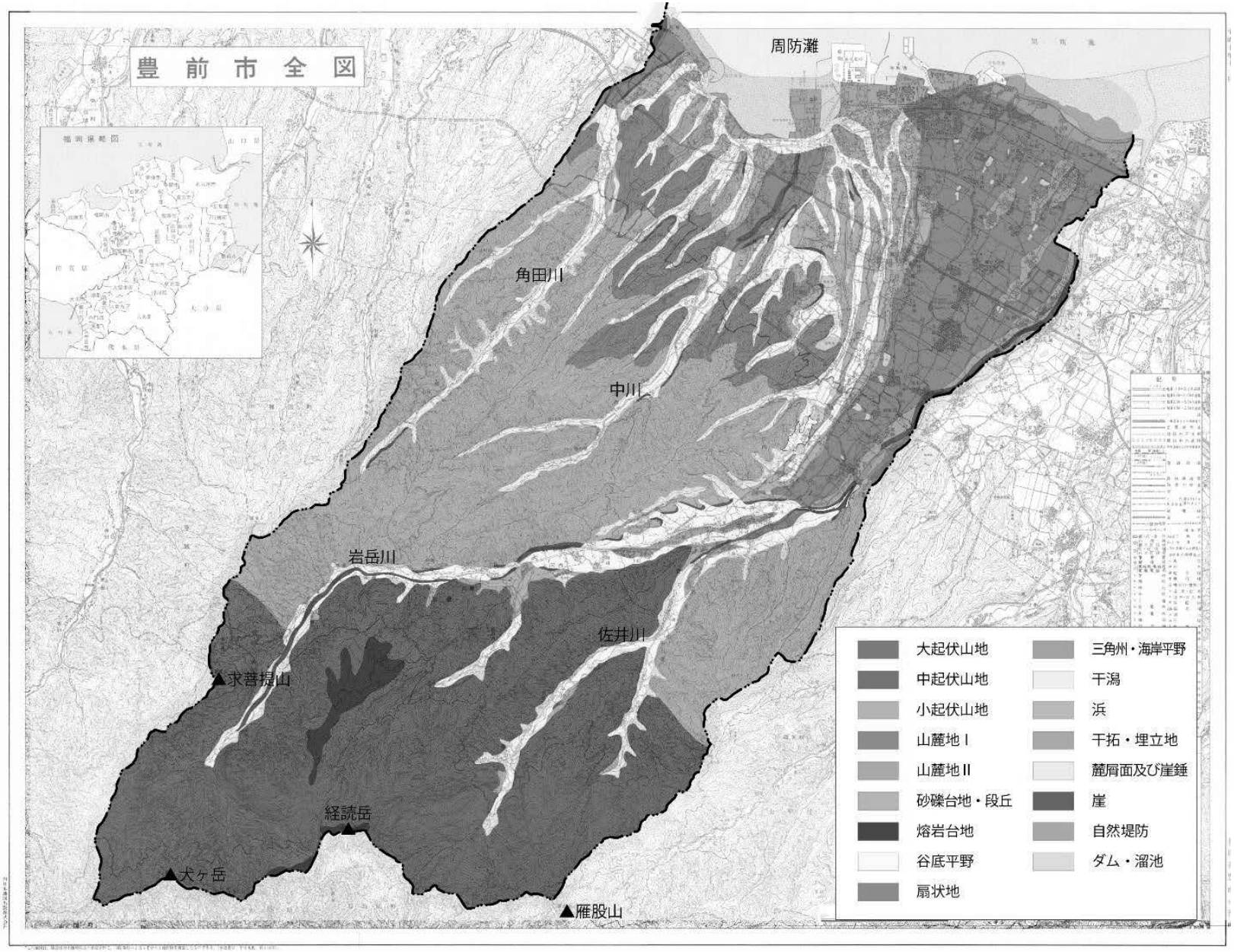
豊前市は、南と北を底辺とする細長の平行四辺形の形状をしています。北は周防灘に面し、南には英彦山に連なる犬ヶ岳（1,131m）、経読岳（992m）、雁股山（807m）などの山々がそびえ、西にも求菩提山（782m）などの山並みが走っています。市域は、これら南西の山々と、そこから伸びた山稜と急峻な谷筋、そして北東に開けた平野部からなっています。

求菩提山から経読岳までのラインから南西にかけては、筑紫溶岩と呼ばれる輝石安山岩の地質であり、他の山地・丘陵地の大半は凝灰角礫岩、平地部は沖積層の砂・礫・粘土となっています。また、海岸部の干拓・埋め立て地などは砂層が厚くなっています。

（３）水系

角田川、中川、岩岳川、佐井川は小河川を集めつつ、山地を侵食し狭隘な谷をつくり北東に流れ、周防灘に注ぎます。犬ヶ岳の麓から流れ出た岩岳川は、最もその特徴を示しています。経読岳と雁股山の谷間を源にする佐井川は、下流では扇状の沖積平野を形成し、周防灘に向かい、この平野は豊前市の平地の大半を占めており、豊前平野の一部となっています。また、降水量が少ないことから、ため池が多いことも特徴です。

犬ヶ岳上空より周防灘を望む

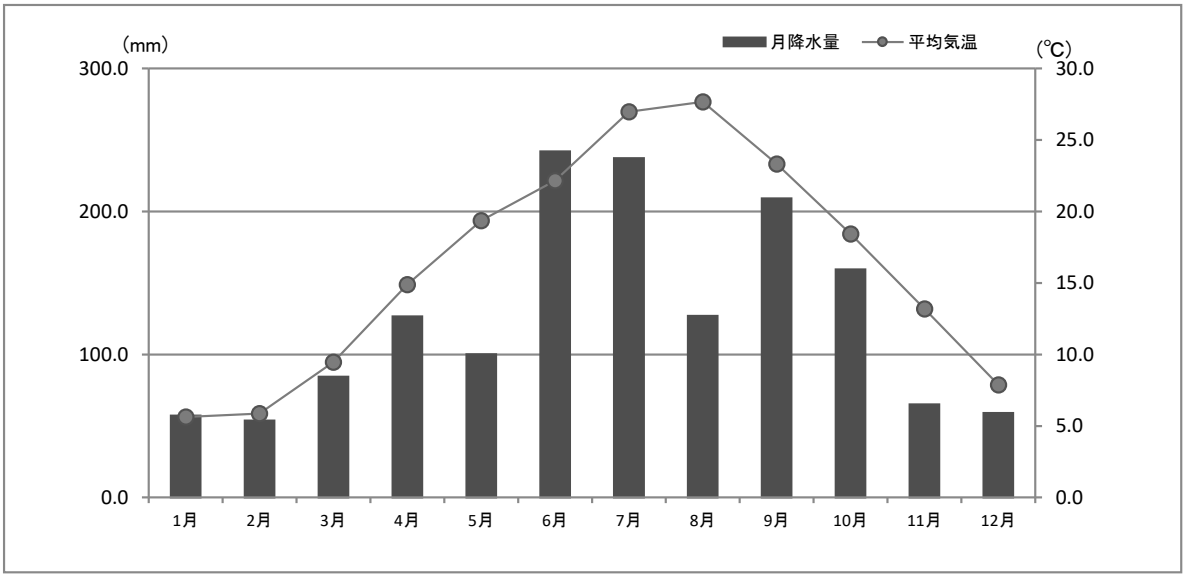


【地形図】　（資料：5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査）

（４）気候

気候は、瀬戸内海型気候区に属していますが、その最も西端に位置するために日本海型気候との中間的な性格を持っています。

豊前市から最も近い気象庁観測点（アメダス）は大分県中津市にあり、そのデータでは過去5年間（平成26年（2014）～平成30年（2018））の年平均気温は16.0℃。年間降雨量は1,521㎜となっています。



【気象データ（気象庁 2014～2018 平均値　中津）】　（気象庁 HP 最新の気象データ）

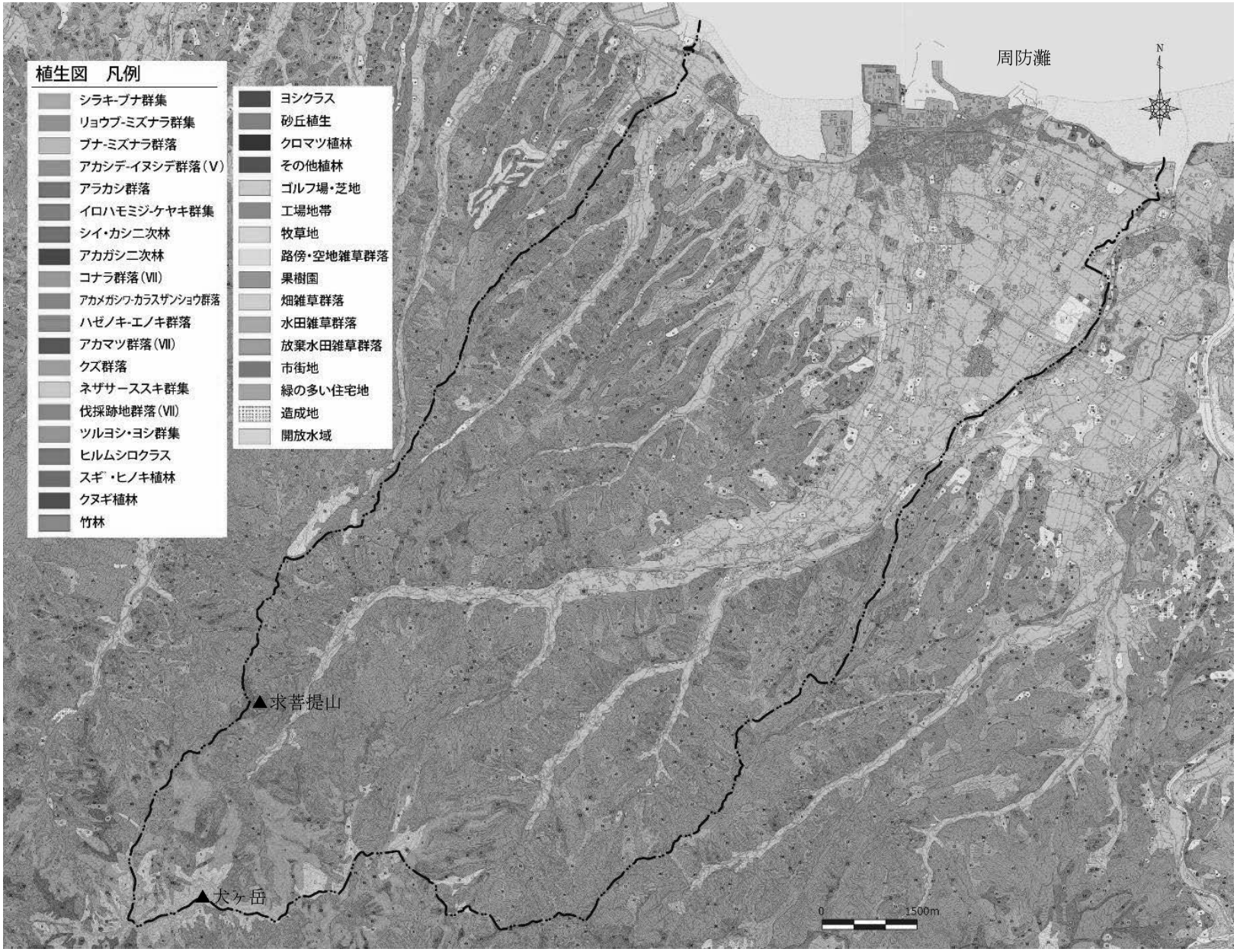
（５）植生・植物

豊前市域の約7割を占める森林の植生は、その標高により落葉広葉樹林（標高850m程度以上）と、常緑広葉樹林に大きく２つに分けられます。

犬ヶ岳、経読岳などの標高が高い山の尾根部では、ツクシシャクナゲの群落、その下部の山腹上部が自然度の高いブナ、ミズナラ林、さらにその下部の山腹中央部ではシデ林となっています。

常緑広葉樹林は、山腹の中央部では、アカガシ林となっており、その下部には、ツブラジイやカシがあり人手が入っています。アカマツ・コナラなどの陽地性の樹木が混じる雑木林がありますが、アカマツはマツノザイセンチュウ病によって現在はほとんど枯れています。また、雑木林にはアカメガシワやハゼがあります。

平野部の約90%が耕作地になっていますが、各所にある神社の社叢には常緑広葉樹のイチイガシやクスノキが自然植生として残っています。また、標高が高い山間部の川辺にはツルヨシが自生し、中流から下流にはヨシが自生しています。



【植生図】（自然環境保全基礎調査　環境省自然環境局生物多様性センターより）

（６）動物

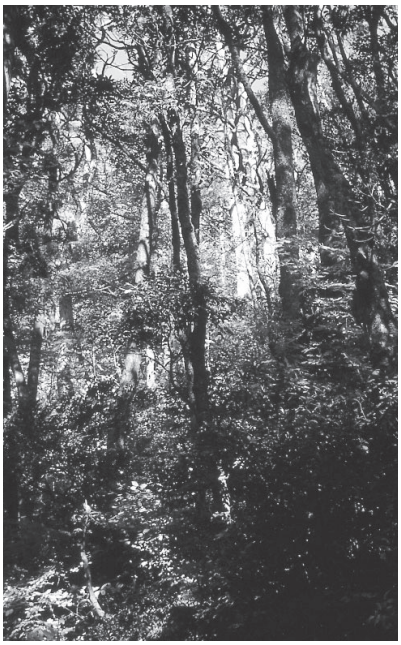
山地の鳥類は、夏季から秋にかけて、カッコウ、ホトトギス、ツツドリ、カケス、ウグイス、ヒヨドリなどがみられます。平野部では、アオスジアゲハなどのチョウ類、ハムシ類、カミキリムシ類などの昆虫がみられ、メジロ、アオジ、ヒヨドリなどの鳥類も生活しています。

また、豊前市において絶滅の危機に瀕している種としては下のものがあげられています。

絶滅危惧ＩＡ類 （ごく近い将来に野生での絶滅の危険性がきわめて高い種）	コオナガミズスマシ（昆虫類）　サツキマス（アマゴ）（魚類）
絶滅危惧ＩＢ類 （近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種）	ウラギンスジヒョウモン（昆虫類）　エゾミドリシジミ（昆虫類） ヒカゲチョウ（昆虫類）　カワスナガニ（甲殻類その他） アオギス（魚類）　チクゼンハゼ（魚類）　ニホンウナギ（魚類） イチョウシラトリ（貝類）　フルイガイ（貝類） ヤチヨノハナガイ（貝類）　マルテンスマツムシ（貝類）

（福岡県レッドデータブック 2014 年版より）

犬ヶ岳ブナ林



求菩提広葉樹林

犬ヶ岳シデ林

ツクシシャクナゲ（国天然記念物）

（７）自然景観

・求菩提山

豊前市の南西にそびえる標高 782ｍの円錐状の山です。かつては活火山であり、その独特な山容は山麓から眺めると心に迫る印象的なもので、「天狗の山」「修験者（しゅげんじゃ）の山」と古くから信仰を集め、修験（しゅげん）の場となりました。耶馬日田英彦山国定公園に含まれており、四季折々にその表情を変化させて、ヒメシャガ、ボダイジュなどが有名です。

山頂には巨石群が並び、カシの巨木も生え、霊場に相応しい雰囲気を醸し出しています。

・犬ヶ岳

ブナの原生林がうっそうと茂り、山腹にはシオジ林の他にシデ類が生えています。

春はツクシシャクナゲ、ドウダンツツジ、秋は紅葉、冬は雪景色と四季を通じて、景色を楽しめます。

・周防灘の干潟

豊前市を含む周防灘の干潟は、約 55km^2 となり、生物多様性の観点から重要度の高い海域に面しています。コチやキスなどの浅い沿岸に生息する魚類を始め、シオマネキやガザミ、カブトガニなどの甲殻類、マテガイ、バカガイ、アサリ、シオフキなどの貝類などが見られます。鳥類では、ダイゼン、キョウジョシギ、ハマシギ、チドリ、ガン、カモなどの春秋の渡りや越冬期の個体数が多く、他に、ヨシガモの飛来数は全国でも有数な場所となっています。

犬ヶ岳

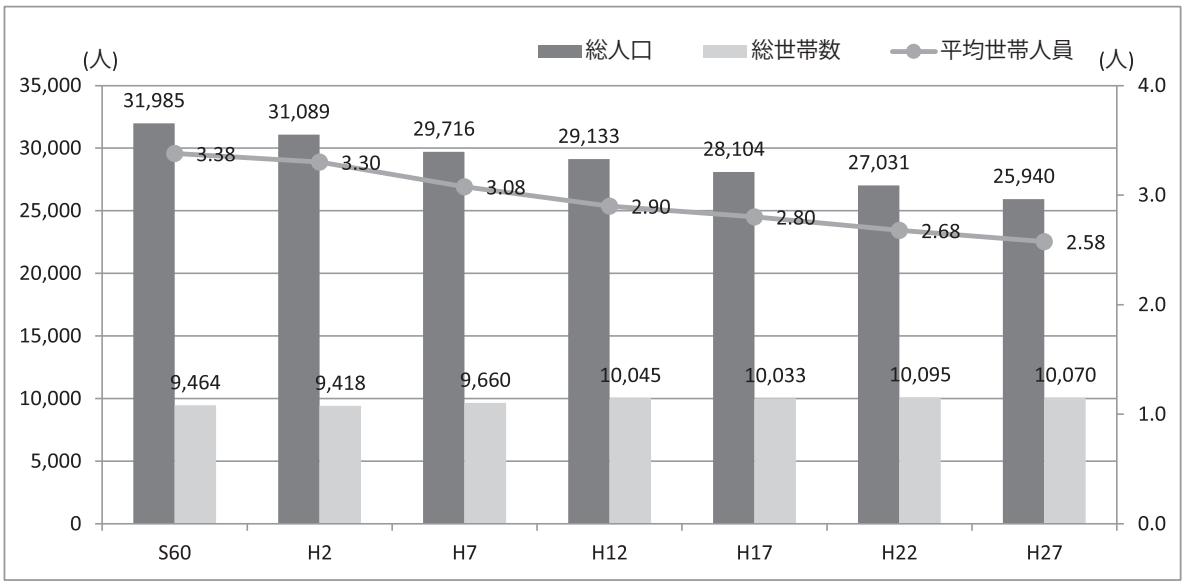
求菩提山

周防灘の干潟（三毛門（みけかど）海岸より）

２．社会環境

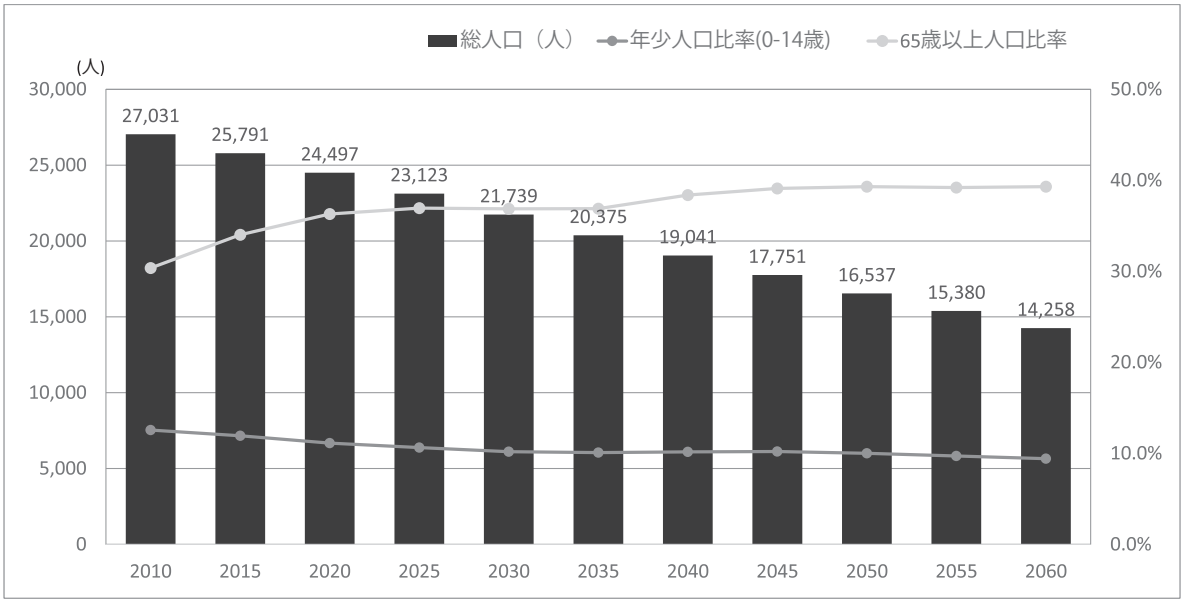
（１）人口

平成 27 年（2015）国勢調査では、豊前市の総人口は 25,940 人 で、平成 22 年（2010）から平成 27 年（2015）の 5 年間に 1,091 人減少しています。世帯数は 10,070 世帯で、平成 22 年（2010）から平成 27 年（2015）の 5 年間に 25 世帯減少しています。人口は 30 年前より 6,000 人以上減少しています。世帯数は平成 22 年（2010）まで微増でしたが、平成 27 年（2015）では減少に転じています。一世帯当たりの人数も 2.58 人と減少傾向にあり、核家族や単身世帯の増加が進んでいます。



（資料：国勢調査）

【人口・世帯数の推移】



【平成 72 年（2060）までの推計人口・推計人口比率】　（資料：豊前市資料）

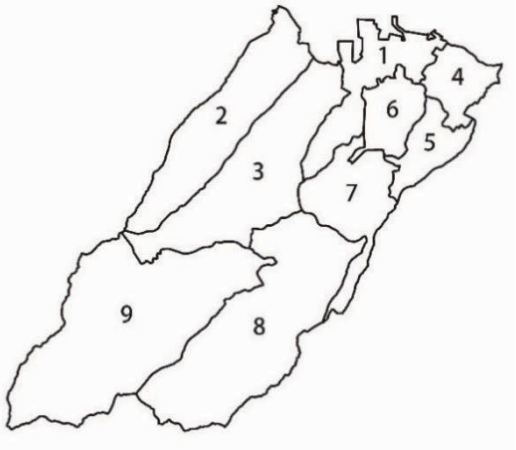
将来人口については、「豊前市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で 2040 年を区切りに 2060 年までの推計人口を示しています。市の総人口は年々減少し 2040 年には約 20,000 人、2060 年には約 14,300 人となることも予測されています。人口構成比も、65 歳以上の高齢者割合は現在の約 30%から 2040 年には約 38%に増え、その後 39%台で推移することが見込まれています。

地区別人口（旧町村別）を見ると、八屋（はちや）・三毛門（みけかど）・千束（ちづか）地区など北部の平地に人口が集まり、合河（ごうがわ）・岩屋（いわや）地区など山間部は人口が少なくなっています。平成 25 年（2013）ら平成 29 年（2017）にかけての全市の人口は、27,349 人から 26,160 人と 1,189 人減少しており、どの地区も減少していますが、特に岩屋・山田・合河地区では人口減少の割合が高くなっています。

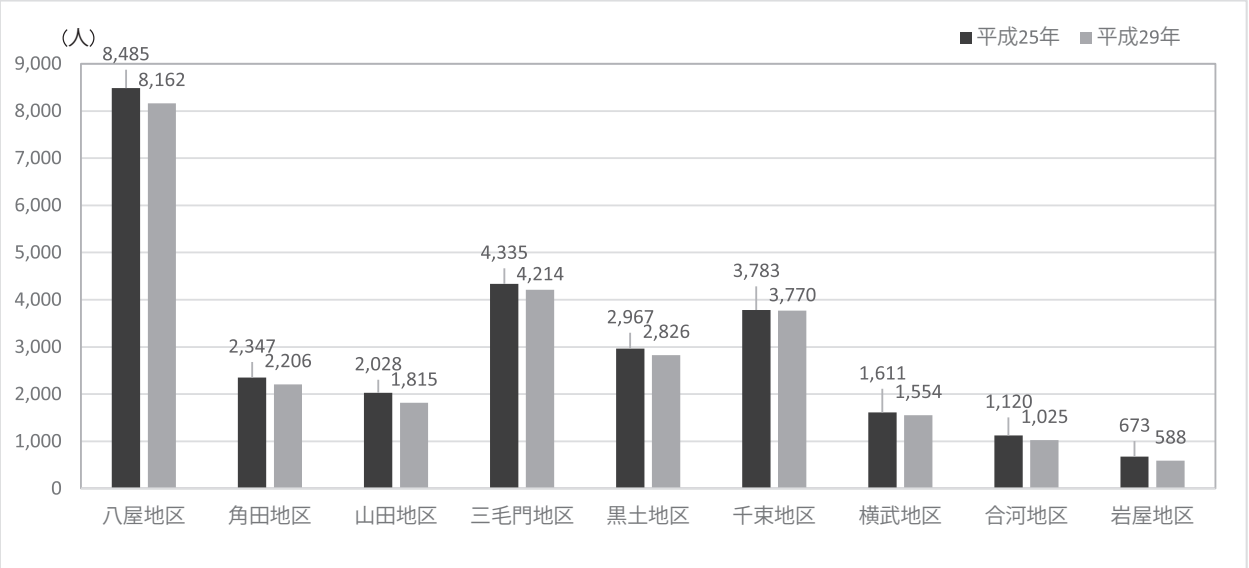
地区別人口の推移

		平成25年	平成29年	増減数（割合）	
1	八屋地区	8,485	8,162	−323	−3.8%
2	角田地区	2,347	2,206	−141	−6.0%
3	山田地区	2,028	1,815	−213	−10.5%
4	三毛門地区	4,335	4,214	−121	−2.8%
5	黒土地区	2,967	2,826	−141	−4.8%
6	千束地区	3,783	3,770	−13	−0.3%
7	横武地区	1,611	1,554	−57	−3.5%
8	合河地区	1,120	1,025	−95	−8.5%
9	岩屋地区	673	588	−85	−12.6%
	計	27,349	26,160	−1,189	−4.3%

（資料：住民基本台帳）



地区区分図（旧町村）

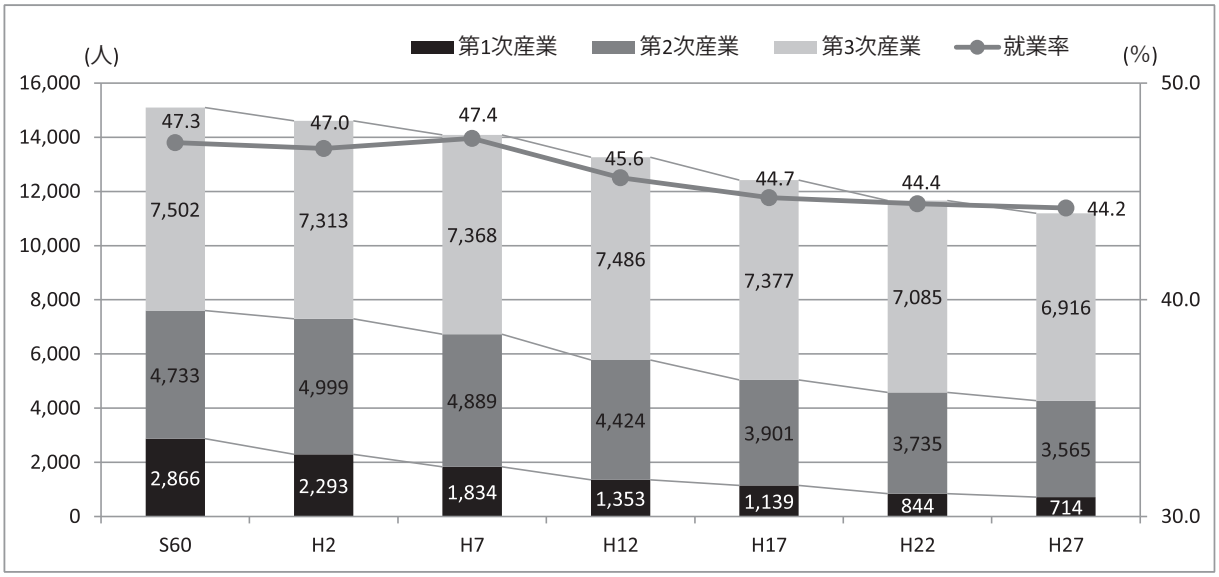


【地区別人口の推移】

（２）産業

産業別就業者数の内訳は、平成 27 年（2015）では、第 1 次産業 6.4%、第 2 次産業 31.8%、第 3 次産業 61.8%となっています。特に第 1 次産業は 1,000 人を割っています。平成 22 年（2010）と平成 27 年（2015）をみると、第 1 次産業の割合は 0.8%減少していますが、第 2 次産業の割合は 0.2%の減少と第 3 次産業は 1.1%増加しています。どの産業も就業者数が減少していますが、特に第 1 次産業の就業者数の減少が大きくなっています。

また、就業率も 44.4%から 44.2%に減少していることから、高齢者の割合が増えていることが考えられます。



【産業別人口の推移】

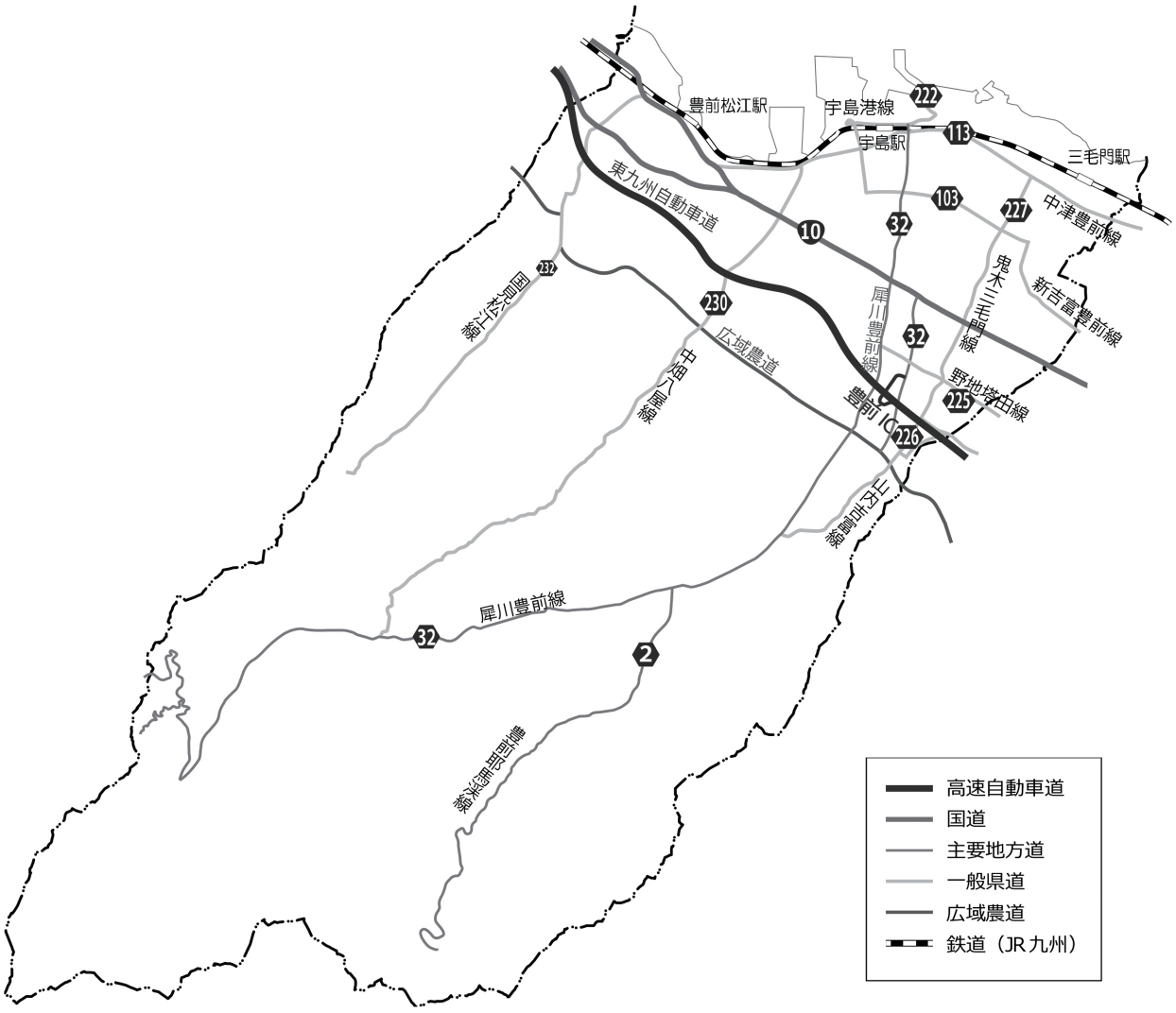
（資料：国勢調査）

（３）交通

国道 10 号は九州東部を通り、北九州市から鹿児島市までつなぐ主要な道路です。市域では市街地である北東部を通り、平成 5 年(1993)に椎田道路から連絡する国道バイパスが通されました。平成 28 年（2016）には東九州自動車道（県内区間）が完成し、市内には豊前インターチェンジが開設され北九州方面へは椎田南インターチェンジが隣接するなど高速道路を利用した利便性が向上しています。福岡市から 1 時間 15 分、北九州市から 40 分、また北九州空港までは 30 分で、東京まで 2 時間 30 分程でアクセスできます。

鉄道は、北東部に県道 113 号中津豊前線（旧国道 10 号）と平行して JR 日豊本線が走っており、市内には豊前松江（しょうえ）駅、宇島（うのしま）駅、三毛門駅の 3 駅があります。宇島駅は特急が停車し、小倉駅まで約 30 分、博多駅まで約 1 時間 20 分、別府駅まで約 50 分、大分駅まで約 1 時間でつながれています。

路線バスは、岩屋線など 4 路線で豊前市バスが運行しています。また、豊前市役所と中津市民病院をつなぐ豊前・中津コミュニティバスが 1 日 4 往復しています。



（資料：豊前市資料）

【交通網図】

（４）教育

豊前市の教育環境として、現在、幼稚園 1 園、小学校 10 校、中学校 4 校、高等学校では福岡県立青豊高校が設置されています。

少子化などで廃校となった 6 校の小学校の校舎や跡地のうち、岩屋小学校と合河小学校は公民館に、上川底小学校は地元の創作工房「もみじ学舎」に、郷山小学校は温泉施設「卜仙の郷」に活用されています。

（５）文化施設

豊前市内の主な文化施設として、豊前市市民会館、豊前市立図書館、豊前市立多目的文化交流センター、豊前市立埋蔵文化財センター、求菩提資料館などがあります。

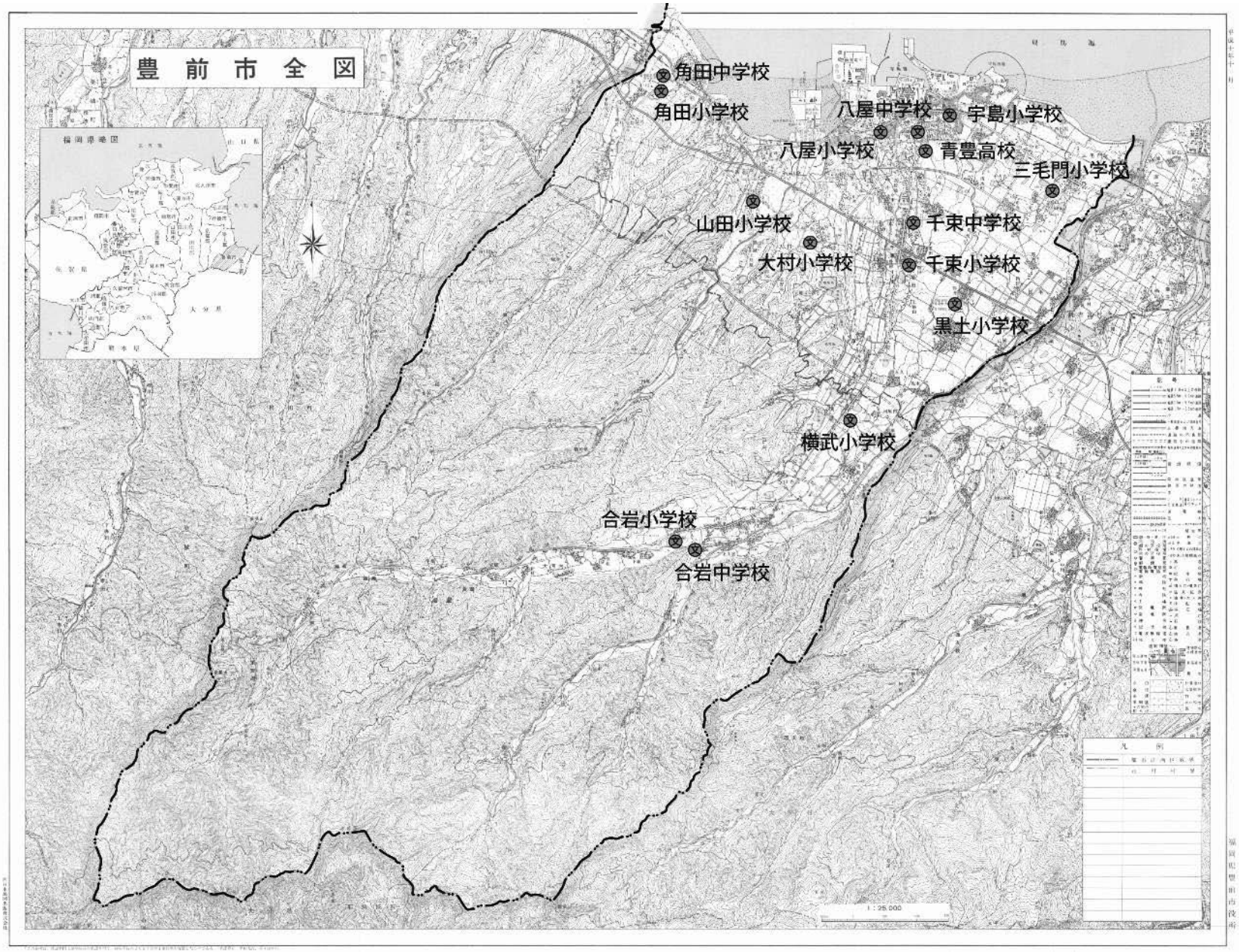
図書館、埋蔵文化財センター、多目的文化交流センターは平成 15 年（2003）に福岡県立青豊高等学校が開校した際、統廃合された福岡県立築上北高等学校の施設を利用して、平成 22 年度に開設されました。

図書館は、一般的な図書館機能の他に、郷土資料の閲覧、大小会議室、ボランティア団体共有スペースが設けられています。

多目的文化交流センターはスポーツや各種の行事に利用され、京築神楽定期公演を実施しているほか、民俗芸能資料の展示をおこなっています。

（６）運動施設

豊前市には、北部の八屋に市民体育館、武道館・弓道場、能徳総合運動広場（ミニグラウンド、テニスコート）、市民球場、豊前市民プールがあります。また、大村には天地山グラウンドがあり、南部の下河内には豊前市南部体育施設（南部グラウンド）があります。


豊 前 市 全 図
福岡県地図
角田中学校
角田小学校
八屋中学校
宇島小学校
八屋小学校
青豊高校
三毛門小学校
山田小学校
千束中学校
大村小学校
千束小学校
黒土小学校
横武小学校
合岩小学校
合岩中学校
凡 例
1：25,000

【学校位置図】

豊前市全図
豊前市民プール
豊前市市民会館
豊前市立図書館
豊前市立埋蔵文化財センター
豊前市立多目的文化交流センター
市民体育館
武道館・弓道場
能徳運動広場
市民球場
ハートピアぶぜん
ヤルディぶぜん
天地山グラウンド
南部体育施設（南部グラウンド）
求菩提資料館
施設
公園
福岡県略図
豊前市市民会館
豊前市立図書館
豊前市立多目的
文化交流センター
豊前市立埋蔵
文化財センター
ハートピアぶぜん
ヤルディぶぜん

【主な公共施設】

（７）観光施設（宿泊、温泉、集客）

豊前市の主な宿泊施設は、ホテル 1 軒（HOTEL 築上館）、旅館 2 軒（求菩提温泉 卜仙の郷、割烹旅館 宇島汐湯）、民宿 1 軒（農家民宿 まんてん星）の計 4 軒があり、そのうち卜仙の郷とまんてん星は求菩提山麓の篠瀬地区で、他の 2 軒は JR 宇島駅周辺の市街地で営業しています。また、市内には卜仙の郷を含む 4 つの入浴施設（豊前温泉 天狗の湯、畑冷泉館、汐湯の里（豊前市老人福祉センター）、求菩提温泉 卜仙の郷）があり、安らぎと寛ぎを提供しています。

さらに、四郎丸地区の国道 10 号沿いには、新鮮な農作物や海産物、多様な加工品などが揃う道の駅「豊前おこしかけ」があり、豊前観光の拠点施設として連日賑わいを見せるほか、付近にある豊前フルーツランドでは、いちごやぶどうなど四季折々のフルーツ狩りが楽しめます。さらに、平成 28 年（2016）には宇島地区の漁港前に、獲れたて魚介の直売所とレストラン併設した「うみてらす豊前」がオープンし、豊前海の魅力を存分に楽しめる施設として人気を集めています。

畑冷泉館

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動を行うグリーンツーリズムも行っています。宿泊する滞在型と日帰りで農作業等を体験する日帰り型があり、篠瀬地区のまんてん星は農家民泊を行っています。

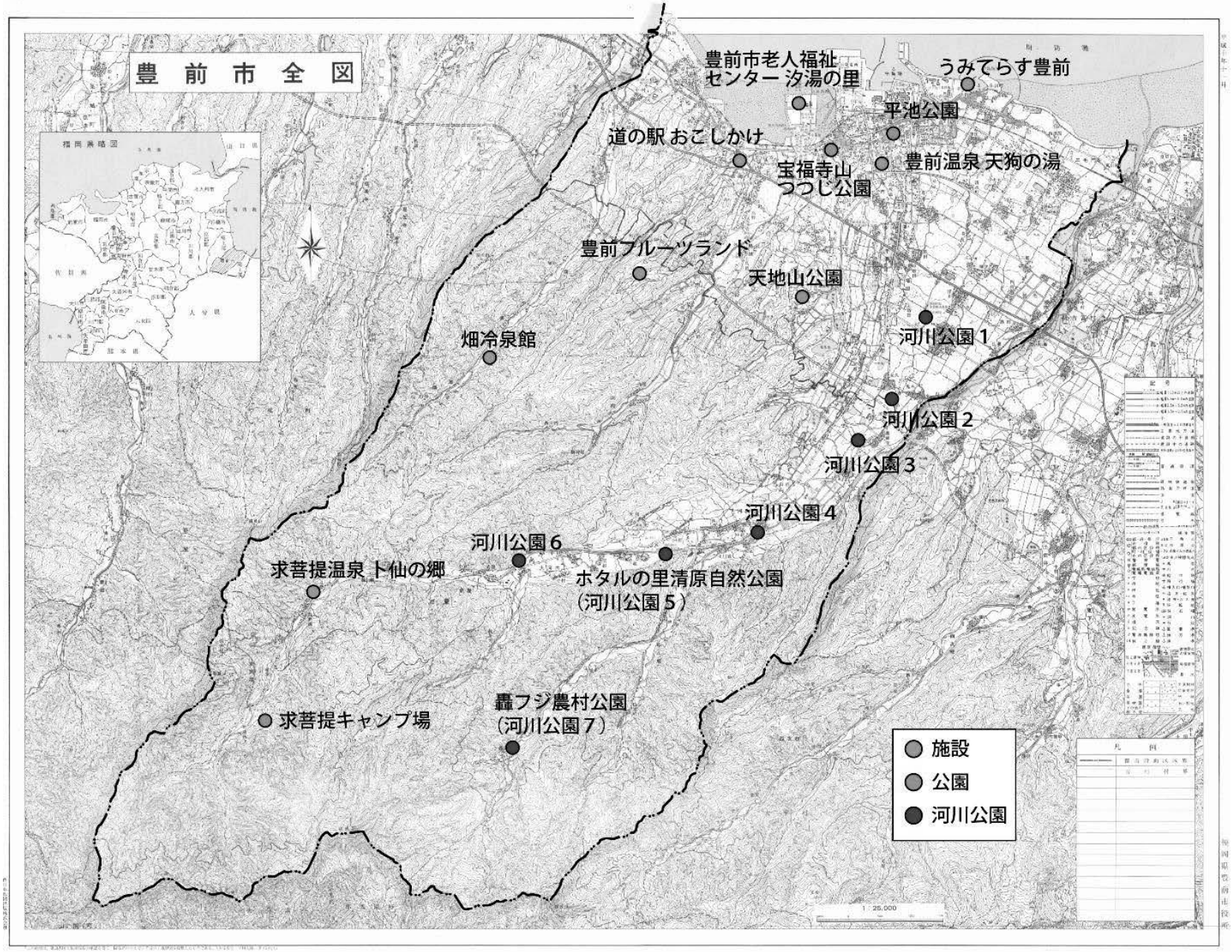
（８）公園

豊前市の主な公園として、天地山公園、平池公園、清原（せいばる）自然公園などがあります。天地山公園は約 20ha の広さと野外音楽堂などをもち、日本の都市公園 100 選に選ばれています。平池公園は市街地にあり桜祭りの会場となります。ホタルの里と名付けられた清原自然公園は、初夏にはホタル祭りが開催されています。

また、岩岳川沿いには、豊前病院付近から合岩小学校までの間に 6 つの河川公園が設置され、佐井川上流には、轟（とどろ）フジ農村公園があります。

清原自然公園

轟フジ農村公園


豊　前　市　全　図
豊前市老人福祉センター 汐湯の里
うみてらす豊前
平池公園
道の駅 おこしかけ
宝福寺山つつじ公園
豊前温泉 天狗の湯
豊前フルーツランド
天地山公園
畑冷泉館
河川公園１
河川公園２
河川公園３
河川公園４
河川公園６
求菩提温泉 卜仙の郷
ホタルの里清原自然公園
（河川公園５）
求菩提キャンプ場
轟フジ農村公園
（河川公園７）
施設
公園
河川公園

【主な観光施設・公園】

（９）景観

豊前市の南部には、犬ヶ岳、求菩提山をはじめとする緑豊かな山々が連なり、北は周防灘に面しています。山から海へ向かって岩岳川をはじめ河川が流れ、市域の北部は広い平野となっています。

このような自然地形の特徴を活かして、谷筋の斜面地や丘陵地では果樹や茶が栽培され、谷あいや平地には水田地帯の中に農村集落が点在する田園風景が広がっています。

南西部の山地は、火山岩特有の奇岩と山岳信仰とがあいまって中世以降は豊前市のシンボルである求菩提山を中心に修験道場として栄えた歴史を有し、今もその遺構が残り、周辺の棚田などの農村景観と一体となった文化的な景観が見られます。

海沿いには、古くは古代の官道から近世の中津街道などの豊後国へつながる交通路がとおり、宿場町や街道沿いには民家も建ち並び、宇島港も築港されました。

また、近代以降は鉄道の開通や宇島港の拡充などによって商業や工業化も進み、宇島駅周辺の商業地や海沿いの発電所をはじめとする工業地帯があります。

以上のように、豊前市の豊かな自然から景観は大きく分けて４つの景域に分けられ、それぞれの特徴を示しています。

＜4 つの景域＞

①山と谷筋の景域

耶馬日田彦山国定公園エリアを基点に周防灘へと下る山稜は、九州でも有数の長大な距離を誇る地形で豊前市域の特徴的な景観です。また、豊前修験道の主要な修験の山である求菩提山を中心とした特徴的な山容と、谷筋に残された八幡信仰の宗教文化を伝える神社等の建造物群は自然景観と相俟って信仰の歴史を醸し出す景観です。

②里の景域

重要文化的景観である「求菩提の農村景観」は日本の原風景そのもので、農林業に生きてきた人々の生活文化を今に伝えます。そして里に営まれた集落には今も鎮守の森が息づき、伝統芸能である「豊前神楽」が里の景観を演出します。

③街道の景域

古く官道として宇佐への往来を担った路は、近世の街道へとつながりその沿線に在郷町として伝統的な町並みを形成しました。今もその面影は落ち着いた景観を形成しており、街道から見渡すことのできる広大な周防灘の干潟と相俟って、古の情景を呼び覚ます。

④港と近代化の景域

江戸時代に造られた港は当時の町並みを今に伝え、街道と共に港町独特の景観を形成しています。明治時代以降、港は近代化と共に発展し工業化と共に地域経済発展の礎となり、近代化に伴う交通の発達と共に特徴的な景観を残しています。

（10）特産品

豊前市には、海の幸、山の幸、里の幸がそろっています。

・豊前海一粒かき

山からのミネラルが注ぐ豊前海の栄養をたっぷりと含んだかきは、甘く濃厚な味わいと実入りの良さが人気の秘密です。

・豊前本ガニ（ワタリガニ）

豊前海で漁獲され、特に実入りの良いワタリガニだけに与えられる称号が「豊前本ガニ」です。遠浅で広大な干潟の海が育てたワタリガニならではの濃厚な旨みと豊かな甘みが特徴です。

一粒かき

ワタリガニ

・豊前棚田ゆず

冷涼な山間部の棚田で育てられた豊前棚田ゆずは、豊前を代表する果実であり、香りが豊かで、柚子胡椒、みそ漬け、かるかん饅頭、マーマレードなどの加工品にも利用されています。

・豊前茶

日本のお茶の歴史は臨済僧の栄西が 12 世紀の末に中国から持ち帰った茶樹を筑前の脊振山に植えたのが始まりと言われています。そのためお茶は修験道の山であった脊振山と交流のあった北部九州の修験道寺院に薬として伝えられたと考えられます。

求菩提山のお茶は、本山の聖護院や領主へ進物として贈られており、茶人大名として有名な細川忠興からも喜ばれたことが残された礼状から分かります。

・イチジク（とよみつひめ・蓬莱柿）

「とよみつひめ」は福岡県オリジナルの品種です。果実の張りと豊かな甘み、そして熟しても大きく割れない特徴が消費者に好評です。また、「蓬莱柿」はプチプチした食感が楽しめるほか、ジャムなどに加工されています。

棚田ゆず

豊前茶

・イチゴ（あまおう）

あかい、まるい、おおきい、うまい、と 4 拍子そろった福岡県限定のブランドイチゴがあまおうです。大粒で糖度が高く、色つやがよく、酸味が絶妙なバランスを持っています。

・ミカン

海に面した気候を活かしたミカンの栽培が特徴です。「はるみ」「はれひめ」「なつみ」などの品種が人気です。

３．豊前市の歴史的環境

【原始・古代】

豊前市で最初に人類の足跡を認めることが出来るのは、後期旧石器時代（約 28,000 年前）のことです。荒堀大保遺跡のナイフ形石器はその特徴からＡＴ火山灰（約 26,000～29,000 年前）上位に位置づけられるもので、市域の考古学遺物の中では最も古いものです。その後、薬師寺塚原遺跡から発見された「三稜尖頭器」や青畑向原遺跡の剝片尖頭器などが約 24,000 年前の所産と考えられます。さらに後期旧石器時代終末期（約 18,000 年前）のナイフ型石器、細石器の段階では青畑向原遺跡、小石原泉遺跡などの例があげられますが、これらは何れも断片的な資料であり、構造的に遺跡を捉えることは出来ません。

縄文時代に入ると、早期（約 8,000 年前）の段階で押型文土器を伴う吉木常末遺跡が営まれます。楕円押型文を主体とした段階のもので、この他にも数箇所で断片的な資料を認めることが出来ます。その後前期（約 6,000 年前）、中期（約 5,000 年前）の時期についても土器の存在は知られますが、何れも明確な遺構を伴わないことから詳細な部分は言及できません。

こうした考証が可能となるのは後期（約 4,500 年前）の段階で、挾間宮ノ下遺跡では 16 軒の竪穴式住居とともに大量の資料が検出されました。時期は出土した土器や竪穴式住居の構造上の特徴などから、後期中葉（約 3,000 年前）と考えられ、３期にわたる集落の変遷が想定できます。なお、中村石丸遺跡からは九州でも珍しい異形高杯が出土しており興味深いところです。晩期（約 3,300 年前）の資料としては多くを知ることはできませんが、河原田塔田遺跡で竪穴式住居が、また、永久笠田遺跡で包含層から良好な資料が得られています。

弥生時代に入り古い段階での報告は多くありませんが前期末～中期初頭（約 2,300 年前）にかけて良好な資料が得られています。河原田善丸遺跡からは土坑に伴い鉢形土器が出土し、河原田塔田遺跡からは土壙墓から銅戈、祭祀遺構から壺などが出土しています。さらに鬼木四反田遺跡からは銅鏃、銅製鉇などが出土しており、ここからは後期初頭（約 2,000 年前）と見られる小型の銅鏡（蕨手状渦文鏡）なども出土しています。こうした状況は明らかに政治勢力の台頭を示すものであり、旧上毛郡形成の黎明期といえます。この鬼木四反田遺跡は中期中葉（約 2,100 年前）から後期（約 2,000 年前）にかけての拠点集落と考えられ、竪穴式住居 36 軒、貯蔵穴 200 基以上を検出しています。こうした集落は佐井川中流域を中心に形成される特徴を有し、その後、下流域に移り後期後半～終末（約 1,700 年前）にかけての拠点集落である小石原泉遺跡へと繋がってゆきます。

小石原泉遺跡は後背湿地を有する微高地に営まれ、200 軒以上の竪穴式住居が検出されました。佐井川中流域で芽生えた拠点集落はさらに大規模化し、「漢書地理志」にみるクニを髣髴とさせる弥生時代集落が佐井川下流域に出現したのです。

小石原泉遺跡（豊前市史より）

ここではさらに古墳時代から平安時代後期に至るまで営々と集落が営まれますが、同時に律令制施行前夜には炊江郷の推定地である大村天神林遺跡、大村石畑遺跡などでその拠点となる遺跡が見られ、この頃の旧下毛郡内での様子が推定できるようになります。さらに大村石畑遺跡では 8 世紀代の銙帯（かたい）が、荒堀大保遺跡では円面硯が出土するなど周辺に官道に関連する施設の存在を予想させます。そして、佐井川を挟んだ東岸には大ノ瀬官衙（大ノ瀬下大坪遺跡）が設置され、律令体制の中、上毛郡の成立を見ることができます。

その後、垂水廃寺の建立、上毛条里の施行など古代国家成立の中、体制の整備が進められてゆきます。この時期、上毛郡に特徴的なのは大宝 2 年（702）の正倉院戸籍帳に明らかなように渡来系住人の多いことで、こうした様子は、壁付煙道（いわゆるオンドル状）遺構を持つ住居跡が多く見られるなど 6 世紀代の遺跡の特徴からも窺い知ることが出来ます。こうした事実がその後の本地域の変遷にどのように影響し、豊前修験道の成立にどのような役割を果たしたのか現段階では明確には出来ませんが、前提としてこのような歴史的背景を十分承知しておくことは重要だと考えられます。

平安時代の本地域の様子は必ずしも明確ではありませんが、文献、考古学資料の面で見るべきものは多くあります。発掘調査の成果によれば、先の小石原泉遺跡では地鎮祭祀遺構と共に条里遺構に沿う形での居館が確認されまた、荒堀車地遺跡や、大村石畑遺跡などでも方形に区画された居館が発見されました。さらに小石原泉遺跡では龍泉窯系の青磁、白磁に刀、鏡（和鏡）などが伴う土壙墓がまとまって発見されるなど、中世社会に台頭してくる在地領主層の姿の一端を垣間見ることが出来ます。

荒堀車地遺跡（豊前市史より）

【中世】

一方、『宇佐神宮領大鏡』には 11 世紀前半の角田荘成立に関する記述が見られ、『弥勒寺所領注文』には「山田荘ならびに佐留尾別符百廿町」と記されるなど、宇佐神宮の強い影響下にあったことが知られます。また、宇佐の『永弘文書』や中津の『湯屋文書』の記述によれば、豊前国の惣田数 13,300 町のうち公領は 1,686 町で、荘園制がかなり進行していたことが伺えます。このうち「角田荘」は各地に散らばっていた宇佐神宮領を長元 4 年（1031）の宇佐宮の式年造営に際し 1 ヵ所にまとめ成立したものであり、現在の築上郡築上町上り松(椎田)を西の四至とし、豊前市松江付近を東の四至としていたと考えられています。一方「山田荘」宇佐弥勒寺の荘園として知られ『築上郡史』によれば現在の豊前市山田、千束、

大富神社の棟札（室町から江戸時代にかけての社殿造営記録）

横武、合河、岩屋を含む地域とされますが、確実な史料はありません。ただ、「山田荘」の鎮守社として大富神社が勧請されたことは、大富神社の中殿の祭神が応神天皇・仲哀天皇・神功皇后という所謂、八幡神であることからすれば想像に難くないところです。

こうした時代の豊前市域を知るうえで、ひとつのメルクマーク（目印・指標）となるのが平安時代末期から次第に台頭して来た武士の動きです。まず注目されるのが、在地の地頭と称していた大蔵種人とその子板井種遠で、もともと大蔵一族は代々大宰府の付官を務めていて、種人の兄種平を首領とし北部九州の広い範囲にわたって活動をしていました。その本拠は岩門城（現在の那珂川市）で、種人の弟の窪九郎太夫種真は、現在の京都郡みやこ町勝山久保にまた、同じく西郷十郎種連は行橋市西郷に拠点を置き、その子孫には坂本・臼田（築上郡築上町）、青木・塔田（豊前市）、高瀬（行橋市）、黒水（中津市）などの名字を名乗る人々が見えます。こうした事実は大蔵一族の豊前国における勢力を示すものですが、その終焉は早く、源平の争乱に際し平氏方についた大蔵一族は、その所領を没収され豊前での勢力を失うこととなります。

この大蔵一族の後を受け、鎌倉幕府が九州統治のため送り込んだ関東御家人のうち豊前地域に勢力を持ったのが宇都宮一族です。『宇都宮文書』によればその主である宇都宮信房を中心に、その兄弟として筑前山鹿氏の祖となった家政、同じく重房（下毛郡野仲氏）、政房（上毛郡山田氏）、業政（仲津郡西郷氏）、興房（下毛郡深水氏）、直房（上毛郡広津氏）さらに信房の子として信政（上毛郡如法寺氏）、家信（上毛郡八屋氏）などが知られ、正に豊前地域を席巻したと言えます。

他方、鎌倉幕府から豊前国の守護職を与えられたのは少弐氏（武藤氏）で、弘安 2 年（1279）には北条氏が守護職を任じられています。こうした流れは宇都宮一族が豊前地域では大きな勢力を誇りながら、鎌倉幕府の九州支配の中では後塵を拝していたことを示すもので、宇都宮氏の急速な在地化の要因として捉えることができます。

さて、鎌倉時代の大きな出来事として「元寇」を上げることができますが、文永の役で危機感を募らせた幕府は九州の御家人に元寇防塁の設置を行わせ、豊前の御家人は怡土郡の青木横浜を担当することとなります。そして、弘安の役も大型台風の襲来という幸運に恵まれ凌いだものの、幕府にとってこの異国の脅威は益々の深刻なものとなり、同時に文永・弘安の役に対する恩賞の配分も、幕府の頭を悩ませることとなります。こうした政治情勢の中、北条氏の執権政治の確立の過程で生じた政治情勢の変化は、少弐氏の勢力を豊前国から削ぐこととなり、宇都宮一族は一時勢力をとりかえし豊前支配を強めて行きます。しかし後醍醐天皇による天皇親政への回帰は、再び少弐氏を守護職へと導き、鎌倉幕府の崩壊とともに豊前宇都宮氏はその勢力を縮小して行くのでした。

一方足利尊氏に従い反旗を翻した少弐頼尚ら豊前の武士たちは、上洛し転戦を重ねる中で次第に変容し、やがて土着化への道を辿ってゆきます。時に南北朝という動乱の時代でした。

その後、室町時代の豊前地域を支配するのは、中国地方に勢力をもっていた大内一族です。康暦 2 年（1380）には大内義弘が豊前の守護職に任命されたと考えられており、以後、豊後国守護職であった大友氏との争乱の時期を除けば、戦国時代に至るまで大内氏のよる豊前の領国支配は続き、最終的にその勢力は筑前国を含む北部九州を席巻していたと言えます。しかし弘治 2 年（1556）、大内一族は大内義隆の自害事件に端を発した内紛がおこり、これに乗じた毛利元就により滅ぼされることとなり、ここに大内氏による豊前の領国支配は終わりを告げます。

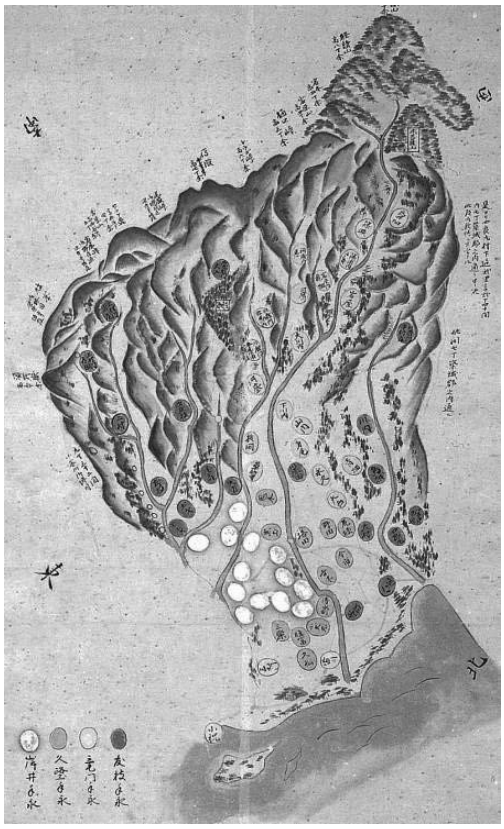
この大内氏の後をねらって、豊前へ進出の足掛かりを探っていたのが豊後国の大友氏でした。大友氏はそれまでも、大内氏との対立を通じて機をうかがっていましたが果たせず、大内氏亡き後、豊前の有力な勢力が毛利側についたのを機に佐田氏を中心として宇佐郡衆にその一掃を命じます。対する山田氏、仲八屋氏、如法寺氏などは山田城に籠もり抵抗しますがついに落城。この後の落人狩を含めた犠牲者は『永弘文書』によれば上毛郡の男女４分の 1（約 800 人）と言われ“アハレナル事”と記されています。豊前の歴史上まれに見る悲劇でした。この事件を境として大友氏の豊前支配は確固たるものとなり、永禄 2 年（1559）大友義鎮は豊前・筑前の守護となります。しかし戦国の世はこうした領国支配を長く続けさせる事なく、永禄 9 年(1566)には再び毛利氏が豊前に勢力を伸ばし、逆に大友宗麟は大内輝弘をたてて周防に攻撃を仕掛けるなど、まさに動乱の戦国絵巻が繰り広げられることとなります。天正 9 年（1578)、耳川（日向）の戦いで島津氏に敗れた大友宗麟は、急速にその勢力を失い、これに乗じて豊前では野仲鎮兼（下毛郡）の動きが活発になってきます。さらに天正 9 年（1580）には筑前秋月氏が豊前に攻め入りますが、豊臣秀吉による「九州下向」は目前に迫っていたのでした。

【近世】

天正 15 年(1587)、豊臣秀吉は島津氏の制圧を最後に九州の大名配置を行い、豊前六郡の領主として黒田孝高が入部します。ここに近世社会の幕開けが告げられることとなり、黒田氏にとって旧来からの勢力である宇都宮一族の存在は看過し難いものでした。黒田氏は領内の検地を実施するかたわら、こうした豊前の旧勢力を駆逐する戦いを繰り広げます。

慶長 5 年(1600)、筑前国へ転封された黒田氏のあとに、細川忠興が豊前一国と豊後二郡の領主として入国します。忠興は小倉城を大規模な城として改造し、城下町の整備を進め本格的な領国経営を開始するかたわら、祇園祭を始めるなど様々な面で豊前国の近世社会の基礎を固めてゆきます。しかし、時代は徳川幕府の全国支配へと大きく動き始めており、外様大名であった細川氏が古来九州の要衝の地であった豊前国に安堵できる由もありませんでした。

寛永９年(1632)、譜代大名小笠原一族が細川氏の領地を3分割する形で転封され、上毛郡は忠真(小倉藩)と長次(中津藩)により分割統治されることとなります。その中で、寛文11年(1671)、小倉藩は築城郡内の22ヶ村を分封(藩主忠雄の弟真方へ分封。一万石。)して新田藩として位置づけます。さらに貞享 2 年(1685)には上毛郡内 26 ヶ村(現在の豊前市東部と築上郡の一部)と交換し、小笠原真方がその支配を行うようになります。真方は小倉城篠崎口門近くに居を構えたことから“篠崎侯”とも呼ばれ、通常は領地内に居せず家老や領内の統治を担当する郡代などほとんどが小倉本藩のものが代理をしていたようで、所謂小倉藩の支藩ではなく分家として成立



小倉藩上毛郡絵図（豊前市史より）

したものでした。従ってその領国経営は不明な点が多く、藩主自身の領地見分など、ひどいときには100 年ちかくも行われなかった例もあります。こうした状態は明治 2 年(1869)、小倉藩が長州戦争に敗れ香春から豊津へと拠点を移す過程で成立した千束藩まで続き、終始独立した藩としての体裁をなすことはありませんでした。そして皮肉にも、篠崎侯が唯一歴史の舞台に立つのは、この時幼少であった藩主豊千代丸の後見人としての小笠原貞正のみで、現在千束藩の藩邸跡は旭城として石垣が残されていますが、城としての機能は備わっておらず、明治 4 年(1871)の廃藩置県により、築城後1年足らずで廃城となります。日本で最後に築かれ、また最も短命な城と言われる所以です。

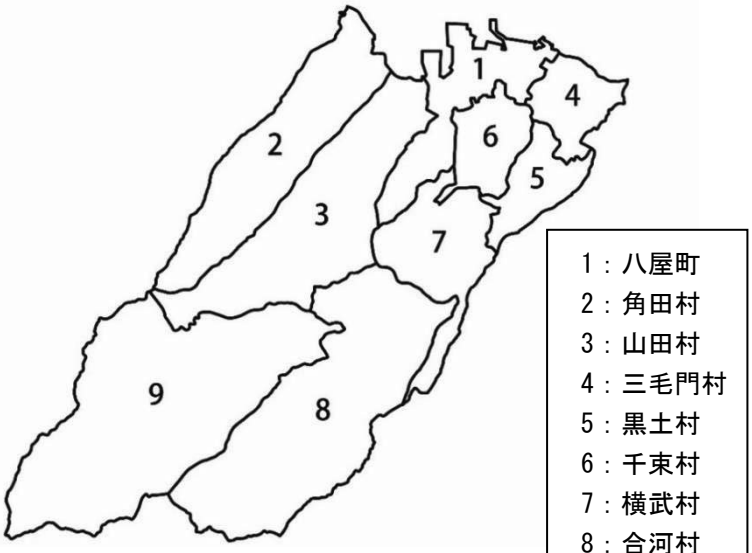
旭城跡の石垣

【近・現代】

明治 4 年（1871）廃藩置県により上毛郡一帯は千束県となり同年小倉県、明治 9 年（1876）には福岡県が成立し、明治 21 年（1888）には現在の地域区分が確立します。明治 30 年（1897）には豊州鉄道が営業を開始し松江と宇島に駅が開設されます。また文政 8 年（1825）に築港された宇島港は商業港として発展し、関西への石炭の積出港として活気をもたらします。その後大正 3 年（1914）には宇島鉄道が開業し、耶馬溪からの坑木を筑豊に供給する大動脈となりました。こうした交通の発達は宇島を中心に工業の立地を促し地域発展の礎を築いてゆきます。

昭和 30 年（1955）には昭和の大合併で 9 ヶ町村が合併し（宇島町と八屋町は昭和 10 年に合併）人口 37,816 人の豊前市が誕生します。余談ですが豊前市誕生に先立ちその過程で宇島市が成立しますが、僅か 3 日で豊前市と変更されます。諸般の事情によるものですが、全国で最も短命の市といわれています。その後、豊前市では宇島地先の埋め立てや九州電力豊前発電所の建設、能徳工業団地や豊前東部工業団地の造成など工業化を進めますが、地方での過疎化と少子化が進行する中、人口は減少の一途をたどり現在の人口は 25,986 人（平成 30 年 2 月 1 日現在）です。

平成 28 年（2016）に地域の悲願であった東九州自動車道が開通し今後、地域の特長を活かした活性化の推進が求められています。その方策の一つとして本計画の中で特定された歴史遺産を地域の歴史資源として位置づけ、その情報を行政と住民が共有することでこれからの活用へと繋げることが求められています。



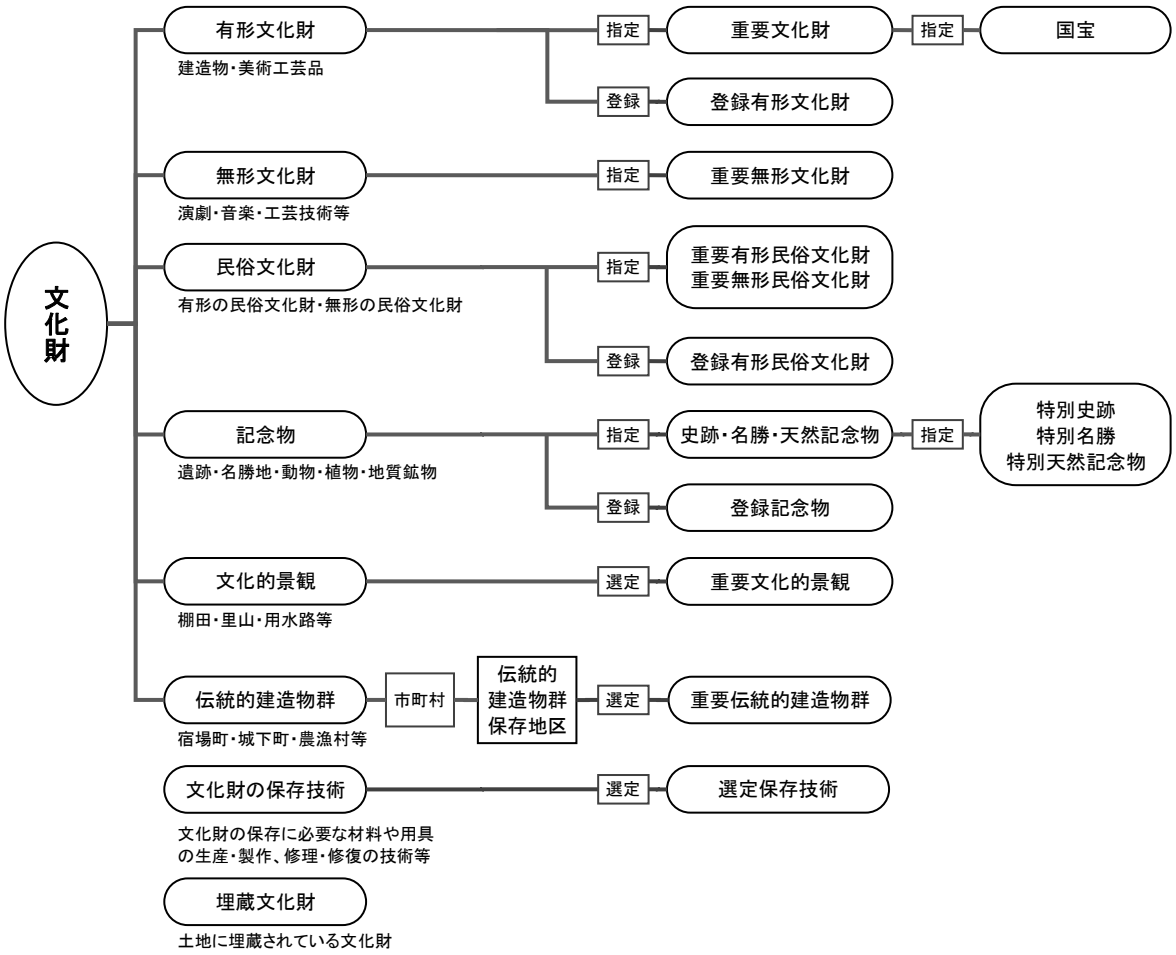
豊前市の旧９町村の位置図

３章　豊前市の歴史文化の特徴

１．文化財の種類

文化財の種類については文化財保護法で、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の 6 種類が規定されています。また、文化財の保存技術や埋蔵文化財についても保護の対象としています。

これらの中で特に重要な文化財については、国及び地方公共団体（都道府県及び市町村）により指定、登録、選定が行われ、保存・保存の措置が講じられています。



【国による文化財の体系】

指定等	文部科学大臣が文化審議会への諮問を経て、文化財のうち重要なものを指定・選定・登録
保存	・文化財保護法に基づく現状変更等の規制 ・管理や修理に関する指導 ・文化財補助金や課税上の特例措置など
活用	・展覧会等による文化財の鑑賞機会の充実 ・史跡等をわかりやすくするための整備事業　など

２．文化財調査の概要

豊前市で本格的な文化財調査が実施されたのは昭和 40 年(1965)で、求菩提地区における緊急民俗調査でした。それ以前にも「築上郡史」をはじめ、先学諸氏による様々な調査、研究の成果がみられ、貴重な資料として豊前市における文化財保護の礎となっています。

その後、豊前市のシンボルである「求菩提山」を対象とした調査研究が中心的となり、その集大成として「豊刕求菩提山修験文化攷」が昭和 44 年(1969)にまとめられ、今なお求菩提山研究の基礎資料として周知されています。

昭和 60 年(1985)以降、豊前市では本格的な農業基盤整備事業がスタートし、それに伴い埋蔵文化財発掘の必要性が生じたため、文化財担当職員の配置が行われて以降、平成 28 年(2016)の東九州自動車道の開業まで多くの公共事業の実施に伴い埋蔵文化財の発掘調査が行われてきました。その成果は別表に示すとおりで、多くの知見を得ることができました。

一方、平成 3 年(1991)には「豊前市史」(上･下巻)が刊行され、併せて資料編（考古・文書編）も作成され、豊前市内の全ての文化財の内容が示されることとなりました。さらに、平成 13 年（2001）には史跡「求菩提山」が国の指定を受け、山麓をはじめ周辺地域は平成 24 年（2012）に「求菩提の農村景観」として国の重要文化的景観に選定されました。これに伴い求菩提地域においては保存活用に関する各種計画書が策定され、その推進が図られているところです。

こうした現在までの文化財調査の成果を踏まえ、今回、本構想の基礎資料として以下の視点からその整理を行うこととしました。併せて先述の埋蔵文化財発掘調査報告書の一覧と共に「豊前市文化財関係文献目録」を示し、現在までの調査成果を確認したいと思います。

指定文化財：国県市の指定文化財の指定状況をリスト化と位置の確認を行った。

神　　社：市史に記載された神社の所在を確認するとともに、神社の位置と祭神、祭礼日、及び各神社に関連する指定文化財について整理した。

寺　　院：市史に記載された寺院の所在を確認するとともに、寺院の宗派、本尊、及び各寺院に関連する指定文化財について整理した。

石　造　物：市史に記載された石造美術のリスト化と内容について整理を行った。

古　文　書：豊前市史文書資料等に掲載されたものの他、求菩提の近世文書等をまとめた。

伝承・民話：豊前市史に掲載された伝説の他、求菩提山周辺の調査を行った『豊刕求菩提山修験文化攷』に記載されている伝説のリスト化を行った。

古　　道：近世の街道や勅使道の他、街道から求菩提山へつながる求菩提道や修験者が修行のために使った峰入り道などを史跡図等から図化を行った。

民　　家：近世の街道沿いに残る歴史的な建造物を外観から判断して位置の確認や写真撮影を行った。併せて町なみとしての調査も行った。

産 業 遺 産：遺跡分布図に示された鉄道跡と宇島港の旧防波堤の確認を行った。

表　豊前市文化財関係文献目録

年 代	書　　名	著　者・編　者	備　　考
1909	豊前求菩提山国魂神社蔵経筒	岡　為造	「考古界」８篇２号
1926	築造時代の明らかなる経塚	島田寅次郎	「福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書」第２輯
1933	求菩提山国玉神社	竹岡勝也	「福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書」第８輯
1934	豊前求菩提山史	岡　為造	築上史談會
1954	求菩提山銅板経図像私考	市場直次郎	「考古学雑誌」四〇巻三号
1956	祭祀信仰関係の遺跡・遺物	大場磐雄	「図説日本文化史大系」第一巻
	築上郡史（上・下巻）	豊前市・築上郡教育振興会	
1966	求菩提	豊前市教育委員会	求菩提山民俗資料緊急調査報告書
1967	求菩提	豊前市教育委員会	求菩提山民俗資料緊急調査報告書　第二集
1969	豊劭求菩提山修験文化攷	豊前市教育委員会	重松敏美
	秘境「求菩提」	重松敏美	九州人ブックス
	天狗の末裔たち	毎日新聞社	毎日新聞社
	求菩提山と周辺の美術	濱田　隆	
1970	祭祀遺蹟～神道考古学の基礎的研究～	大場磐雄	
1972	修験道史研究	和歌森太郎	東洋文庫２１１
1975	山岳信仰の起源と修験道	和歌森太郎	「神と仏の間～日本人の宗教意識～」
1977	求菩提山修験道の起源とその展開	中野幡能	「英彦山と九州の修験道」
	総説・英彦山と九州の修験道	中野幡能	「英彦山と九州の修験道」
	西日本の石製経筒	小田富士雄	九州考古学研究・歴史時代篇
	我国発見の銅板経について	石田茂作	佛教考古学論巧三・経典編
1978	求菩提の美術	錦織亮介	豊前修験道・求菩提展
	英彦山・求菩提山仏教民俗資料調査報告	財）元興寺文化財研究所	
1979	研究紀要１～特集・豊前修験道～	北九州市立歴史博物館編	
1980	求菩提如法寺旧蔵両界曼荼羅図	錦織亮介	西南地域史研究第四輯
1981	豊前市の文化財	豊前市教育委員会	指定文化財図録（1）
1983	豊前・求菩提山経筒の再発見	小田富士雄	「古代の求菩提山とその信仰」補遺一古文化談叢第１２集
	如法寺	豊前市教育委員会	豊前市文化財調査報告書第四集
1984	修験の秘宝「求菩提」	求菩提資料館	展示図録
1986	山伏まんだら	重松敏美	ＮＨＫブックス
1988	豊前市の文化財	豊前市教育委員会	指定文化財図録（2）
1989	求菩提山修験道遺跡	福岡県教育委員会	福岡県埋蔵文化財調査報告書第八十四集　福岡県教育委員会
	求菩提	求菩提資料館	展示図録
1991	豊前市史（上・下巻）	豊前市	通史
1993	豊前市史（考古資料編）	豊前市	通史
1997	求菩提山修験道遺跡群～史跡指定を前提とした整備基本構想の策定	豊前市教育委員会	計画書
2001	天狗たちの森　～求菩提山と修験道～	恒遠俊輔	
2002	常設展示目録「求菩提資料館」	求菩提資料館	展示図録
	豊前市の文化財～歴史とロマンの散歩道～	豊前市教育委員会	指定文化財図録（3）
2003	史跡「求菩提山」整備基本計画	豊前市教育委員会	計画書
2006	市制五〇周年記念 ぶぜん 写真集	豊前市制五〇周年記念写真集編集委員会	写真集
	ぶぜんの祭り	豊前市制五〇周年記念事業実行委員会	調査報告書
	京築地区神楽関係史料調査	福岡県立図書館	調査報告書
2008	求菩提地区文化的景観調査報告	豊前市	計画書
2009	求菩提地区文化的景観保存計画	豊前市	計画書
	ぶぜんの神楽	求菩提資料館	調査報告書
2010	国指定史跡求菩提山保存管理計画書	豊前市教育委員会	計画書
2012	豊前神楽調査報告書～京築地域の神楽を中心として	福岡県文化財調査研究委員会	
2014	豊前市の文化財ガイドブック	豊前市教育委員会	指定文化財図録（4）
	天狗　山を駆ける	求菩提資料館	求菩提資料館開館四〇周年記念特別展 図録
2015	ふるさと豊前　人物再発見	求菩提資料館	「豊教だより」より再構成
2017	求菩提資料館のあゆみ	求菩提資料館	資料館年報合冊
	求菩提山　～山伏の思いを伝えるタイムカプセル～	求菩提資料館	小学校高学年向け副読本

表　豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（１）

発行年	書　　名	副書名	著者・発行元	備　　考
1976	『福岡県遺跡等分布地図（豊前市・築上郡編）』		福岡県教育委員会	
1976	『求菩提山経塚』		豊前市教育委員会	
1977	『求菩提山第二次の調査』		豊前市教育委員会	
1977	「四郎丸窯跡」　米田鉄也		北九州市埋蔵文化財調査会『天観寺窯跡群』収録、『豊前市史（考古資料編）』にも記載	
1978	『求菩提山第三次の調査』		豊前市教育委員会	
1979	『黒部古墳群』	豊前市松江所在古墳群の調査	玄洋開発株式会社	
1983	『如法寺』	福岡県豊前市所在中世寺院の調査	福岡県求菩提資料館刊行会	豊前市文化財報告書第４集
1988	『大西遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第５集
1989	『吉木遺跡』	京築教育事務所建設地遺跡	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第８３集
1989	『求菩提山修験道遺跡』		福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第８４集
1990	『県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-Ⅱ-　豊前市横武・千束地区（２）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第６集
1991	『県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-Ⅲ-　豊前市横武・千束地区（３）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第７集
1992	『荒堀雨久保遺跡』	豊前警察署庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第９９集
1992	『求菩提　』～詳細遺跡分布図～	福岡県豊前市所在の修験道遺跡詳細分布調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第８集
1994	『団後遺跡　西一町田遺跡　炭山遺跡』	福岡県豊前市所在遺跡の調査	福岡県教育委員会	一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第３集
1995	『三毛門放生田遺跡』	福岡県豊前市大字三毛門所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第121集
1996	『中村石丸遺跡』　（上下巻）	福岡県豊前市大字中村字石丸所在縄紋時代遺跡の調査	福岡県教育委員会	一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第８集
1996	「新発見の縄文時代集落遺跡　豊前市大字川内所在の川内楠木遺跡について」棚田昭仁・坂梨祐子		郷土文化誌『豊豊』第７号収録	
1997	『毘沙門遺跡』	県道国見松江線改良工事に伴う福岡県豊前市大字馬場所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第128集
1997	『今市向野遺跡Ｃ地点』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第９集
1998	『今市向野遺跡Ａ・Ｂ地点』	都市計画街路事業県道市丸・八屋線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第10集
1998	『下原遺跡』	福岡県豊前市大字今市所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第134集
1998	『小石原泉遺跡』	豊前東部工業用地造成に伴なう埋蔵文化財発掘調査概報	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第11集
1999	『青畑向原遺跡・永久遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第12集／県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－豊前市大村・青畑地区及び黒土西部地区－
2000	『豊前市内遺跡分布地図』		豊前市教育委員会	
2000	『挟間宮ノ下遺跡　（遺構編）』	－豊前市大字挟間に所在する縄文時代集落の調査報告－	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第13集／団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
2001	『挟間宮ノ下遺跡　（遺物編）』	－豊前市大字挟間に所在する縄文時代集落の調査報告－	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第14集／団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
2002	『河原田四ノ坪遺跡　（河原田遺跡群Ⅰ）・川内南原遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第15集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ
2003	『河原田善丸遺跡　（河原田遺跡群Ⅱ）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第16集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ
2003	『吉木穴井遺跡』	都市計画道路甘木八屋線（県道犀川豊前線）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第17集
2003	『四郎丸米ヶ谷遺跡』	県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第18集
2003	『市丸城居屋敷遺跡・六郎堂ノ前遺跡・六郎神田遺跡・六郎桜木遺跡』	－豊前市市丸・六郎所在遺跡の調査－	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第179集

表　豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（２）

発行年	書　　名	副書名	著者・発行元	備　　考
2004	『河原田塔田遺跡　（河原田遺跡群Ⅲ）』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第19集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
2005	『鬼木四反田遺跡（遺構編）（河原田遺跡群Ⅳ）・鳥越今井野遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部地区　及び　県営担い手育成基盤整備事業　山田地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第20集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ
2005	『吉木臼木遺跡』	県立青豊高等学校特別教室棟建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書　－豊前市吉木所在遺跡の調査－	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第199集
2006	『鬼木四反田遺跡（遺物編）（河原田遺跡群Ⅴ）』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第21集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ
2007	『大村石畑遺跡』	県営担い手育成基盤整備事業　大村青畑地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第22集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ
2007	『中村山柿遺跡』	県営経営体育成基盤整備事業　角田中部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第23集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ
2008	『久路土六田遺跡・薬師寺塚原遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部地区　及び　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第24集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅻ
2008	『史跡 求菩提山』	求菩提山護国寺	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第25集／求菩提山史跡整備事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅰ
2009	『大村天神林遺跡』	県営担い手育成基盤整備事業　大村青畑地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第26集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ
2010	『久路土鐘ﾂｷ田遺跡　久路土芝掛遺跡　久路土高松遺跡』（※ﾂｷは金扁に章）	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第27集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ
2011	『史跡 求菩提山』	求菩提山　安浄寺　杉谷参道	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第28集／史跡内容確認調査事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅱ
2011	『塔田琵琶田遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第29集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ
2012	『久路土幢遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第30集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ
2013	『鬼木鉾立遺跡・久路土樋掛遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第31集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ
2013	『国史跡 求菩提山』	求菩提山　北谷・中谷坊跡／鬼石坊	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第32集／史跡内容確認調査事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅲ
2013	『久路土芝掛遺跡・久路土高松遺跡』	－福岡県豊前市久路土所在　久路土芝掛遺跡2次・久路土高松遺跡2次調査の報告－	九州歴史資料館	福岡県文化財調査報告書第242集／県道犀川豊前線バイパス建設関係埋蔵文化財調査報告第１集
2014	『永久笠田遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第33集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ
2014	『大西遺跡・下大西遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第34集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
2014	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-15-』	福岡県豊前市・築上郡築上町所在遺跡の調査	九州歴史資料館	
2015	『大河内林添遺跡・大河内庄屋屋敷遺跡・挟間栗原遺跡・下河内桃ノ木遺跡・下河内歳手遺跡・下河内大地遺跡・下河内大水口遺跡・山内頭ナシ遺跡』	県営ほ場整備事業（担い手育成型）大河内地区・合河北部地区、県営中山間地域農村活性化総合整備事業 合河地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第35集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ
2015	『久路土芝掛遺跡 第４次調査・塔田キカス遺跡』	県道犀川豊前線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第36集
2015	『西ノ原遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第37集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
2015	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-21-　福岡県豊前市所在の遺跡　鳥越下屋敷遺跡　大村湯福遺跡　鬼木鉾立遺跡』		九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告21

表　豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（３）

発行年	書　　名	副書名	著者・発行元	備　　考
2015	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-22-　　塔田琵琶田遺跡第２次』	福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告22
2016	『久路土下川辺遺跡・久路土日中遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業　黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第38集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸ
2016	『大村シトキ田遺跡・鬼木中浄坊遺跡・鳥越湯福山遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第39集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
2016	『塔田琵琶田遺跡第３・５次　塔田五反田遺跡　塔田キカス遺跡第２次』　上巻（本文編）・下巻（図版編）	－福岡県豊前市塔田・久路土所在遺跡の調査－	九州歴史資料館	福岡県文化財調査報告書第252集／県道犀川豊前線バイパス建設関係埋蔵文化財調査報告第２集
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-24-　時末遺跡第１・２次　永久笠田遺跡第２次』	福岡県豊前市永久所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告24
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-25-　西ノ原遺跡第３・４次　大西遺跡第４次』	福岡県豊前市所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告25
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-26-　塔田琵琶田遺跡第４次』（本文編）（図版編）	－福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査－	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告26
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-27-　塔田琵琶田遺跡第６次』	－福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査－	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告27
2017	『中村ヒバル遺跡』	県営経営体育成基盤整備事業角田中部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第40集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅪ
2018	『中村屋敷田遺跡・松江炭山遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第41集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅫ
2018	『岸井野入遺跡・久路土門田遺跡　付宇島鉄道軌道敷』	県営農村総合整備事業豊前地区（黒土北部工区）土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第42集

表　豊前市の指定文化財一覧

（平成 30 年（2018）10 月 1 日現在）

		指定種目	文化財の名称	員数	指定年月日	所在地	所有者
国指定・選定	1	国宝(考古)	銅板法華経・銅筥	33枚 1筥	明治39.4.14 昭和28.11.14	太宰府市大字石坂4-7-2 九州国立博物館	国玉神社
	2	国指定重要文化財(考古)	豊前市求菩提山経塚出土品	一括	昭和53.6.15	大字鳥井畑247　求菩提資料館	福岡県
	3	国指定重要文化財(彫刻)	木造千手観音立像	1躯	明治39.4.14	大字挟間　千手観音堂	千手観音保存会
	4	国指定天然記念物	犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地	群生	昭和40.6.4	大字犬ヶ岳	農林省(現農水省)
	5	国指定史跡	求菩提山	3地区	平成13.8.13	大字求菩提121-1ほか	国玉神社ほか
						大字岩屋85-2ほか	岩洞窟ほか
						大字山内991　如法寺境内	如法寺ほか
	6	国選定重要文化的景観	求菩提の農村景観	1地区	平成24.9.19	大字求菩提1ほか、鳥井畑122ほか	豊前市・福岡県ほか
	7	国指定重要無形民俗文化財	豊前神楽 （豊前市の岩戸神楽）	6団体	平成28.3.2	大字岩屋1214-1　七社神社	岩屋神楽講
						大字山内144　嘯吹八幡神社	山内神楽講
						大字久路土996　石清水八幡神社	黒土神楽講
						大字三毛門306　春日神社	三毛門神楽講
						大字四郎丸256　大富神社	大村神楽講
						大字中村567　角田八幡神社	中村神楽保存会
県指定	8	県指定有形文化財(彫刻)	木造金剛力士立像	1対	昭和50.8.14	大字山内991　如法寺境内	如法寺
	9	県指定有形文化財(書籍)	求菩提山文書	74通	昭和46.11.16	大字馬井畑247　求菩提資料館	国玉神社
	10	県指定有形文化財(考古)	如法寺の石塔群	一括	昭和43.2.3	大字山内991　如法寺境内	如法寺
	11	県指定有形民俗文化財	大富神社の棟札	11枚	昭和31.7.28	大字四郎丸256　大富神社	大富神社
	12	県指定有形民俗文化財	宇佐神宮の杣始めの掛札および箱	1口	昭和31.7.28	大字下川底　白山神社境内	白山神社
	13	県指定有形民俗文化財	盲僧琵琶(ささびわ、付属品・文献1冊)	一括	昭和31.7.21	大字鳥井畑247　求菩提資料館	個人
	14	県指定有形民俗文化財	求菩提山修験道遺品	一括	昭和48.4.19	大字鳥井畑247　求菩提資料館	求菩提資料館
	15	県指定無形民俗文化財	山田の感応楽	1団体	昭和51.4.24	大字四郎丸256　大富神社	大富神社
	16	県指定無形民俗文化財	大富神社神幸祭(八屋祇園)	1団体	昭和51.4.24	大字四郎丸256　大富神社	大富神社
	17	県指定無形民俗文化財	求菩提山のお田植祭(求菩提山松会)	1団体	昭和51.4.24	大字求菩提　国玉神社	国玉神社
	18	県指定史跡	黒部古墳群	3基	昭和55.3.1	大字松江	豊前市
	19	県指定史跡	蔵春園(恒遠塾跡)	1ヶ所	昭和31.7.28	大字薬師寺570	個人
	20	県指定天然記念物	大河内の広葉杉	1本	昭和31.7.28	大字大河内1923	個人
	21	県指定天然記念物	求菩提のヒメシャガ	群生	昭和43.2.3	大字求菩提求菩提山	豊前市
	22	県指定天然記念物	求菩提のボダイジュ	1本	昭和43.2.3	大字求菩提　国玉神社境内	国玉神社
	23	県指定天然記念物	白山神社の大樟	1本	昭和31.7.28	大字下川底　白山神社境内	白山神社
	24	県指定天然記念物	須佐神社の大樟	1本	昭和31.7.28	大字下河内1070　須佐神社境内	須佐神社
市指定	25	市指定有形文化財(彫刻)	木造不動明王像及び脇侍二童子像	3躯	昭和59.11.22	大字畑　猛勇神社境内	猛勇神社
	26	市指定有形文化財(彫刻)	木造不動明王像	1躯	昭和59.11.22	大字挟間　千手観音堂	千手観音保存会

		指定種目	文化財の名称	員数	指定年月日	所在地	所有者
市指定	27	市指定有形文化財(彫刻)	如意輪観音像	1躯	昭和59.11.22	大字山内991　如法寺境内	如法寺
	28	市指定有形文化財(彫刻)	木造地蔵菩薩像	1躯	昭和59.11.22	大字岩屋295-1	個人
	29	市指定有形文化財(建造物)	覚魔社　社殿	1棟	平成3.5.10	大字鳥井畑597　大山祇神社境内	大山祇神社
	30	市指定有形文化財(彫刻)	白山神社石造如来形座像(残欠)	1躯	平成8.7.11	大字下川底　白山神社境内	白山神社
	31	市指定有形文化財(歴史・書籍)	如法寺の扁額及び即非画像	4点	平成10.2.13	大字山内991　如法寺境内	如法寺
	32	市指定有形文化財(歴史)	蔵春園関係資料 〃　(追加指定)	28点 1649点	平成10.2.13 平成14.2.12	大字薬師寺570	個人
	33	市指定有形文化財(古文書)	矢野家の文書	197点	平成11.6.21	大字久路土873-3	個人
	34	市指定有形文化財(考古)	鬼木四反田遺跡及び関連遺跡出土青銅器	6点	平成14.2.12	大字吉木955	豊前市
	35	市指定有形文化財(考古)	黒部古墳群出土遺物	50点	平成14.2.12	大字吉木955	豊前市
	36	市指定有形文化財(建造物)	日吉神社本殿	1棟	平成14.2.12	大字大河内471-1	日吉神社
	37	市指定有形文化財(絵画)	浄圓寺絹本阿弥陀来迎図	1幅	平成14.2.12	大字松江404	浄圓寺
	38	市指定有形文化財(歴史)	上毛・築城の郡界石	1基	平成14.2.12	大字四郎丸1307	豊前市
	39	市指定有形文化財(絵画)	石清水八幡神社歌仙板絵馬	8枚	平成14.3.8	大字久路土996　石清水八幡神社	石清水八幡神社
	40	市指定有形文化財(歴史)	辛島家宇島築港関係資料	80点	平成18.3.9	大字鳥井畑247　求菩提資料館	豊前市
	41	市指定有形文化財(古文書)	津野田文書	14点	平成25.12.3	大字鳥井畑247　求菩提資料館	豊前市
	42	市指定有形文化財(絵画)	別府一九郎寄進絵図	3点	平成25.12.3	大字山内991　如法寺	如法寺
	43	市指定有形文化財(絵画)	天狗曼荼羅絵図	1点	平成25.12.3	大字鳥井畑247　求菩提資料館	求菩提資料館
	44	市指定有形民俗文化財(彫刻)	角田八幡神社棟札	10枚	昭和59.11.22	大字鳥井畑247　求菩提資料館	角田八幡神社
	45	市指定有形文化財	築上新聞・築上産業新聞等　昭和期刊行郷土資料	661点	平成30.7.9	大字岸井201番地	築上印刷有限会社
	46	市指定無形民俗文化財	角田八幡神社の豊前楽	1団体	平成14.2.12	大字中村567　角田八幡神社	角田八幡神社
	47	市指定無形民俗文化財	畑のどんど焼き	1団体	平成14.2.12	大字畑	畑地区
	48	市指定無形民俗文化財	厳島神社の百手祭	1団体	平成16.3.9	大字八屋2445　厳島神社	大富神社(末社厳島神社)
	49	市指定無形民俗文化財	宇島祇園	1団体	平成17.3.8	大字宇島70-1　宇島神社境内	宇島祇園保存会
	50	市指定天然記念物	千手観音堂「乳の霊水」	1箇所	昭和60.3.20	大字挟間　千手観音堂	千手観音保存会
	51	市指定天然記念物	水神社「冷泉」	1箇所	昭和60.3.20	大字畑701　水神社境内	水神社
	52	市指定天然記念物	如法寺「写経水」	1箇所	昭和60.3.20	大字山内991　如法寺境内	如法寺
	53	市指定天然記念物	水神社大樟	1本	昭和63.4.11	大字畑701　水神社境内	水神社
	54	市指定天然記念物	高橋家の豊後ウメ	1本	平成11.6.21	大字久路土893	個人
	55	市指定天然記念物	轟のフジ	3株	平成11.6.21	大字上川底貴船神社境内	貴船神社
	56	市指定天然記念物	矢野家のモッコク(木斛)	1本	平成14.2.12	大字久路土873-1	個人
	57	市指定天然記念物	求菩提山のクワ(桑)	4本	平成14.2.12	大字求菩提283-2	個人
	58	市指定天然記念物	鬼木の大樟	1本	平成18.3.9	大字鬼木273	鬼木地区
	59	市指定天然記念物	三毛門カボチャ	1種	平成30.7.9	大字三毛門747－2	三毛門南瓜保存会
	60	市指定史跡	黒峰尾古墳群	4基	昭和63.4.11	大字松江1084	豊前市
	61	市指定史跡	平原横穴墓群	19基	昭和63.4.11	大字川内3219、3233-1、3233-2	個人

銅板法華経・銅筥（国宝）

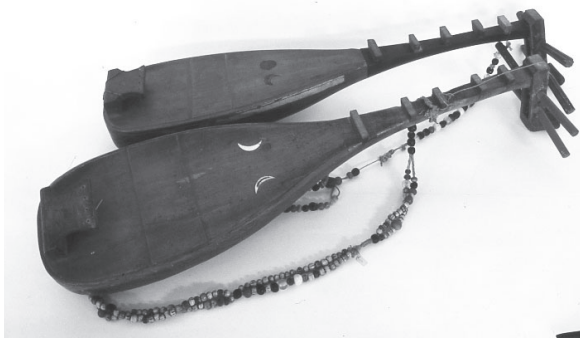
求菩提山経塚出土品（国指定重要文化財）

豊前神楽（国指定重要無形民俗文化財）

求菩提山（国指定史跡）

木造金剛力士像（如法寺）（県指定有形文化財）

如法寺の石塔群（県指定有形文化財）



盲僧琵琶（ささびわ付属品附文献１冊）
（県指定有形民俗文化財）

宇佐神宮の杣始めの掛札及び箱一口
（県指定有形民俗文化財）

蔵春園（恒遠塾跡）（県指定史跡）

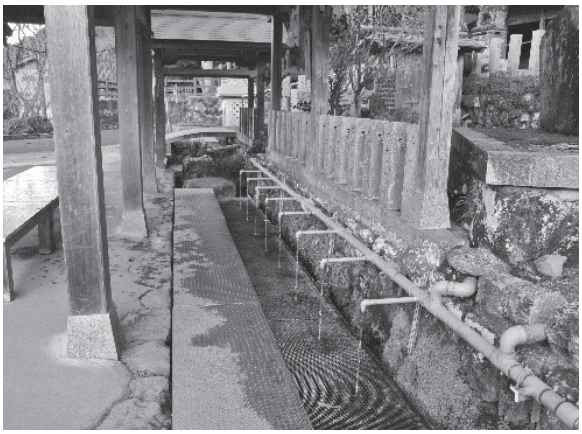
白山神社の大樟（県指定天然記念物）

木造不動明王座像及脇侍二童子立像
（市指定有形文化財（彫刻））

鬼木四反田遺跡及び関連遺跡出土青銅器
（市指定有形文化財物（考古））

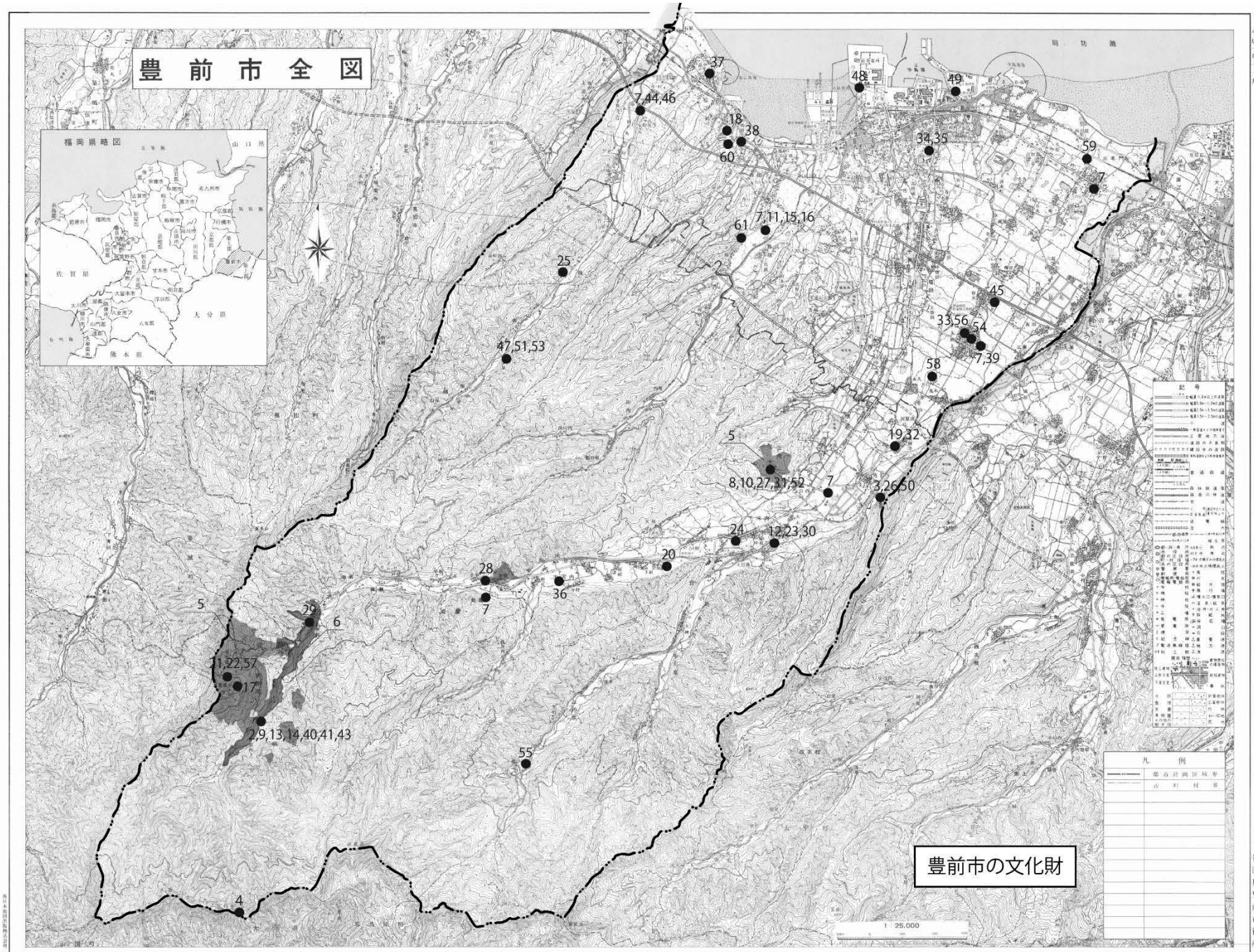
日吉神社本殿（市指定有形文化財）

畑のどんど焼き（市指定無形民俗文化財）



水神社の冷泉（市指定天然記念物）

如法寺「写経水」（市指定天然記念物）


豊前市全図
福岡県略図
豊前市の文化財
凡例
記号
1：25,000
37
48
49
7,44,46
18
38
60
34,35
59
7
61
7,11,15,16
25
45
33,56
54
7,39
47,51,53
58
19,32
5
8,10,27,31,52
7
3,26,50
24
12,23,30
20
28
36
7
5
29
6
1,22,57
17
2,9,13,14,40,41,43
55
4

３．種類別文化財

（１）神社

市全体では 76 社の神社があります。八屋地区、山田地区が 11 社と最も多く、次いで角田地区の 10 社となり、最も少ない地区は黒土地区の 2 社となっています。

元無格社が最も多く 41 社、元村社 24、不明は 5 社です。元郷社は以下の 5 社、角田八幡神社（中村）、沓川神社（沓川）、石清水八幡神社（久路土）、嘯吹（うそぶき）八幡神社（山内）、国玉（くにたま）神社（求菩提）であり、元県社は大富神社（四郎丸）の 1 社となっています。

求菩提山の国玉神社中宮は、かつて求菩提山護国寺であり、求菩提山信仰の中心となった場所で、境内には鬼神社があります。関連する指定文化財は 5 件と最も多く、次いで、大富神社、白山神社が 3 件となっています。

明治初期、小倉新田藩主・小笠原貞正は千束藩知事に任命され、その陣屋が建設され旭城となりましたが、1 年余りで廃城となり、その場所は千束八幡神社となっています。

指定文化財関連神社

神社名	所在地	関連する指定文化財
国玉神社	求菩提	銅板法華経・銅筥、求菩提山、求菩提山文書、求菩提のボダイジュ、求菩提山のお田植祭り
大富神社	四郎丸	大富神社の棟札、山田の感応楽、大富神社神幸祭（八屋祇園）
白山神社	下川底	宇佐神宮の杣始めの掛札および箱、白山神社の大樟、白山神社石造如来形座像、
角田八幡神社	中村	角田八幡神社棟札、角田八幡神社豊前楽
厳島神社	八屋	厳島神社の百手祭
宇島神社	宇島	宇島祇園
水神社	畑	水神社の冷泉、水神社の大樟
猛勇神社	畑	木造不動明王像及び脇侍二童子像
須佐神社	下川底	須佐神社の大樟
貴船神社	上川底	轟のフジ
日吉神社	大河内	日吉神社本殿
大山祇神社	鳥井畑	覚魔社社殿

覚魔社 社殿（鳥井畑）

日吉神社（大河内）

大富神社（四郎丸）

石清水八幡神社（久路土）

嘯吹八幡神社（山内）

水神社（畑）

千束八幡神社（千束）

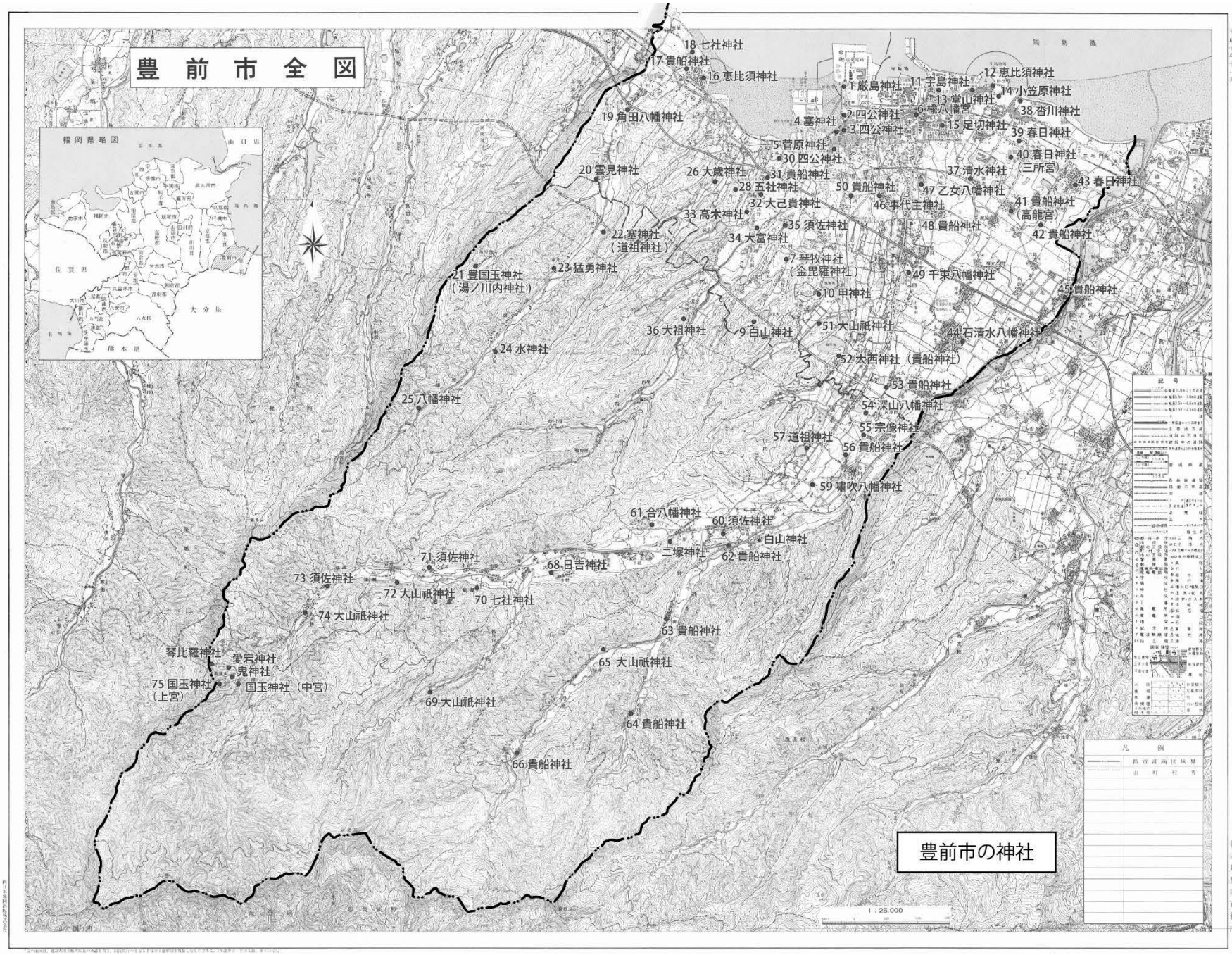
須佐神社（下河内）

表　豊前市内の神社一覧

		名称	社格	所在地	祭神	主な祭儀日
八屋地区	1	厳島神社	元無格社	八屋（汐入）	市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命・豊玉姫命	9月5日
	2	四公神社	元無格社	八屋（汐入）	猿田彦神	7月10日、12月10日
	3	四公神社	元無格社	八屋（浦町）	猿田彦神	12月10日
	4	塞神社	元無格社	八屋（新開）	八衢彦・八衢姫・久那斗	無祭日
	5	菅原神社	元無格社	八屋（東光山）	菅原道真・須佐之男命・市杵島姫命・大鷦鷯命・闇龗神	10月25日
	6	楡八幡宮		八屋（東八幡町）	事代主神・（仁徳天皇）	10月24日、12月3日
	7	琴牧神社	元無格社	大村（西丸尾）	大物主神・崇徳天皇	12月10日
	8	住吉神社	元無格社	大村（大竜寺）	表筒男神	7月7日
	9	白山神社	元無格社	大村（慈眼寺）	伊弉諾尊・伊弉冉尊・大国主神・大山祇神	9月29日
	10	甲神社	元無格社	大村（横谷）	罔象女神	4月7日、7月7日、12月7日
宇島地区	11	宇島神社	元無格社	宇島（鵜島）	杉生十右衛門・大物主神・崇徳天皇	5月3,4,5日、10月23日
	12	恵比須神社		宇島（周防町）	事代主神	5月5日
	13	堂山神社		宇島（周防町）	事代主神	5月4,5日
	14	小笠原神社		宇島（日の出町）	藩主のお墨付きと伝えられる	5月4日
	15	足切神社	元村社	赤熊（足切）	級長津彦神・級長津比売神・罔象女神・高龗神・闇龗神	4月第3土曜日、10月20日
角田地区	16	恵比須神社	元無格社	松江（折戸）	八重事代主神・大山祇神	5月19日,20日、10月12日
	17	貴船神社	元無格社	畠中（安延）	高龗神	5月19日,20日、10月12日
	18	七社神社	元無格社	松江（江ノ口）	別雷神・宇迦之御魂神・須佐之男命・大山祇神・高龗神・少毘古那神・児屋根命	5月19日,20日、10月12日
	19	角田八幡神社	元郷社	中村（小畑）	応神天皇・神功皇后・比咩大神・仲哀天皇・仁徳天皇	5月19日,20日、10月25,26日
	20	雲見神社	元無格社	馬場（毘砂門）	磐長毘売神・大山祇神・高龗神	5月19日,20日、10月2日
	21	豊国玉神社	元無格社	馬場（湯ノ川内）	国魂神・保食神	5月19日,20日、10月25,26日
	22	塞神社	元無格社	畑（御手洗）	猿田彦神	4月19日、11月13日
	23	猛勇神社	元無格社	畑（原井）	大山祇神・素盞嗚尊	4月19日、11月13日
	24	水神社	元無格社	畑（湯出河原）	水分神・高龗神	4月19日、11月13日
	25	八幡神社	元無格社	畑（山谷）	応神天皇・高龗神・大山祇神	4月19日、11月13日
山田地区	26	大歳神社	元無格社	四郎丸（歳ノ神）	大歳神・御歳神・若歳神・稲倉魂神・水波売神	12月7日
	27	水神社	元無格社	四郎丸（杉ヶ谷）	美津波売神	5月5日
	28	五社神社	元無格社	四郎丸（湯越）	菅原神・事代主神・高龗神・市杵島姫命・大己貴神・少那彦神	9月2日
	29	蛭子神社	元無格社	四郎丸（今町）	事代主神	12月1日
	30	四公神社	元無格社	四郎丸	猿田彦神・恵比寿神	7月10日、12月10日
	31	貴船神社	元無格社	四郎丸（荻田）	高龗神・市杵島姫命	12月6日
	32	大己貴神社	元無格社	四郎丸（清水）	大己貴神・少彦名神	12月6日
	33	高木神社	元無格社	四郎丸（高野）	高皇産霊尊	3月5日
	34	大富神社	元県社	四郎丸（甫起山）	田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命・応神天皇・仲哀天皇・神功皇后・表筒男命・中筒男命・底筒男命・斎主神	4月30日、5月1日、10月19日
	35	須佐神社	元無格社	鳥越（上ノ段）	大己貴神・須佐之男命・稲田姫神	9月1日
	36	大祖神社	元無格社	川内（中畑）	天御中主神・高皇神・素盞嗚尊・少名彦命・稲倉魂神・菅原神・大山祇神・高龗神・猿田彦神・豊受姫神・岐ノ神・鈿女神	4月15日

※　6楡八幡宮は若宮八幡神社・恵比寿神社を合祀している

		名称	社格	所在地	祭神	主な祭儀日
三毛門地区	37	清水神社	元村社	清水町（木ノ下）	高靇神・闇靇神・罔象女神・天御柱神・国御柱神・事代主神	6月下旬から7月上旬の間
	38	沓川神社	元郷社	沓川（下ノ田）	別雷神・伊弉諾尊・天児屋根命・表筒之男神・中筒之男神・中筒之男神・底筒之男神	5月5日、8月15日
	39	春日神社	元村社	久松（輪田）	武甕槌神・経津主神・天児屋根命	—
	40	春日神社	元村社	恒富（宮ノ本）	武甕槌神・経津主神・天児屋根命	6月下旬から7月上旬の間
	41	貴船神社	元村社	市丸（居屋敷）	高靇神	6月下旬から7月上旬の間
	42	貴船神社	元村社	三楽（八反田）	高靇神	4月第4土日
	43	春日神社	元村社	三毛門（宮ノ本）	大歳神・宇迦之御魂神・素盞嗚尊・大市姫神・豊日別神・伊弉諾尊・天照大神・武甕槌神・経津主神・天児屋根命・高靇神・闇靇神・罔象女神	4月29日
黒土地区	44	石清水八幡神社	元郷社	久路土（白旗森）	八幡大神・息長足息姫尊・大鷦鷯尊	5月2日、5月3日
	45	貴船神社	元村社	小石原		
千束地区	46	事代主神社	元無格社	今市（屋敷）	事代主神	5月15日、12月3日
	47	乙女八幡神社	元村社	吉木（竿）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇	4月28日、10月9日
	48	貴船神社	元村社	吉木（熊ノ本）	高靇神・武甕槌神・素盞嗚尊・大山祇神	4月28日、10月9日
	49	千束八幡神社	元村社	千束	八幡大神・櫛石窓神・豊石窓神・仁徳天皇・高靇神・闇靇神	4月29日、10月16日
	50	貴船神社	元無格社	荒堀（田淵）	高靇神・闇靇神	11月24日
横武地区	51	大山祇神社	元無格社	青畑（殿山）	大山祇神・木花開耶姫神・事代主神・豊受姫命	12月1日
	52	大西神社	元村社	大西（蛭谷）	高靇神・闇靇神・天御中主神	4月15日、10月15日
	53	貴船神社	元村社	永久（丸林）	高靇神・大己貴命・天穂日命・罔象女神	4月21日,22日、10月21日,22日
	54	深山八幡神社	元村社	河原田（友浦）	応神天皇・仲哀天皇・神功皇后	4月23日、10月23日
	55	宗像神社	元村社	薬師寺（塚原）	田心姫・湍津姫命・市杵島姫命・神功皇后・素盞嗚尊	5月8日、10月19日
	56	貴船神社	元村社	挟間（山内）	高靇神・闇靇神・速秋津彦神・速秋津姫神・大田種子・保食神・素盞嗚尊	5月12日、9月23日、10月17日
	57	道祖神社	元無格社	才尾（屋敷）	猿田彦神	4月14日,15日、10月7日,8日
	58	祇園社	元無格社	山内（園木田）	素盞嗚尊	7月24日
	59	嘯吹八幡神社	元郷社	山内（田中）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇・天児屋根命・武内宿禰・速秋津彦神	4月14日,15日、10月12日,13日、11月27日（山人走り神事）
合河地区	60	須佐神社	元無格社	下河内（湯ノ本）	素盞嗚尊	4月14日,15日、11月26日,27日
	61	合八幡神社	元村社	天和（宮山）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇	4月15日、12月7日
	62	貴船神社	元村社	下川底（城山）	高靇神・闇靇神・大山祇神・事代主神	3月15日、10月10日
	63	貴船神社	元村社	中川底（稗田）	高靇神・闇靇神・応神天皇・素盞嗚尊	4月15日、10月14日
	64	貴船神社	元無格社	中川底（松尾川内）	大己貴命・大山祇神・少彦名命	4月15日、10月16日
	65	大山祇神社	元無格社	上川底（大宮司）	大山祇神・高靇神・闇靇神	4月15日、10月15日
	66	貴船神社	元村社	上川底（長迫）	高靇神・闇靇神・句句迺馳神・雷神・倉稲魂神	4月15日、10月15日
	67	貴船神社	元無格社	上川底（神田）	高靇神・闇靇神・宇迦之御魂神・句句迺智神・別雷神	4月15日、10月15日
岩屋地区	68	日吉神社	元村社	大河内（宮の前）	大己貴尊・国常立命・惶根命	4月12日,13日、10月初申の日と翌日
	69	大山祇神社	元無格社	岩屋（奥畑）	大山祇神・雷神	4月27日、10月17日
	70	七社神社	元村社	岩屋	国常立命・大宮姫・宇迦之御魂神・大山祇神・少彦名神・大己貴神・事代主神	4月26日,27日、10月18日
	71	須佐神社	元無格社	岩屋（上の免）	素盞嗚尊	4月26日、10月26日
	72	大山祇神社	元無格社	篠瀬（戸符）	大山祇神・金山彦神・埴安神	5月4日、10月13日
	73	須佐神社	元村社	篠瀬（古屋敷）	素盞嗚尊・大山祇神	5月3日、8月19日、10月12日
	74	大山祇神社	元村社	鳥井畑（居屋敷）	大山祇神	5月5日、6月17日、10月8日
	75	国玉神社	元郷社	求菩提（岩岳山）	顕国霊神・伊弉諾命・伊弉冉命	3月29日お田植祭り、9月9日


豊前市全図
福岡県略図
豊前市の神社
凡例
記号
1：25,000
18 七社神社
17 貴船神社
16 恵比須神社
19 角田八幡神社
20 雲見神社
21 豊国玉神社
（湯ノ川内神社）
22 塞神社
（道祖神社）
23 猛勇神社
24 水神社
25 八幡神社
26 大歳神社
28 五社神社
32 大己貴神社
33 高木神社
34 大富神社
35 須佐神社
36 大祖神社
9 白山神社
7 琴牧神社
（金毘羅神社）
10 甲神社
51 大山祇神社
52 大西神社（貴船神社）
53 貴船神社
54 深山八幡神社
55 宗像神社
56 貴船神社
57 道祖神社
59 嘯吹八幡神社
60 須佐神社
白山神社
二塚神社
62 貴船神社
61 合八幡神社
63 貴船神社
64 貴船神社
65 大山祇神社
66 貴船神社
68 日吉神社
69 大山祇神社
70 七社神社
71 須佐神社
72 大山祇神社
73 須佐神社
74 大山祇神社
75 国玉神社
（上宮）
国玉神社（中宮）
愛宕神社
鬼神社
琴比羅神社
1 厳島神社
2 四公神社
3 四公神社
4 塞神社
5 菅原神社
30 四公神社
31 貴船神社
50 貴船神社
46 事代主神社
48 貴船神社
49 千束八幡神社
44 石清水八幡神社
45 貴船神社
11 宇島神社
12 恵比須神社
14 小笠原神社
13 堂山神社
6 楡八幡宮
15 足切神社
38 沓川神社
39 春日神社
40 春日神社
（三所宮）
37 清水神社
43 春日神社
47 乙女八幡神社
41 貴船神社
（高龍宮）
42 貴船神社

（２）寺院

市全体で 34 寺院あり、浄土真宗が 30 寺院、禅宗 4（黄檗宗 3、曹洞宗 1）寺院の内訳となっています。

如法寺（山内）は、求菩提山護国寺の末寺で元は天台宗でしたが、延宝 7 年（1679）に広寿山二世法雲により開山され、黄檗宗となりました。

本願寺の蓮如上人の時代、浄圓寺は明応 5 年（1496）に浄土真宗となりました。

八屋の賢明寺の山門は千束藩陣屋の旭城の城門を移築したものです。

宇島にある教円寺の鐘楼は創建二重三層に袴腰で、二層目は正面三間側面二間で大屋根が張り出しており、市内の寺院建築でも特徴があるものです。

指定文化財に関連する寺院は以下の通りで、2 寺院 8 件となっています。

寺院名	所在地	関連する指定文化財
如法寺	山内	木造金剛力士立像、如法寺の石塔群、如意輪観音像、如法寺の扁額及び即非画像、別府一九郎寄進絵図、如法寺「写経水」（如法寺境内は史跡求菩提山如法寺地区）
浄圓寺	松江	浄圓寺絹本阿弥陀来迎図

如法寺本堂（山内）

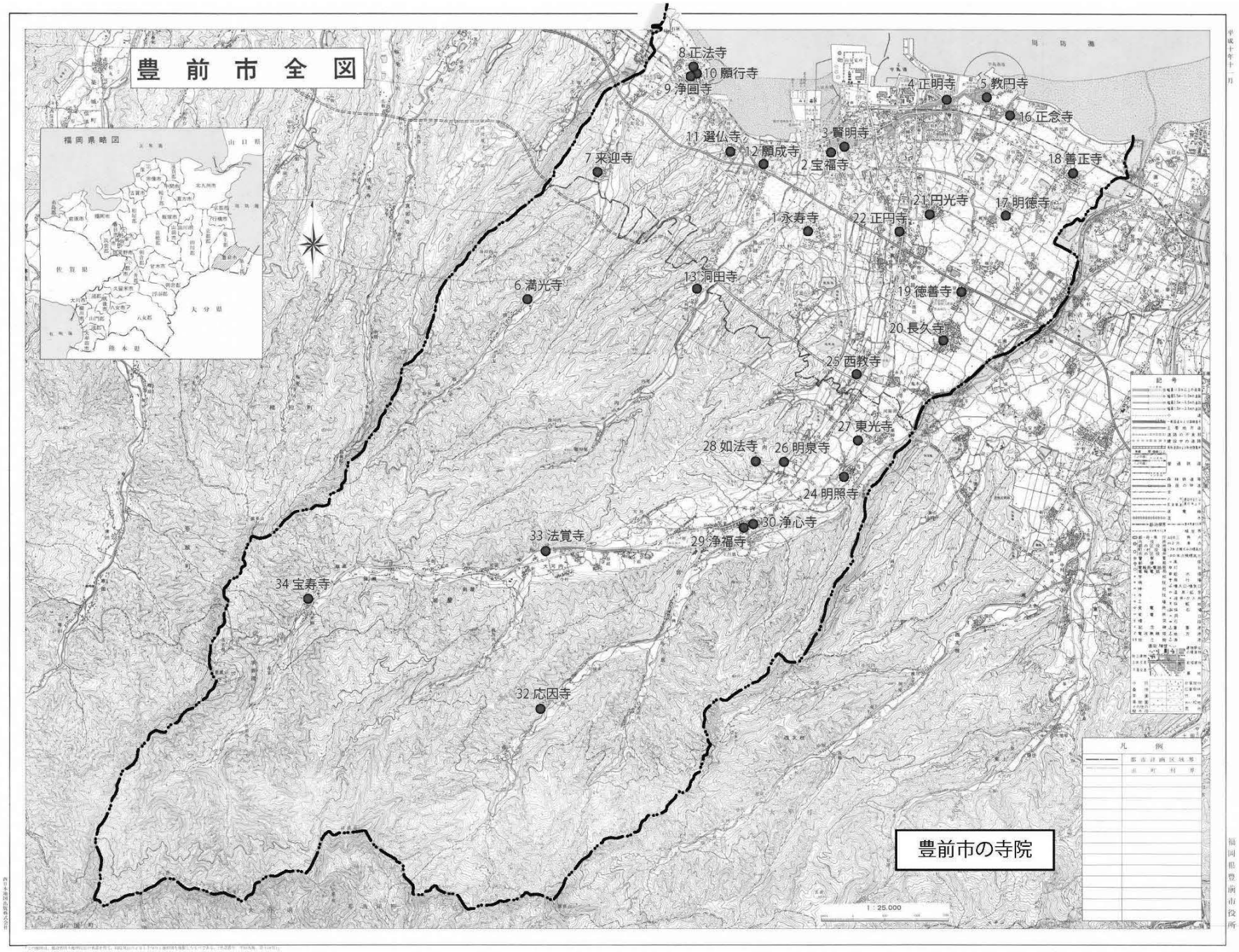
如法寺不動院（山内）

浄圓寺（松江）

教円寺（宇島）

表　豊前市内の寺院一覧

		名称	山号	宗派	本尊	所在地
八屋地区	1	永寿寺	矢倉山	真宗木辺派	阿弥陀如来	大字大村1482番地
	2	宝福寺	東光山	黄檗宗	薬師如来	大字八屋745番地
	3	賢明寺	紫金山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字八屋1347番地
	4	正明寺	智光山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字赤熊843番地
	5	教円寺	宝林山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字宇島481番地
角田地区	6	満光寺	常喜山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字畑1546番地
	7	来迎寺	平照山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字馬場837番地
	8	正法寺	宝樹山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字松江285番地
	9	浄円寺	湯越山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字松江404番地
	10	願行寺	護法山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字松江403番地
山田地区	11	選仏寺	明覚山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字四郎丸1327番地
	12	願成寺	猪倉山	真宗木辺派	阿弥陀如来	大字四郎丸633番地
	13	洞田寺	瑠璃光山	曹洞宗	薬師如来	大字川内2614番地
	14	西楽寺	常住山	真宗木辺派	阿弥陀如来	大字川内2540番地
	15	鳥越説教所	-	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字鳥越317の1番地
三毛門地区	16	正念寺	清涼山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字沓川489番地
	17	明徳寺	獅伏山(紫福山)	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字三毛門805番地
	18	善正寺	梅高山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字市丸205番地
黒土地区	19	徳善寺	明光山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字岸井334番地
	20	長久寺	大井山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字久路土828番地
千束地区	21	円光寺	法性山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字吉木690番地
	22	正円寺	宝林山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字千束229番地
	23	松濤庵	-	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字千束299の3番地
横武地区	24	明照寺	松林山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字狭間589番地
	25	西教寺	白雲山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字大西287番地
	26	明泉寺	林河山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字山内699番地
	27	東光寺	薬師山	黄檗宗	阿弥陀如来	大字薬師寺381番地
	28	如法寺	常在山	黄檗宗	如意輪観世音菩薩	大字山内991番地
合河地区	29	浄福寺	長谷山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字下河内1844番地
	30	浄心寺	慈弘山	真宗木辺派	阿弥陀如来	大字下河内1609番地
	31	慶雲寺	萱切山	真宗木辺派	阿弥陀如来	大字下河内1843番地
	32	応因寺	永誓山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字上川底854の2番地
岩屋地区	33	法覚寺	巌石山	真宗大谷派	阿弥陀如来	大字大河内718番地
	34	宝寿寺	放光山	浄土真宗本願寺派	阿弥陀如来	大字鳥井畑660番地


豊前市全図
福岡県略図
豊前市の寺院
凡例
1:25,000
1 永寿寺
2 宝福寺
3 賢明寺
4 正明寺
5 教円寺
6 満光寺
7 来迎寺
8 正法寺
9 浄圓寺
10 願行寺
11 選仏寺
12 願成寺
13 洞田寺
16 正念寺
17 明徳寺
18 善正寺
19 徳善寺
20 長久寺
21 円光寺
22 正円寺
24 明照寺
25 西教寺
26 明泉寺
27 東光寺
28 如法寺
29 浄福寺
30 浄心寺
32 応因寺
33 法覚寺
34 宝寿寺

（３）石造美術

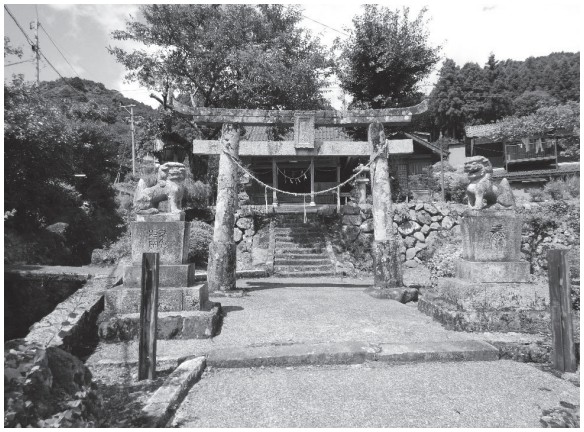
豊前市史によると、石造美術としてあげられているのは、層塔 3 基、宝塔 4 基、宝篋印塔 4 基、五輪塔 4 基、板碑 8 基、単独石仏 8 基の他に八十八か所仏・諸仏・妙見菩薩の石仏、石灯籠 3 基、鳥居 9 基、狛犬 8 基、墓塔圭頭墓 6 基、墓塔斗桝墓 19 基、自然石碑・磨崖碑・角柱碑（笠付・圭頭）・石祠など 45 基、標類 7 基、石橋 1 橋となっています。

求菩提山が修験道場であったことからも宝塔に関する石造物が多く見られます。

国玉神社（求菩提山）の五重塔と宝篋印塔

求菩提山の宝塔

石清水八幡宮（久路土）の鳥居と灯籠



大山祇神社（鳥井畑）の鳥居

山内集落内の石碑

清原御旅所（下河内）の石柱

種　類	名　称	所在地
層塔	不動窟の三重塔	岩屋地区(求菩提山)
層塔	岩洞窟の三重塔	岩屋地区(岩洞窟)
層塔	求菩提山の五重塔	岩屋地区(求菩提山　国玉神社)
宝塔	求菩提山の宝塔	岩屋地区(求菩提山　鬼神社)
宝塔	岩洞窟の宝塔	岩屋地区岩屋（岩洞窟)
宝塔	夫婦木の宝塔	合河地区夫婦木
宝塔	地蔵堂の宝塔	岩屋地区岩屋（地蔵堂)
宝篋印塔	求菩提山の宝篋印塔三基	岩屋地区求菩提山
宝篋印塔	(1) 山の神塔	岩屋地区(求菩提山　広沢宮司宅裏山)
宝篋印塔	(2) 国玉神社左の塔	岩屋地区(求菩提山　国玉神社)
宝篋印塔	(3) 日吉神社前の塔	岩屋地区(日吉神社)
宝筐印塔	道祖神社の宝篋印塔	横武地区才尾(道祖神社)
五輪塔	如法寺の五輪塔	横武地区(如法寺)
五輪塔	大理石製の五輪塔	
五輪塔	一石五輪塔	角田地区馬場　永寿寺墓地 八屋地区宝福寺の南　崎山墓地 横武地区山内　如法寺　など
五輪塔	積上式五輪塔	角田地区原井　猛勇神社近く
板碑	挟間の板碑	横武地区(千手観音堂)
板碑	原井の両面板碑二基	角田地区
板碑	丸山家墓地の両面板碑	角田地区
板碑	猛勇神社の両面板碑	角田地区(猛勇神社)
板碑	天和の板碑	合河地区(合八幡神社前の田の畔)
板碑	求菩提山の角塔婆	岩屋地区(求菩提山)(合河地区大稗の小堂内)
板碑	六郎公民館前の板碑	三毛門地区(六郎公民館前)
板碑	常行堂の自然石板碑	岩屋地区(求菩提山中宮社務所東側常行堂跡)
板碑	雁股山の板碑	合河地区(雁股山)
単独石仏	松本家具製作所の地蔵	宇島地区西神明(長洲の坂の下)(松本家具製作所)
単独石仏	宝福寺の地蔵	八屋地区前川(宝福寺)
単独石仏	安浄寺跡の地蔵	岩屋地区求菩提山(安浄寺跡)
単独石仏	たたき地蔵	岩屋地区求菩提山
単独石仏	求菩提山の六地蔵塔	岩屋地区求菩提山(求菩提山尾根の墓地入口)
単独石仏	丸山墓地の聖観音	千束地区上千束(丸山墓地)
単独石仏	ヤネンドーの十一面観音	合河地区立岩(屋根ノ堂(ヤネンドー))
単独石仏	求菩提山登山口の十三仏	岩屋地区求菩提山(一の鳥居から登山道100m程)
単独石仏	求菩提山の八十八ケ所仏	岩屋地区求菩提山(求菩提山登山道)
単独石仏	岩洞窟の諸仏	岩屋地区岩屋
単独石仏	岩洞窟の妙見菩薩	岩屋地区岩屋
石燈籠	大富神社の燈籠	四郎丸地区(大富神社)
石燈籠	嘯吹八幡神社の燈籠	横武地区(嘯吹八幡神社)
石燈籠	求菩提山の燈籠	岩屋地区(求菩提山)
明神鳥居	賀茂春日神社の鳥居	三毛門地区久松(賀茂春日神社)
明神鳥居	石清水八幡神社の肥前系鳥居	黒土地区久路土(石清水八幡神社)
明神鳥居	道祖神社の鳥居	横武地区才尾(道祖神社)
明神鳥居	国玉神社の鳥居	岩屋地区(求菩提山　国玉神社)
明神鳥居	沓川神社の明神鳥居	三毛門地区沓川(沓川神社)
明神鳥居	七社神社の鳥居	岩屋地区中畑(七社神社)
明神鳥居	大山祇神社の明神鳥居	岩屋地区鳥井畑(大山祇神社)
神明鳥居	大富神社の神明鳥居	山田地区四郎九(大富神社)
狛犬	須佐神社の狛犬	山田地区下鳥越(須佐神社)
狛犬	角田八幡神社の狛犬	角田地区中村(角田八幡神社)
狛犬	菅原神社の狛犬	八屋地区前川(菅原神社)

種　類	名　称	所在地
狛犬	大富神社の狛犬	山田地区四郎丸(大冨神社)
狛犬	春日神社の狛犬	三毛門地区三毛門(春日神社)
狛犬	四公神社の狛犬	八屋地区明神(四公神社)
狛犬	貴船神社の狛犬	合河地区立岩(貴船神社)
神使	厳島神社の鹿	八屋地区明神(厳島神社)
圭頭墓	－	山田地区　中田
圭頭墓	－	合河地区　合岩中学校裏山
圭頭墓	－	角田地区　馬場の永寿寺墓地
圭頭墓	－	宇島地区　戸津田
圭頭墓	－	角田地区　馬場の永寿寺墓地
圭頭墓	－	山田地区　鳥越の湯吹山、清原家墓地
斗枡墓	－	横武地区永久　大蔵家墓地　三基
斗枡墓	－	横武地区　挟間観音橋手前(挟間集会所裏) 左側墓地四基
斗枡墓	－	横武地区挟間　楠本家墓地　二基
斗桝墓	－	角田地区松江鶉迫　浄円寺住職墓地
斗桝墓	－	八屋地区大村横谷　佐藤家墓地
斗桝墓	－	横武地区永久　大蔵家墓地
斗桝墓	－	横武地区挟間　楠本家墓地
斗桝墓	－	合河地区大河内　東の山麓
斗桝墓	－	黒土地区岸井　徳善寺住職墓地
斗桝墓	－	角田地区原井　安部家の墓塔　　四基
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　不動院跡
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　愛宕社横
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　獅子の口
磨崖碑(紀名あり)	－	求菩提山　阿弥陀窟右
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　朝日窟入口
角柱(紀名あり)	－	求菩提山　中宮の右
磨崖碑(紀名あり)	－	求菩提山　阿弥陀窟
石祠(紀名あり)	－	求菩提山　中宮右
磨崖碑(紀名あり)	－	求菩提山　阿弥陀窟
圭頭角柱碑(紀名あり)	－	求菩提山　下谷入口
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　阿弥陀窟
笠付角柱碑(紀名あり)	－	角田地区　平寿寺
庚申塔(紀名あり)	－	求菩提山　鬼石坊跡手前、主道路脇右
笠付角柱碑(紀名あり)	－	求菩提山　豊照神社
角柱碑(紀名あり)	－	三毛門地区　出家
自然石碑(紀名あり)	－	横武地区　大西神社
庚申塔(紀名あり)	－	山田地区　四郎丸、荻田、貴船神社
自然石碑(紀名あり)	－	八屋地区　本町、大林家墓地
自然石碑(紀名あり)	－	八屋地区　前川、宝福寺
自然石碑(紀名あり)	－	求菩提山　豊照神社左
自然石碑(紀名あり)	－	八屋地区　二葉、丸尾墓地
角柱碑(紀名あり)	－	岩屋地区　篠瀬　バス停横
自然石碑(紀名あり)	－	宇島地区　昭和町　長厳寺山墓地
自然石碑(紀名あり)	－	角田地区　松江　地蔵堂
自然石碑(紀名あり)	－	山田地区　梶屋　洞田寺
角柱碑(紀名あり)	－	八屋地区　教校　三本松墓地
笠付角柱碑(紀名あり)	－	千束地区　上千束　丸山墓地
笠付角柱碑(紀名あり)	－	八屋地区 大村 横谷 友枝家墓地
自然石碑(紀名あり)	－	八屋地区　前川　菅原神社

種　類	名　称	所在地
自然石碑(紀名あり)	－	角田地区　松江　日本山妙法寺
自然石碑(紀名あり)	－	横武地区 上大西 生田一枝氏宅前
庚申文字塔(紀名あり)	－	求菩提山　杉谷入口
庚申文字塔	－	求菩提山　北谷出口
庚申文字塔	－	求菩提山　座主坊入口かみの主道路わき左
庚申文字塔	－	岩屋地区　篠瀬バス停
庚申文字塔	－	黒土地区　石清水八幡神社
猿田彦文字塔	－	山田地区　四郎丸今町　蛭子神社
猿田彦文字塔	－	山田地区　荻田　貴船神社
猿田彦文学塔	－	山田地区　大冨神社
猿田彦文字塔	－	山田地区　櫛狩屋　二の渡
猿田彦文字塔	－	横武地区　山内集落　旧道添い
猿田彦文字塔	－	合河地区　大河内集落　旧道添い
猿田彦文字塔	－	宇島地区　沓川一本松の四叉路
猿田彦文字塔	－	三毛門地区　春日神社前
道祖神文字塔	－	山田地区　下鳥越集落内
標類(郡界標)	上毛・築上の郡界石	松江地区
標類(領界標)	藩界石	黒土地区　久路土
標類(領界標)	藩界石	黒土地区　高田
標類(道標)	求菩提道道標	八屋地区　前川・上町・下町・本町の四つ角
標類(道標)	－	求菩提山　旧登山口
標類(道標)	－	求菩提山　安浄寺跡前
標類(郡界標・領界標・道標)	－	求菩提山　愛宕社北　峰尾
石橋	大阪屋橋	八屋地区前川（現在はフレスポに遺構は移動）

（４）古文書

中世文書	
津野田文書	天正7年～天正14年
末久文書	建保5年～天正10年
友枝（内尾）文書	永正12年～享禄5年
唐原天満宮文書	元弘3年～享和2年
西郷文書	延文5年～永禄12年
大富神社文書	
大蔵澄子文書	文明1年
角田則行文書	明応6年～天文3年

求菩提山文書
大内氏関係文書
大友氏関係文書
求菩提山法度
臼杵氏関係文書
豊臣秀吉制札
黒田氏関係文書
細川氏関係文書
長岡氏関係文書
宗門帳
御請状
御神米銀取配当控帳
松会祭礼役指帳
御納米二五石割帳
補任状

大富神社文書

近世文書	
○支配	
御案内覚帳	延享3年
上毛郡役心得書上巻、上毛郡地利益書下巻	文化3年
上毛郡井樋鑑	文化10年
御案内の者心得方申合候書付	天保9年
御条目写	天保8年
法度書	明治2年
公文録　版籍奉還の部	明治2年
公文録　千束藩の部	明治2～4年
勧農並心得書	明治3年
○長州征討戦	
海岸共外締方手配帳	慶応2年
御家中従類上毛郡え入込人数控	慶応2年
御家中従類控帳	慶応3年
上毛郡両手永村々農兵名前書上帳	慶応3年
○村	
（上毛郡村々明細帳）	寛政7年
上毛郡両手永村々庄屋名前帳	文化元年
豊前国上毛郡の内郷村高帳	天保5年
豊前国内道路及び郡内地付戸籍控帳	天保9年
上毛郡大庄屋格以上名前書上帳	文久3年
覚（村方公簿引継文書）	未8月
上毛郡村々預山書上帳	明治5年
○戸口	
上毛郡男女人別御改惣寄帳	安政5年
六郷村名竈数其外調子帳	慶応2年
○貢組	
上毛御勘定三組寄帳	寛文2年
簑嶋・椎田・八屋・宇嶋川口運上取立御法帳	慶応4年
（郷中算法論）	年代不詳
○産業・商業	
上毛郡村々酒造稼の者名前書上帳	慶応3年
上毛郡村々職業並商売仕候者書上帳	慶応3年
上毛郡八屋村諸商人御免札受書上帳	慶応4年
上毛郡村々諸物産書上町	明治2年
御届申上候覚（漁網返却に際し争論のこと）	2月10日
○宗教	
指上ケ申宗旨替証文の事	元禄7年
指上申宗門月改の事	宝暦9年
指上申宗門証文の事	明和2年
就宗門御改諸証文控	嘉永3年
○総記	
万屋文書	天保9年～明治3年
（小倉新田藩郡役・倉橋源兵衛日記）	天保10年
天保13寅ヨリ御用方日記帳	天保13年～弘化元年

（５）民俗芸能・祭礼

①豊前神楽

＜保存団体：岩屋神楽講・山内神楽講・黒土神楽講・三毛門神楽講・大村神楽講・中村神楽保存会＞

豊前の神楽の起源は、山伏により演じられる宗教儀礼として成立していたと考えられますが、文献などでその内容が確認できるのは江戸時代以降です。「大富神社文書」などによれば、祈雨祈晴、疫病退散などの祈願に神楽が奉納された記録が多数残されています。

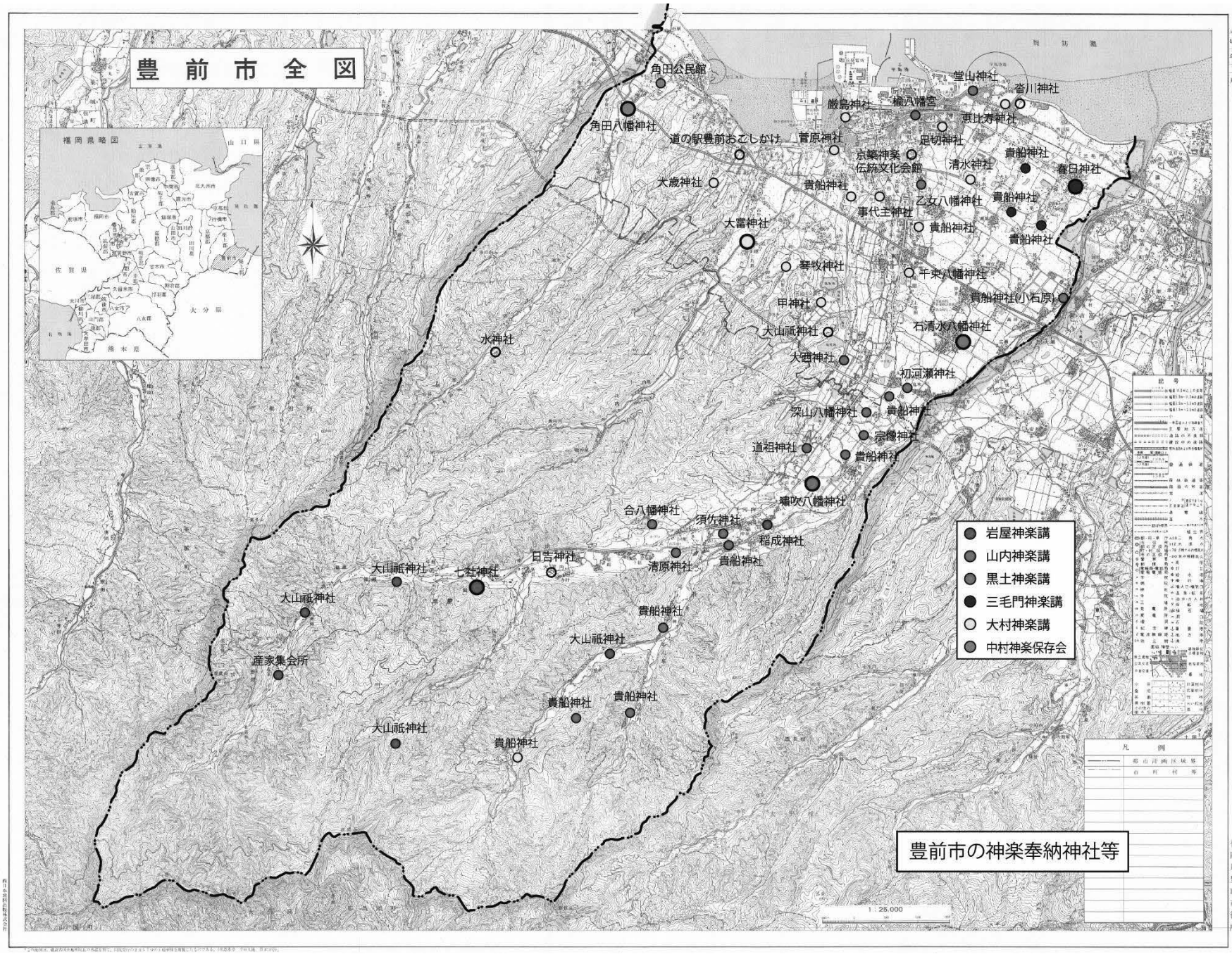
豊前市内では現在 6 つの保存団体により伝承されています。岩屋神楽講（七社神社）、山内神楽講（嘯吹八幡神社）、黒土神楽講（石清水八幡神社）、三毛門神楽講（春日神社）、大村神楽講（大富神社）、中村神楽保存会（角田八幡神社）で「豊前神楽」として旧豊前国の 33 の神楽団体とともに国の重要無形民俗文化財に指定されています。毎年 9 月から 12 月の間、市内 50 ヵ所余りの神社等で氏子の求めに応じて奉納されています。

豊前神楽の特徴は、駈仙（御先）という象徴的な鬼が奥の演目でその主役を務め、まさに「鬼神楽」と称してもよいところにあります。

一方で湯立神楽には修験道的要素の強い内容も見ることができ、豊前修験道の「松会」行事の影響を強く受けた内容は、他の地域では見られない豊前神楽独特の演目として評価されています。

表　神楽講と奉納神社

神楽講名	奉納神社等
岩屋神楽講	**七社神社**　日吉神社　大山祇神社(鳥井畑)　稲成神社 大山祇神社(夫婦木)　大山祇神社(枝川内)　産家集会所　沓川神社 大山祇神社(篠瀬)　大山祇神社(青畑)
山内神楽講	**嘯吹八幡神社**　道祖神社　日吉神社　貴船神社(下川底) 貴船神社(中川底)　貴船神社(立岩)　清原神社　貴船神社(松尾川内) 貴船神社(挟間)　楡八幡宮　大西神社　宗像神社　深山八幡神社 須佐神社　貴船神社(永久)　合八幡神社　大山祇神社(青畑)
黒土神楽講	**石清水八幡神社**　乙女八幡神社　貴船神社(小石原)　堂山神社 初河瀬神社　沓川神社
三毛門神楽講	**春日神社**　貴船神社(恒富)　貴船神社(三楽)　貴船神社(市丸)
大村神楽講	**大富神社**　厳島神社　貴船神社(東吉木)　清水神社　水神社 貴船神社(轟)　千束八幡神社　足切神社　菅原神社　恵比寿神社 貴船神社(田淵)　沓川神社　甲神社　事代主神社　大歳神社 琴牧神社　大山祇神社(青畑)
中村神楽保存会	**角田八幡神社**　水神社　角田公民館


豊前市全図
福岡県略図
山口県
佐賀県
大分県
豊前市の神楽奉納神社等
岩屋神楽講
山内神楽講
黒土神楽講
三毛門神楽講
大村神楽講
中村神楽保存会
角田公民館
角田八幡神社
道の駅豊前おこしかけ
菅原神社
京築神楽伝統文化会館
堂山神社
沓川神社
厳島神社
楡八幡宮
恵比寿神社
足切神社
清水神社
貴船神社
春日神社
乙女八幡神社
事代主神社
大歳神社
大富神社
琴牧神社
千束八幡神社
甲神社
貴船神社(小石原)
石清水八幡神社
大山祇神社
水神社
大雷神社
初河瀬神社
深山八幡神社
宗像神社
道祖神社
嘯吹八幡神社
合八幡神社
須佐神社
稲成神社
清原神社
日吉神社
七社神社
産家集会所
1:25,000

岩屋神楽講

山内神楽講

黒土神楽講

三毛門神楽講

大村神楽講

中村神楽保存会

②豊前感応楽（山田の感応楽）

＜保存団体：豊前感応楽保存会＞

大富神社は春の「神幸祭」、夏の「夏越祭」、秋の「御供揃祭」と 3 つの大祭があり、中でも最も規模の大きいものが春季神幸祭で、その際隔年で奉納されるのが「山田の感応楽」です。感応楽は天地感応楽、又は国楽とも呼ばれています。もともとは 6 月 30 日、7 月 1 日の夏越祭で行われていましたが、明治 10 年（1877）頃から春の神幸祭にあわせて 4 月 30 日と 5 月 1 日に行われるようになりました。その目的は

大富神社春季神幸祭

五穀豊穣、雨乞い、天下泰平、国家長久の祈願であり、人事を尽くして及ばざる最後の手段として神の前に一念を捧げその年の豊作を祈願したといいます。

感応楽は大富神社のほか、住吉御旅所、四郎丸地区にある大富神社の末社(10ヶ所)で楽打が奉納されます。その内容は祭文の奏上に始まり、第1楽から第19楽まできわめて複雑な所作で構成されています。この感応楽を奉納するのは四郎丸地区の前の谷と迫の谷と呼ばれる地区の氏子で、中楽(6人)、団扇使い(2人)と呼ばれる楽人を中心に大団扇(2人)、囃子方(笛12人、鉦4人)、水取り(2人)、読み立て(2人)、そして子どもが演じる側楽(花楽)です。祭り当日は大富神社でのお立ちの楽打に始まり、最後はお着きの楽が同じく大富神社で奉納されます。大振の締太鼓を胸前に抱え、6人の中楽が激しい動きで演じる様は圧巻で、単調な所作が多い近隣の楽打の中にあって、出色の内容を持っています。

県無形民俗文化財に指定されているとともに、文化庁により記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財に選択されています。

③豊前楽（角田八幡神社の豊前楽）

＜保存団体：中村区文化財保存会＞

豊前楽は、角田八幡神社に伝わる楽打で、祭文によればその起源貞観6年（864）とされています。もともとは毎年春の神幸祭（5月19・20日）に奉納されていましたが、今は5月の第3土・日に隔年で奉納されています。神幸行列は、角田、松江の氏子が担い、太刀（2人）、鉾（2人）、旗、傘鉾（2台）、神輿で構成されます。かつては角田、松江、西角田の三地区で盛大に執り行われ、楽打ちの他に二基の山車（西町七社神社、恵比須神社）3台の神輿（馬場、畠中、西角田）2台の傘鉾（中村）が参加していました。

豊前楽

山車は昭和50年（1975）頃を最後に中断していましたが、平成24年(2012)に興祇会(地元の青年団)を中心に再興されました。

行列は角田八幡神社を出発し、馬場、中村、畠中を巡行して、西廻の年は松江の七社神社に、東廻の年は恵比須神社を御旅所として一泊し、翌日には再び角田八幡神社へ帰るルートを辿ります。

豊前楽は囃子方6人（大太鼓、小太鼓、大鉦、小鉦、笛）、踊り方20人程度、読立たて1人、介添人1人で構成され、陣形は直線的に2列に並び、それぞれの列が対峙して交差しながら陣形を変えてゆきます。舞いは、田遊びの内容を表現しているといわれ、太鼓は小振りの締太鼓が用いられ、比較的ゆっくりとしたテンポで、笛、鉦と絶妙な音色を醸し出します。

④求菩提山のお田植祭（求菩提山松会）

＜保存団体：求菩提山お田植祭保存会＞

求菩提山国玉神社中宮前の広場にて、毎年3月29日（現在は3月30日以降とならない最終

日曜日）に行われる松会は、豊作を予め祝う祭りで、少なくとも鎌倉時代前期から伝承されていると考えられており、現在では「田行事」のみが伝えられています。県無形民俗文化財に指定されています。

「松会」はもともと求菩提山や英彦山をはじめとする旧豊前地方の修験道寺院で行われた神仏習合の祭ですが、現在求菩提山では国玉神社の神事として「神幸祭」と「田行事」のみが伝えられ、「幣切り行事」は戦後途絶えたままです。

求菩提山のお田植祭

祭りは国玉神社中宮前の広場で、春の種まきから秋の採り入れまでの農作業を真似ての所作が神歌にあわせてユーモラスに繰り広げられます。祭はまず午前中に神幸祭として御神輿が御旅所に向かう御くだりが行われ、そのあとに松庭で神楽の奉納（岩屋神楽講）が行われます。午後、国玉神社中宮前の広場（松庭）に「遣巻（やりまき）」と呼ばれる神歌が流れるなか、いよいよ「お田植祭」の始まりです。米作りにかかるお百姓の農作業がユーモラスに演じられてゆきます。

①畦切り　菅傘を被った白装束の男が畦草を刈る様子を演じます。すると草の中から蜂が出てきて、慌ててそれを追い払う様子が観衆の笑いを誘います。

②田打ち　花笠を被った稚児が登場し、二人ずつが歩み出て木製の鍬と棒を叩き合わせて田打ち（鍬で耕す）の所作を真似します。

③畦塗り　鍬を担いで現われた白装束の四人の男たちが、大きな動作で畦を塗って行きます。

④田鋤き　のっしのっしと張子の牛が登場し、田を鋤いて行きます。懸命に手綱を操る牛使いをあざ笑うように反対方向進んだり、寝転んだりとなかなか言うことを聞きません。そのユーモラスな掛け合いがこの祭の最大の見せ場です。

⑤種子蒔き　ようやく田ごしらえが終り、菅笠に白装束の男が静かに種を蒔き始めます。御神歌が流れる中、その年の豊作を願うように四方に種を蒔いてゆきます。

⑥田植え　ここで花笠に赤や青の袴をはいた稚児が登場し、田植え歌に合わせて田植えの所作をします。その所作は形式的なものですが、かわいい子どもたちの単純な動きがかえってほほえましく映ります。本来は早処女（そうとめ）による所作であったかと思われますが、今は単に子ども達がその役を担っています。

田植え

⑦孕み女・うない　女装をした孕み女（身持ち女）と、うない（初花乙女）が大きな鉢にてんこもりのご飯を抱え、柄鏡と櫛で御髪を整えながらユーモラスに松庭を廻ります。「孕み女・うない」は生命の誕生を豊作に擬えたもので、穂ばらみを期待する所作といえます。

⑧田誉め　最後に傘をさした神官を先頭に演者全員が「ほーう、ほーう」の掛け声とともに松庭を廻ります。この時、演じる者、観る者とが一体となって大合唱となり、祭を締めます。こうした所作は近隣の他の田行事には見られず、求菩提山で特徴的な所作といえます。こうした所作を演ずる人たちは松役と呼ばれ、かつては修験者（山伏）がこれを行なっていましたが、現在は麓の岩屋地区の保存会の人たちが祭を支えています。最後に神楽が一番舞われ、駈仙鬼を先頭にお神輿が御旅所から本殿に向かう御のぼりが行われ、祭は終了します。

田誉め

⑤清原神事

「嘯吹八幡神社縁起書」（年代不詳）によれば、祭は寛平 2 年（890）に始まると記されています。はじめは 11 月（霜月、初卯日）に行なわれていましたが、明治以降に 4 月の行事となり、現在は 4 月の第 2 土・日曜日に執り行われます。中世には宇都宮氏、近世には小笠原氏の関与が知られ、祭神は神功皇后（八幡神、竹内宿禰）、応神天皇、仲哀天皇で、それぞれの神輿で御旅所まで巡行します。

清原神事

第 1 日目は、まず朝早く八尋ヶ浜で次官（じがん）が塩汲みをします。午前 9 時から山内の神輿が住城の大山祇神社に巡行し（3 年に一度）午後 2 時頃には神社に戻ります。午後 3 時から三基の神輿と傘鉾を中心とした神幸行列が御旅所である清原神事場を目指します。行列の構成は次官（塩筒）、高幣（たかべい）、鉾面（鬼面の赤、青）、幣台（お上りは子ども会）を先頭に傘鉾・神輿、傘鉾・神輿、傘鉾・神輿、の順に続き氏子はそれぞれ山内、大木・為国・中組、四ツ口・合原の組み合わせで傘鉾と神輿を担ぎます。神輿の順番は山内だけが決まっていて、お上りは二番目、お下りは一番目とされ、他はその年で違うようです。以前はこの後に神馬役・神官車が続いていました。また、高幣がそれぞれの神輿と傘鉾を受け持つことになります。途中の須佐神社でお神輿を鎮め、午後 8 時頃には清原神事場に到着し、入り口の二塚神社（猿田彦命、天鈿女命）で祭典を行った後、神事場に入ります。最後に神輿を浮殿に収納した後にお着きの神楽が舞われ、初日の行事が終了します。以前は宇佐神宮から刀を携えた 54 人の警護役が派遣されてきたといいま

すが、今は次官が御旅所に泊まって守護しています。

第 2 日目は午後 1 時から山内神楽講によりお立ちの湯立神楽が奉納され、同じルートでお下りが行なわれます。午後 8 時頃には嘯吹八幡神社に戻り、神殿に神輿を納め全ての行事が終了します。拝殿では遅くまで神楽が奉納され、祭神の帰還を祝います。巡行の途中では決められた場所でそれぞれの神輿が高く天に掲げられ、また、氏子によって激しく回転させて雄姿を競います。

湯立神楽

⑥大富神社春季神幸祭（八屋祇園）

＜保存団体：八屋祇園連絡協議会＞

大富神社春の大祭である「神幸祭」の起源は縁起によると、天平 12 年（740）の「藤原広嗣の乱」に際し、その鎮圧に功績のあった上毛郡の擬大領、紀宇麻呂の凱旋の様子を模したものと言われます。この神幸祭は江戸時代までは名越祭と同時に旧暦 6 月 29 日に行われていましたが、明治初年に名越祭と分離して 4 月 30 日､5 月 1 日に行われるようになりました。県無形民俗文化財に指定されています。

祭の前日（4 月 29 日）には大富神社では茅輪設置や、神輿の準備などが行われます。八屋の町では 4 月初めから始められた祇園の準備がクライマックスを迎え、踊り車は午前中には汐かきを済ませ午後からは各町内を廻り始めます。船車は午後には町内を出発し、御旅所で汐かきをした後に提灯で飾り付けを行います。一方の山鉾も午後 3 時頃には御旅所で汐かきを行なった後、夕方にかけて前川橋附近で提灯の飾り付けを行います。そして船車と山鉾は上町の四辻で行き交い、幻想的な提灯山となって観衆を魅了します。ここでは船車が四辻を明神方向に曲がるまでは山鉾は通過することが出来ず、昔はその通過を巡っていさかいがおこる事もあったと言います。さらに、山鉾も上町が通るまで本町は通ることは出来ません。その上町の山鉾が狭い四辻を片方の脚を跳ね上げて 90 度廻す操作はスリル満点で、見事としか言いようのない技です。

大富神社春季神幸祭

1 日目（4 月 30 日）の午後には、神前で幣を立てた船形（船御輿）のまわりに一文字笠、紋

服、白扇姿の唄衆が蹲居(そんきょ)し、船歌を唱和することから始まります。次いで感応楽の奉納（隔年で、神楽と交互に奉納）がすむと、笛衆・笠鉾・船形・神輿三台・神職が乗った神馬の順で、八屋の八尋浜の御神幸場（旅所）まで巡幸（御くだり）します。途中、上町の三叉路で船車（明神、住吉が一年交代）が行列をお迎えし、これに従うように各町内の踊り車（下町、八幡町、前川）や山鉾（本町、上町）がそれぞれに御旅所を目指します。また、上町の四辻では行列、船車、踊り車、山鉾の通過する順番が決まっていて、昔ながらのしきたりが守られています。おそらく江戸時代の八屋の町で、中心となる辻だったと考えられます。また、本町の宇都宮家では行列の通過後に古井戸から汲んだ水を当主が桶に入れて担いで御旅所へと向います。この水は翌日のお田植神事で使われますが、その謂れははっきりとしません。さて、先に御旅所についた行列は氏子達によって神輿の練り込みが行なわれ、順番に浮殿に納められます。お着きの神事の後、舟歌組による「四季の口説」が奉納され、再び「感応楽」の奉納で初日を終えます。そして、夕刻になるとまず船車が、次いで山鉾（午前中に飾り山に衣替え）が、さらに宵闇迫る頃には踊り車が次々と御旅所に到着し、祭はクライマックスを迎えます。山車が一気に広場へ入る様は勇壮で、祭りの醍醐味を感じさせます。

2 日目（5 月 1 日）は午前中に神事が行なわれた後、昼頃には踊り車が前川、下町、八幡町の順に出発します。午後 2 時からは盛り砂にチガヤの束を 18 本植えて水をかけるお田植神事があり、次いで茅の輪を奉仕者がくぐりぬける「茅の輪くぐり」が行われます。午後 3 時半には神幸行列が御旅所を出発し、お上りとは別の広山を経由して大富神社を目指します。続いて午後 2 時半には船車が出発し、前川まで神幸行列を送った後町内へ向います。さらに 5 時半頃に上町、本町の山鉾が相次いで出発します。一方、感応楽はこの日は早朝から四郎丸の各神社で奉納を行い、神幸行列が大富神社に着く夕方 7 時頃をめどに神社でお着きの奉納を行います。大富神社に着いたお神輿は、各町内の氏子によって境内で練り込みが行なわれた後、御神殿に納められ祭りは終了します。

その頃、八屋の町ではまだ祇園車の巡行が行なわれていて、特に踊り車は新天街の三叉路で競演会を行い宇島駅まで巡行した後に各町内へと帰ってゆきます。

大富神社春季神幸祭

⑦宇島祇園（宇島神社春季神幸祭）

＜保存団体：宇島祇園保存会＞

宇島祇園の始まりは、宇島港築港中の文政８年(1825)に小倉藩主小笠原忠固公が、海路江戸表へ参勤交代の途中、工事の進捗状況の確認に訪れた折に大時化に遭い、あわや遭難というところを宇島より亀町、蓬莱町の漁民が漁船で漕ぎ出し無事宇島港まで曳航したことに忠固公が感激したことに由来するとされ、翌文政 9 年(1826)より殿様祭りとして祇園祭を執り行うよう

になりました。

祭りは神輿に先導され、船を乗せた「天祥丸」という山車を先頭に本宮から御旅所まで各町内の神社で船歌を奏唱しながら進みます。船歌は世話人が音頭をとり上の句を、子供は下の句を歌い、鉦と太鼓による「コンコンチキリン」の囃子に乗って威勢よく大綱で引き廻します。踊り車は昭和 40 年代までは子供歌舞伎でしたが、現在では歌謡曲による舞踊となっています。

宇島祇園

祭りの初日は花（ご祝儀）貰いといって、各町内から 6 台の山車（天祥丸、八千代町、千代町、恵比須町、魚町、神明元町）が出て地区内を練りまわし、商家や有志の家に立ち寄り踊り等を奉納しながら宇島神社に集結します。翌 4 日（中日）は、祭典の後、各山車が注連で踊り等を奉納しながら小笠原神社で休憩。最後は御旅所である堂山神社に入ります。5 日（終日）は堂山神社（八千代町）を午後にお立ちとなり、神輿を先頭に町内を巡行した山車が宇島神社を前に一気に駆け込み、祭りはクライマックスを迎えます。舟歌が奉納され、踊りの競演と続き、最後に天祥丸の引き上げ音頭によって山車は町内に向かって引き上げ、祭りは終わります。

市無形民俗文化財に指定されています。

⑧厳島神社百手祭（厳島神社　八屋）

豊前のあちこちに鬼にまつわる伝説がありますが、厳島神社には「股手の藪」と呼ばれる小藪があり、そこには悪事を働いて人々を困らせた鬼の股と手とが埋められていると言い伝えられています。

百手祭では、しめ縄の張られたその小藪に神霊が宿るというヒモロギを立て、さらに藪の中ほどに「鬼」と墨書した的をかけ、それに向けて三度弓を引き矢を射ます。第一の矢は的の上一尺を、第二の矢は的の下一尺を、第三の矢は重ねた二枚の的を射抜きます。これを悪魔を払う「蟇目の法（ひきめのほう）」と呼びます。蟇目（引目）とは木製のやじりのことで、数個の穴があって、これを射るとき空気がその穴に触れて一種の音を発することにより、魔物を追い払うとされます。

百手祭（蟇目の法）

なお、前年の祭の座で、翌年の当番を籤引きで定め、「当前（とうまえ）」と呼ばれる籤で当たった 7 人が、百手祭の一切を受け持って、奉仕する決まりです。

かつては、祭りの作法や出される食事の内容など、厳格に事細かく執り行われていましたが、今では簡略化されています。

⑨山人（やまと）走り　（山内・下河内）

山人（やまと）走り

嘯吹八幡神社で行われる祭りで、次官（じがん）による神事として伝承されているものです。山内と下河内それぞれ12人の次官がいましたが、今は5人ずつに減っています。山人は当屋と呼ばれ、毎年当番で次官が勤めます。

前日、山内の当屋は榊を根から引き抜いてきて夜神前に供え、各次官の家に挨拶に廻ります。

当日の早朝には山内の次官が八尋の浜にお汐井取りに行き、岩岳川（永久）の宮ノ下にある畑の大根3本を抜き、その跡に御幣を立て岩岳川で大根を洗って帰ります。黒酒、白酒（甘酒と清酒で代用）、大根3本、汐筒、幣付きの榊2本を神前に供えます。

午前10時に羽織袴の次官が集まり祭典（シバ座）を行った後、鳥居の見える場所に斎場を設け、神饌を移します。そして、2人の当屋は白装束に白足袋、草鞋履きで、注連縄を腰に巻きそこに鉈を差して口には榊の葉をくわえ準備が整います。

午前11時、斎場で宮司の持つ榊の下部を握った次官はその瞬間カミとなり、掛け声とともに宮司が榊を離すとそのまま走り出します。鳥居をくぐり県道を横切り山内集落を抜けて「歳越えの坂」にある「七ツ石」を並んで走りながら目指します。

「七ツ石」では向かって右端の石に山内の山人、左の端には下河内の山人が正座して心の中で祝詞を唱えます。そしてそれぞれ次の年の当屋の家に向かって走り始めます。その工程2〜3㎞程。到着した山人は草履のまま座敷に上がり、来年の当屋からお神酒を大杯で三杯頂いたところで人に戻るとされます。下河内では腰の鉈を渡すと「頭渡し」といいます。また、座敷にはコモを敷くことから「コモン座」と呼び、午前中には終わります。

山内は正午頃来年の当屋の家で宮司、次官が集まり直会を、下河内は午後2時頃から同じく直会を行い、終了となります。

⑩山人（やもど）走り　（大河内）

山人（やもど）走り

大河内の日吉神社には「山人（やもど・やまんど）走り」という儀礼が伝えられています。

大河内の日吉神社に祀られている神様は、求菩提山を守るため京都からはるばるとお迎えした神様だといわれています。この神様は京都の日吉神社から海路、瀬戸内海を通り、沓川の浦に着いてそこから岩岳川に沿って岩屋に着いたといいます。そして法覚寺の裏山にある「おとんごぜ」という場所に落ち着いたといいます。これを知った村長は夜が明ける前に数人の村人を連れてお迎えに向かいますが、その時村人の一人が打ち振る「ヒイトギ」で明かりを取りながら村長の家まで案内したといいます。途中、夜も明けたので「ヒイトギ」を道路わきの土中に突き刺していったところ、不思議

なことに数日してその「ヒイトギ」の木から柿の芽が出だしたそうです。一方、神社を建てるまで村長の家の座敷を仮御殿として過ごされる神様のもとには村人が代わる代わる酒やご飯を差し上げたそうです。「ヒイトギ」から芽吹いた柿木は以来、日吉神社のご神木として大切にされ、今は何代目か分かりませんが根元はこげているといいます。「ヒイトギ」は松明の代わりに使われた明り取りで、燃え残りの薪の先に残る火のことです。

祭りは 10 月初申(はつさる)日の午後に執り行われます。当日、神社に次官 6 人（以前は 12 人）と山人 1 人、それに宮司が午後 2 時に集まり、前日の夜に作った粥を入れた桶二つを神前に供えます。次官の 1 が御供殿でお盆の形をした器（白木）に赤飯、粢、ご神木から取った小さい柿の実を三つ乗せ、これを八つ（次官と宮司の分）整え、甘酒一桶、清酒一升を備えて控えます。

次官は口に榊の葉をくわえ、御供殿から神殿へ並び手送りで献饌、玉串奉奠を行います。

山人は山仕事の姿（荒縄を腰に巻き、鉈を差す）で御幣の付いた榊の枝を持って、神殿裏で待機します。本殿左の疫神社で祭典が始まり、修祓のあと山人が「ユードウ」という声を出し、このときからカミガカリとなります。

直ちに山人は境内南側の鳥居を走り出て旧道を通り 200mほど先のご神木(柿木)へと向います。目指す場所は時代によって変わってきました。大正時代までは元宮といわれる「おとんごぜ」（旧岩屋小学校の裏山の祠）まで、昭和初期からは「神の柿」を継ぐ若木があり、山人の走る距離は短縮されましたが、元宮の神に祈りをささげる山人の役割に変わりはありません。「神の柿」に着くとそこで荒縄を解き、この縄で持ってきた榊をご神木に縛り付けた後、神社へ帰りカミから人へ戻るといいます。

疫神社祭典終了後、本殿から拝殿へ撤饌を行い、拝殿での直会で終了します。なお、山人の役は次官が輪番で務める慣わしです。

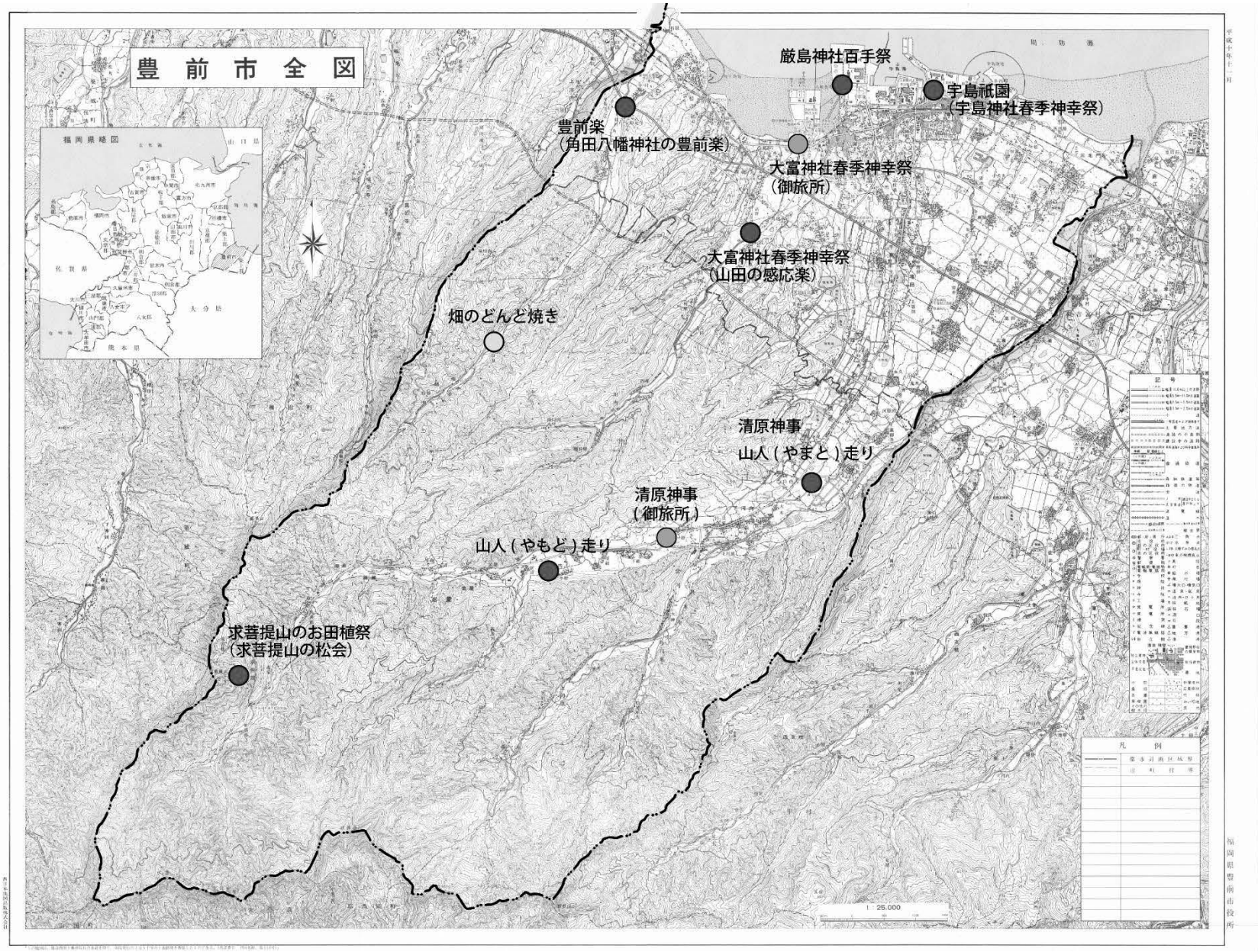
⑪畑のどんど焼き

＜保存団体：畑どんど焼保存会＞

日本では旧暦の１月 15 日を小正月といって、特別な日として意識してきました。正月の行事は主に火の儀礼であることはよく知られていますが、九州ではより古い習慣形態として農山村の火祭りとしてドンドが受け継がれてきたと考えられています。

畑のどんど焼き

豊前市を含む近郷ではかつてこのドンド焼きが盛んに行われていましたが、豊前市畑地区では特徴的な形態として行われています。一般的にこの地域のどんど焼きは竹の柱を芯にして松や杉を束ね搭のように積み上げますが、畑地区ではお篭り小屋という竹と藁で出来た建物を作り一週間程度この小屋で宴をしながら地域の人たちが交流をします。その間、お札や注連飾り等を建物の壁に飾りつけ、最後に無病息災、家内安全などを祈り、小屋に火が放たれます。勢いよく燃える火が周囲を照らし竹の弾ける音が谷あいに響きわたり、まさに火祭りと呼ぶにふさわしい勇壮な祭りです。


豊前市全図
福岡県略図
厳島神社百手祭
宇島祇園
（宇島神社春季神幸祭）
豊前楽
（角田八幡神社の豊前楽）
大富神社春季神幸祭
（御旅所）
大富神社春季神幸祭
（山田の感応楽）
畑のどんど焼き
清原神事
山人（やまと）走り
清原神事
（御旅所）
山人（やもど）走り
求菩提山のお田植祭
（求菩提山の松会）
凡例
1：25,000

【主な祭礼位置図】

（6）伝承・民話

豊前市史に記載された伝承は 27 件あり、自然に関するのもが 3 件、神功皇后に関するものが 7 件、和気清麻呂に関するものが 3 件、城に関するものが 4 件、信仰に関するものが 4 件となっています。市域の平野部から山間部まで各地の伝承が見られます。

豊前市史掲載の伝承

NO.	名称	種類	位置	概要
1	久松の夜泣き松	自然伝説	三毛門地区　久松 (観音堂)	観音堂にある二本の老松の葉で夜泣きの子供の体をさすってやると夜泣きはなおるという。（二本の老松は数年前に枯死)
2	天神様の石	自然伝説	岩屋地区　鳥井畑 (放光山宝寿寺(以前は宝寿庵))	宝寿庵寺の住職が、カガトに挟まった石を天神様の化生であろうと裏山の岩窟に祠を作り祀った。
3	行逢宮と大楠	自然伝説	黒土地区　鬼木 (貴船神社(別名:行逢宮))	景行天皇が九州平定のためはじめて土蜘蛛の軍と戦った場所で、大楠の下で勝ちどきをあげた。後年この地に貴船神社を祀り行逢宮と名付けた。この社地跡にある楠の大木の木瘤は鬼の面がついているようである。
	鬼木の楠			犬ヶ岳に棲む鬼が逃げ出す途中、鬼木の大楠の木に顔をブチつけて死んでしまい、それ以来この楠の木に木瘤が出来るようになった。
4	お腰掛	神功皇后巡幸伝説	角田地区　豊前松江駅東南	神功皇后が豊前路を巡幸した際、休憩された巨石がある。
5	湯越の由来	神功皇后巡幸伝説	山田地区	神功皇后は温泉に入浴して旅の疲れを癒すため通った峠を、湯越えと名付けた。
6	舟石	神功皇后巡幸伝説	山田地区　川内谷 (大富神社の奥の院といわれる神領地)	神功皇后は山田郷の温泉を探す時、この山に登り巨石を発見し、舟石と名付けた。
7	大村の由来	神功皇后巡幸伝説	山田地区　鳥越からキイト峠	神功皇后は、キイト峠から東の方を見下ろす村を、たくさんの民家が点在することから大村と名付けた。
8	馬洗池の話	神功皇后巡幸伝説	千束地区　野田	神功皇后はこの淵を気に入り、軍勢を止め馬のひづめを洗って休息したという。この淵を馬洗淵と呼ぶようになり、後年大きな池を築造した際に馬洗池と名付けた。
9	吉木の由来	神功皇后巡幸伝説	千束地区　吉木	神功皇后が船材を各地に求めた際に、吉木原の楠が良い木であることから良木と名付けた。それが吉木に変わっていった。
10	才尾の由来	神功皇后巡幸伝説	横武地区　才尾	神功皇后は水浴した清水の流れをさやの川と名付けた。それが訛って才尾の地名になった。
11	拝み松	和気清麻呂にまつわる伝説	山田地区　伏拝野(四郎丸)	和気清麻呂が大富神社を拝し皇室の安泰を祈願した場所(伏拝野)。 その記念に植えられた松の木一本を拝み松と名付けた。
12	岸井の霊水	和気清麻呂にまつわる伝説	黒土地区　岸井	岸井区の氏神恵美須神が鎮座していた跡地には今もきれいな清水が湧いており、岸井の地名にもなっている。
13	清水町の足洗池	和気清麻呂にまつわる伝説	三毛門地区　清水	和気清麻呂が足の病を癒したという。清水が出ることから清水村という。
14	山田城哀話	城にまつわる伝説	山田地区	戦国時代、新たな領主となった黒田氏と、土豪たち一揆との戦い。
15	馬場城の落城	城にまつわる伝説	角田地区　馬場	宇都宮氏の一族蜂谷氏代々の居城。
16	雁股城落城	城にまつわる伝説	合河地区　雁股山	南北朝時代は畠山氏の一族、その後は宇都宮氏の抱城。
17	鬼の石段	鬼にまつわる伝説	岩屋地区　求菩提山　中宮～上宮	昔、犬ヶ岳に住んでいた鬼が築いた850段の石段がある。
18	乳の観音	信仰伝説	横武地区　挟間　泉水寺の観音堂	観音堂の左右から出ている水をもらいその水で粥を炊いて食べると乳が出る、という言い伝えがある。
19	弘法様の井堰	信仰伝説	黒土地区　久路土　新生橋下の井堰	弘法大師が食のお礼に錫杖で堰の中をつつくと地中から水が噴き出し、その後どんな大旱魃があっても井堰の水は枯れることがない。
20	嘯吹八幡宮の赤鬼面と如法寺の焼不動	信仰伝説	横武地区	大友宗麟の大軍は、掲げられた鬼面から炎が噴き出した事に驚き、嘯吹八幡宮を焼き払うのを断念したという。 如法寺の本尊は大友軍に焼かれたが、不動堂を造り安置すると山内地区に火事が起こらないようになった。

NO.	名称	種類	位置	概要
21	人柱伝説	信仰伝説	千束地区　荒堀　池尾池	池尾池の堤防が決壊し、村の娘お倉を人柱にして堅牢な堤防が完成した。
22	「おとんごぜ」と柿の木	信仰伝説	岩屋地区　大河内 おとんごぜ、日吉神社	神様を迎え案内した時の明かりに用いたヒイトギの木から、柿の木が芽吹いた。その後日吉神社の神木となっている。
23	火の浦の由来	その他の伝説	岩屋地区　篠瀬　戸府	高野山と求菩提山双方の火が消え、お互いに火をもらいに行った使者が出会った場所で、天から火種が降ってきて双方の松明に火が付いた。
24	お秋伝説	その他の伝説	岩屋地区　求菩提　秋霧台	求菩提の登山口附近を秋霧台と言い、春先になると深い霧で覆われる。ここで非業の最後を遂げたお秋の怨霊のせいだといわれている。
25	足無川	その他の伝説	八屋地区　足無川(馬場川)	一揆の首謀者清兵衛は、命乞いの条件の馬場川を渡って向こう岸に渡る事ができず打ち首になった。その後この川を足萎川、訛って足無川となった。
26	大伝寺坂の哀話	その他の伝説	山田地区 大伝寺坂(広山から千束に抜ける上往還)	冬の木枯らしの吹く晩には大伝寺坂の近くから、子供を残して田んぼの中で息を引き取った女の悲しい呼び声が聞こえるという。
27	河童の伝説	その他の伝説	岩屋地区　大河内　長淵、 八屋地区　前川　城根川など	河童は少々いたずら好きで、人間と相撲を取ったり、淵に人や馬を引きこんで肝をとったりするという。

『豊劦求菩提山修験文化攷』に記載された伝説 35 のうち、その内容でみると、人間や動物に関するもの 15（鬼は 4、人は 4、タヌキは 3、など）であり、川や淵など水に関するもの 5、岩・石に関するもの 4 となっています（重複含む)。

その場所をみると、岩岳川の中流の大河内から源流をなす犬ヶ岳の間に、すべて存在しています。その内訳は、篠瀬 6、求菩提 6、大河内 5、産家 4、鳥井畑 4、宮ノ谷 3、他、となっていて、特に篠瀬から求菩提にかけて集中しています。

また、鬼に関する現存する伝承地は 11 あり、そのうち 7 は岩屋から求菩提に所在しています。

求菩提山調査の伝承

NO.	名称	位置	備考
1	鬼の石段	求菩提山　中宮～上宮	八屋峰尾、椎田峰尾に、鬼が逃げる時に捨てたという鬼石がある。
2	割れ石	大河内　法覚寺の裏山頂上	鬼が投げ落とした石ということで、鬼の手形といわれる跡も残っている。割れ石近くに清水が湧き出る井戸があると言われていた。
3	長淵(ながぶち)	大河内　下組から法覚寺の裏 (長さ１キロくらい)	鬼が一晩で掘ったという伝説の淵。
4	籠り水	求菩提山　普賢窟	求菩提山普賢窟前に籠り水(こもりみず)のお社が建っている。
5	鬼石坊(おにいしぼう)	求菩提山　鬼石坊の石垣	鬼神の霊験で怪力を得た鬼石坊という山伏が積み上げたと伝えられる石垣。
6	天満宮の御神体（成長石）	鳥井畑　宝寿寺境内	昔、住職の履物に挟まった石を持ち帰ったところ、少しずつ大きくなる不思議な石だった。
7	念仏岩	鳥井畑　宝寿寺境内	宝寿寺が天台宗から浄土真宗に転宗する時、今の本堂の位置にあった岩に向かって念仏を唱えると、大岩は横に動き、お寺を建てるために場所を譲ったという。
8	卜仙、定(じよう)に入る	宮ノ谷　卜仙地	鳥井畑と宮本の境に宮ノ谷がある。卜仙が即身成仏したと伝えられる場所で、小便などをすると罰が当たるなどと言われている。
9	片目の亀	犬ケ岳の蛇ケ淵	築上郡越路の片目の亀をつれてきて蛇ケ淵につけると、雨が降ると言われている。
10	小谷の由来	岩屋町　小谷	夢のお告げに誘い出された求菩提の山伏と、尻高の覚円寺（上毛郡）の住職とが出会ったという場所。昔は逢谷(おうたに)と書いていた。
11	祓川(はらいがわ)	産家(さんげ)　宮本	お産のために麓の産小屋で過ごしていた山伏の妻が山内に帰る時、身を清めたため川の名前が秡川と呼ばれるようになったと言われる。
12	お谷淵	産家　宮本	産家の宮本の横を流れる川に、お谷淵という深いところがある。昔この淵に身を投げたお谷さんが水底に引っ張りこむので、子供は近づくなと言われていた。
13	オコヤン淵	篠瀬　岡本製材所の下手	篠瀬の岡本製材所の下手に谷川があり、直径が約三メートルくらいの丸い淵になっている。昔、オコヤンと呼ばれる老婆が身を投げたので、オコヤン淵と言われるようになったという。

NO.	名称	位置	備考
14	ごうのむけ	鳥井畑　宮本	宮本部落の裏手に石を積み立て、その中央に大きな石を立てたものがあって、それをごう様といっている。そのごう様の向かいがごうのむけと言われるようになったと言う。
15	火の浦	篠瀬　戸府(とぶ)の県道横	法灯を絶やさぬように、分けた火を運ぶ途中、同じ役目の他山からの使者と求菩提の使者が出会った場所という。
16	卜仙(ぼくせん)	鳥井畑	鳥井畑の大山祇神社の下を流れる用水路と小谷が交るあたりに卜仙という所がある。
17	玄冲塚	築上郡築上町寒田(さわだ)	乳呑み坂を登りつめた尾根に玄冲塚を建てて非業の死を遂げた玄冲の零を弔っている。
18	乳呑み坂	築上町寒田～求菩提の途中	途中に休憩箇所のない長い急坂のため、背負った赤子が空腹で泣くが休むことができず、登り切るまでがまんをさせたところ、途中で眠ったと思っていた赤子がすでに事切れていた。
19	山姫	犬ケ岳	山にはいった男の生き血を吸うと信じられていた。
20	川姫	大河内　長淵	岩岳川の長淵で男が美しい女に手招きされ川に引きずりこまれる。
21	カワンツノ	宮ノ谷　卜仙地	鳥井畑と宮本の境に宮ノ谷がある。河童の地域での異名と思われる。
22	キンショキ	篠瀬　古屋敷	古屋敷部落の下の方の、しょうどん坂の下手に橋がかかっていた。いわゆるアズキトギの異名と思われる。
23	なべだんのキツネ	篠瀬　戸府　火の浦	なべだん(なべ谷)というのは戸府(とぶ)部落と篠瀬部落との間にあって、うっそうと茂った森があり、ここを通りかかった者がキツネによく化かされたと伝えられる。
24	長淵のキツネと火の玉	大河内　長淵	長淵の近くで火の玉を目撃し驚いていると、キツネに化かされていたと言う。
25	宮谷のタヌキ	宮ノ谷	鳥井畑と宮本の境に宮ノ谷がある。ここを通りかかるとタヌキからいたずらをされたと言う。
26	産家のタヌキ	求菩提　産家	いたずらタヌキがでたと言われる。
27	弓取のタヌキ	大河内　新貝　弓取	いたずらタヌキがでたと言われる。
28	猫化け	篠瀬	化け猫がでたと言われる。
29	アケクレ	犬ケ岳	山中で夜明けがきたと思ったら、アケクレにだまされ、まだ夜中だったと言う。
30	宮本の火の玉	産家　宮本	夜火の玉を見たらしい。
31	ほとけ迎え	求菩提	お盆の十三日の夜、墓場に先祖を迎えにいくと、背中が重くなる。そして家に帰り仏壇までいくと、背の重みが消えたと言う。
32	不動門の神鏡	産家	産家の奥の竜門の山の中に不動門というところがある。岩をくり抜いて通り抜けるようになっているが、その奥に深い洞窟があった。ここはかつて古い鏡がかかっていた。
33	秋の霧	求菩提　秋霧	求菩提の下八丁坂の下の方に秋霧という地名がある。秋になると霧が発ちこめることがよくあるが、そこは昔ここで斬り殺されたお秋が招きよせる霧だと言う。
34	山姥	篠瀬	人喰いの山姥が出たと言う。
35	ウサラカヒコクボ	求菩提、他	ウサは宇佐八幡、ラカは耶馬渓の羅漢寺、ヒコは英彦山、クボは求菩提。閻魔様の裁きを受ける時、この4社寺に生前参っていれば、極楽行き、行っていなければ地獄行きと告げられると言われていた。

（７）遺跡

市内には260件を超える多くの遺跡が確認され、遺跡分布図と遺跡一覧にまとめています。そのうち史跡指定されたものは国指定の求菩提山と県指定黒部古墳群、蔵春園(恒遠塾跡)、市指定黒峰尾古墳群、平原横穴墓群です。現在も増えています。

また、中世から戦国時代の城館跡も山城を中心に37か所が確認されています。

遺跡番号	遺跡の名称	種別	時代
1	中村城ケ鼻遺跡	城館跡?	中世
2	鳥越城跡	城館跡	中世
3	七社大明神	神社	近世
4	浄円寺	寺院	中世
5	松江安延遺跡	散布地	古代
6	宇佐勅使街道	官道	古代
7	松江旧街並	旧街並	近世・近代
8	角田八幡神社	神社	中世
9	團後遺跡	散布地	古代
10	中村石丸遺跡	集落跡	古代
11	中村団後遺跡	集落跡	古代・中世
12	角田大庄屋屋敷跡	屋敷跡	近世
13	中村石丸H遺跡	散布地	中世
14	中村山柿遺跡	散布地	古代
15	則行城跡	城館跡	中世
16	永寿寺跡	寺院跡	中世
17	馬場城跡	城館跡	中世
18	鶉迫第1号古墳	古墳(円墳)	古代
19	鶉迫第2号古墳	古墳(円墳)	古代
20	鶉迫遺跡	散布地	古代・中世
21	灰ノ木古墳	古墳(円墳)	古代
22	黒部古墳群	古墳(県指定)	古代
22-1	黒部2号墳	古墳(方墳)	古代
22-2	黒部3号墳	古墳(円墳)	古代
22-3	黒部6号墳	古墳(円墳)	古代
23	黒峰尾古墳群	古墳(市指定)	古代
23-1	黒峰尾10号墳	古墳(円墳)	古代
24	炭山遺跡	散布地・砦?	中世・近世
25	松江炭山遺跡	集落跡	古代
26	黒峰尾遺跡	散布地	古代
27	四郎丸船入遺跡	散布地	中世
28	築上郡上毛郡界標柱	標類	近世
29	四郎丸小脇遺跡	散布地	古代
30	四郎丸広山ノ上遺跡	散布地	古代
31	住吉(塞)神社	神社	中世
32	宝福寺	寺院	中世
33	八屋城跡	城館跡	中世
34	八屋漁港旧防波堤	港湾堤防	近代
35	豊州鉄道(現日豊線) 橋脚	橋脚	近代
36	八屋旧街並	旧街並	近世・近代
37	大阪屋橋	石橋	近代
38	八屋樋ノ口遺跡	散布地	中世
39	八屋鈴川遺跡	散布地	古代・中世・近世・近代
40	八屋浦町遺跡	散布地	中世
41	八屋高水寺遺跡	散布地	古代・中世・近世・近代
42	八屋丸尾遺跡	散布地	中世
43	八屋向原山際遺跡	散布地	古代・中世
44	今市向野遺跡A・B地点	集落跡	古代・中世・近世
44-2	今市向野遺跡D地点(1・2区)	集落跡	古代・中世

遺跡番号	遺跡の名称	種別	時代
44-3	今市向野遺跡E地点	集落跡	古代・中世
45	宇島鉄道軌道敷(宇島駅)	鉄道	近代
46	宇島港旧防波堤	港湾堤防	近代
47	宇島旧街並	旧街並	近世・近代
48	吉木遺跡	集落跡	古代・中世
49	吉木常末遺跡	集落跡	古代・中世
50	下原遺跡	集落跡	古代・近代
51	吉木城跡(小森城)	城館跡	中世
52	吉木穴井遺跡	散布地	中世
53	昭和町遺跡	墓地?	古代
54	池田神社	神社	近世
55	赤熊城跡	城館跡	中世
56	赤熊遺跡	散布地	古代・中世
57	赤熊井ノ坪遺跡	集落跡	古代・中世
58	赤熊三反田遺跡	集落跡	古代・中世
59	赤熊花ノ木遺跡	集落跡	中世
60	清水町神増遺跡	散布地	古代・中世・近世
61	三毛門・黒土条里跡	条里跡	古代
62	沓川城跡	城館跡(条里跡)	(古代)・中世
63	恒富西ノ畑遺跡	散布地	古代
64	小犬丸曲掛遺跡	条里跡?	古代
65	三毛門遺跡	散布地	古代・中世
66	三毛門放生田遺跡	集落跡	古代・中世
67	開立寺遺跡	散布地	古代
68	恒富小村遺跡	散布地	古代・中世
69	御境川(界川)藩境	標類	近世
70	原井経塚①	経塚	中世
71	原井経塚②	経塚	中世
72	不動明王像及び脇侍二童子と窟	仏像・祭祀(市指定)	中世
73	竹ノ下観音堂跡	仏像・祭祀	
74	竹ノ下の窟	祭祀跡	
75	雲見神社	神社	
76	毘沙門遺跡	集落跡	古代・中世
77	大富神社	神社(県指定あり)	中世
78	平原横穴墓群	横穴墓(市指定)	古代
79	川内南原遺跡	集落跡	古代・中世
80	四郎丸原畑遺跡	集落跡	中世
81	川内楠木遺跡	集落跡	古代
82	平原城跡	城館跡	中世
83	四郎丸窯跡	窯跡	古代
84	荒堀雨久保遺跡	集落跡城館跡?	古代・近世
85	筆垣城跡	城館跡	中世
86	安祥寺城跡	城館跡	中世
87	八屋覆矢遺跡	散布地	古代・中世
88	炊江郷	集落跡	古代
89	大村城跡	城館跡	中世
90	天地山遺跡(石棺出土地)	墓地	古代
91	荒堀大保遺跡	集落跡	古代・中世
91-2	荒堀大保Ⅱ遺跡	集落跡	古代・中世
92	荒堀車地遺跡	集落跡城館跡	古代
93	荒堀中ノ原遺跡	集落跡	古代
94	荒堀城跡	城館跡	中世
95	荒堀向上遺跡	散布地	古代・近世
96	荒堀向原遺跡	散布地	古代・近世・近代
97	今市城跡	城館跡	中世
98	今市向野遺跡C地点	集落跡	古代
99	大村道場遺跡	集落跡墓地	中世・近世
100	大村石畑遺跡	集落跡城館跡	古代・中世

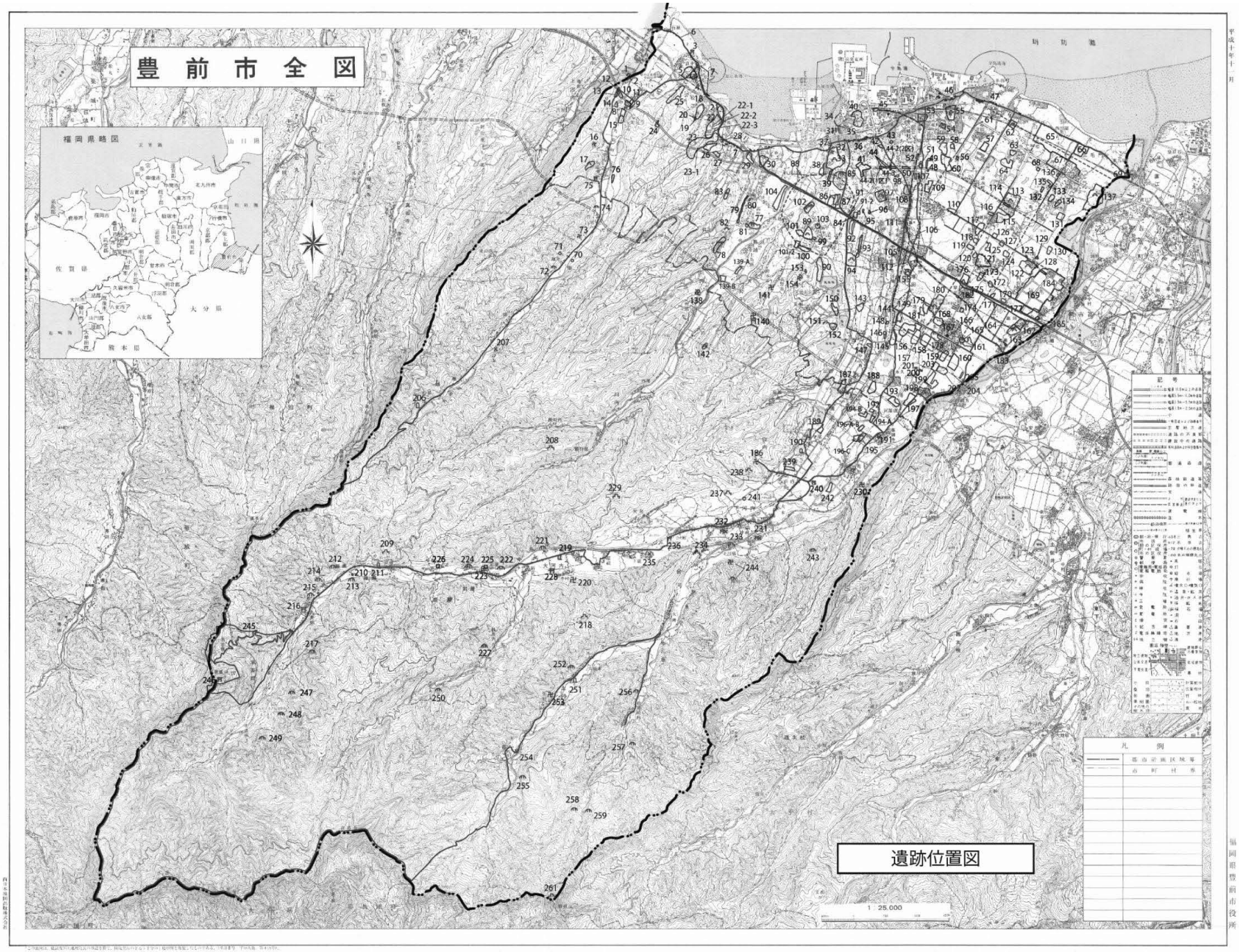
遺跡番号	遺跡の名称	種別	時代
101	大村天神林遺跡	城館跡	古代・中世?
101-2	大村天神林遺跡(2区)	集落跡城館跡	古代・中世
102	大伝寺跡・城屋敷遺跡	寺社跡城館跡?	中世
103	友枝庄屋屋敷跡	屋敷跡	近世
104	四郎丸角ノ木遺跡	集落跡?	古代
105	千束藩家老屋敷跡	屋敷跡	近代
106	千塚原古墳群	古墳群	古代
107	吉木竿遺跡	集落跡	中世
108	吉木ウシロ遺跡	散布地	古代
109	吉木井溝遺跡	散布地	古代・中世・近世
110	吉木芦町遺跡	集落跡	古代
111	千束駅(宇島鉄道)	鉄道	近代
112	塔田駅(宇島鉄道)	鉄道	近代
113	市丸城跡	城館跡	中世
114	市丸城居屋敷遺跡	集落跡	中世・近世・近代
115	市丸門田遺跡	散布地	中世
116	梶屋西屋敷遺跡	散布地	中世
117	梶屋法師丸遺跡	散布地	中世
118	梶屋樋掛遺跡	散布地	中世
119	梶屋正ノ元遺跡	散布地	中世
120	掘立島元遺跡	散布地	中世
121	別府遺跡	集落跡墓地	古代・中世
122	六郎城跡	城館跡	中世
123	六郎神田遺跡	集落跡	古代・中世
124	掘立白坊遺跡	散布地	古代
125	掘立八反田遺跡	集落跡	古代
126	森久中ノ坪遺跡	散布地	中世
127	森久サンジ遺跡	散布地	中世
128	六郎堂ノ前遺跡	集落跡	古代
129	六郎中小森遺跡	散布地	古代・中世
130	六郎熊本遺跡	散布地	古代
131	三楽諸町遺跡	散布地	中世
132	三毛門小村遺跡	散布地	古代・中世・近世
133	三毛門溝添遺跡	散布地	古代・中世
134	三毛門金吉遺跡	散布地	古代・中世
135	三毛門世畑遺跡	散布地	古代
136	三毛門大森遺跡	散布地	古代
137	三毛門城跡	城館跡	中世
138	洞田寺	寺院	中世
139 AB	鳥越今井野遺跡(A・B区)	集落跡	中世
140	白山神社と慈眼寺跡	神社寺院跡	中世・近世
141	高野の観音堂	仏像・祭祀	
142	山田城跡(八ツ田城跡)	城館跡	中世
143	荒堀石棺出土地	墓地	古代
144	上塔田遺跡	散布地	古代
145	西ノ原遺跡	散布地	古代
146	大西遺跡	集落跡	古代
147	中大西遺跡	集落跡	古代
148	東風ノ原遺跡	散布地	古代
149	中島遺跡	散布地	古代
150	青畑向原遺跡	集落跡	古代・中世
151	青畑城跡	城館跡	中世
152	荒堀火葬墓	墓地	古代
153	大村大龍寺遺跡	散布地	中世
154	応龍寺跡	寺院跡	近世
155	旭城跡	城館跡	近代
156	塔田琵琶田遺跡	集落跡	古代・中世

遺跡番号	遺跡の名称	種別	時代
157	久路土馬路遺跡	散布地	中世
158	久路土上柳遺跡	散布地	古代・中世
159	久路土慈光庵遺跡	散布地	古代・中世
160	久路土撞鐘田遺跡	散布地	中世・近世
161	久路土猿楽田遺跡	散布地	中世
162	高田城跡	城館跡	中世
163	広瀬城跡	城館跡	中世
164	高田遺跡	散布地	古代
165	石清水八幡宮	神社	中世
166	高橋家の豊後梅	天然記念物(市指定)	近世
167	旧黒土郵便局	建造物	近代
168	久路土門田遺跡	散布地	古代・中世
169	小石原泉遺跡	集落跡墓地	古代・中世
170	皆毛牛踏遺跡	散布地	中世
171	堀立千田遺跡	散布地	中世
172	堀立アモサ遺跡	散布地	中世
173	堀立上屋敷遺跡	散布地	古代・中世
174	黒土七夕遺跡	集落跡	中世
175	観音堂	仏像・祭祀	
176	上毛条里遺跡	集落跡	古代・中世
177	皆毛梶又遺跡	集落跡	古代・中世
178	久路土六田遺跡	集落跡	古代
179	久路土芝掛遺跡	生産遺跡	古代
180	黒土城跡	城館跡	中世
181	久路土高松遺跡	散布地生産遺跡	古代・中世
182	黒土駅(宇島鉄道)	鉄道	近代
183	広瀬橋駅(宇島鉄道)	鉄道	近代
184	六郎桜木遺跡	集落跡	古代
185	皆毛高屋代遺跡	散布地	中世
186	如法寺	寺院	中世
187	上大西遺跡	集落跡	古代・中世
188	永久遺跡	集落跡墓地	古代・中世
189	才尾平原遺跡	集落跡	中世
190	才尾道祖神社石塔群	石塔	中世
191	蔵春園	建造物(県指定)	近世
192	河原田善丸遺跡	集落跡	古代
193	河原田塔田遺跡	墓地	古代・中世
194	河原田四ノ坪遺跡	集落跡	古代・近代
195	薬師寺城跡	城館跡	中世
196	薬師寺塚原遺跡(A・B・C区)	城館跡	古代・中世
197	鬼木四反田遺跡	集落跡祭祀跡墓地	古代・中世
198	鬼木城跡	城館跡	中世
199	鬼木鉾立遺跡	集落跡	古代
200	鬼木溝添遺跡	集落跡	古代・中世
201	行逢宮貴船社	神社跡天然記念物	
202	久路土二又遺跡	散布地	中世
203	久路土樋掛遺跡	集落跡	古代
204	久路土下川辺遺跡	集落跡	古代
205	山谷石塔	墓地祭祀跡	中世
206	山谷石塔	墓地祭祀跡	中世
207	水神社冷水(畑の冷泉)	神社天然記念物	
208	山田(櫛狩屋)城跡	城館跡	中世
209	四ノ瀬城跡	城館跡	中世
210	四ノ瀬城下屋敷跡	屋敷跡	中世・近世
211	火の浦石塔	着塔(県指定)	中世
212	篠瀬の窟①	祭祀	
213	篠瀬の窟②	祭祀	
214	古屋敷の窟	祭祀	
215	宝寿寺裏の窟	祭祀	近世

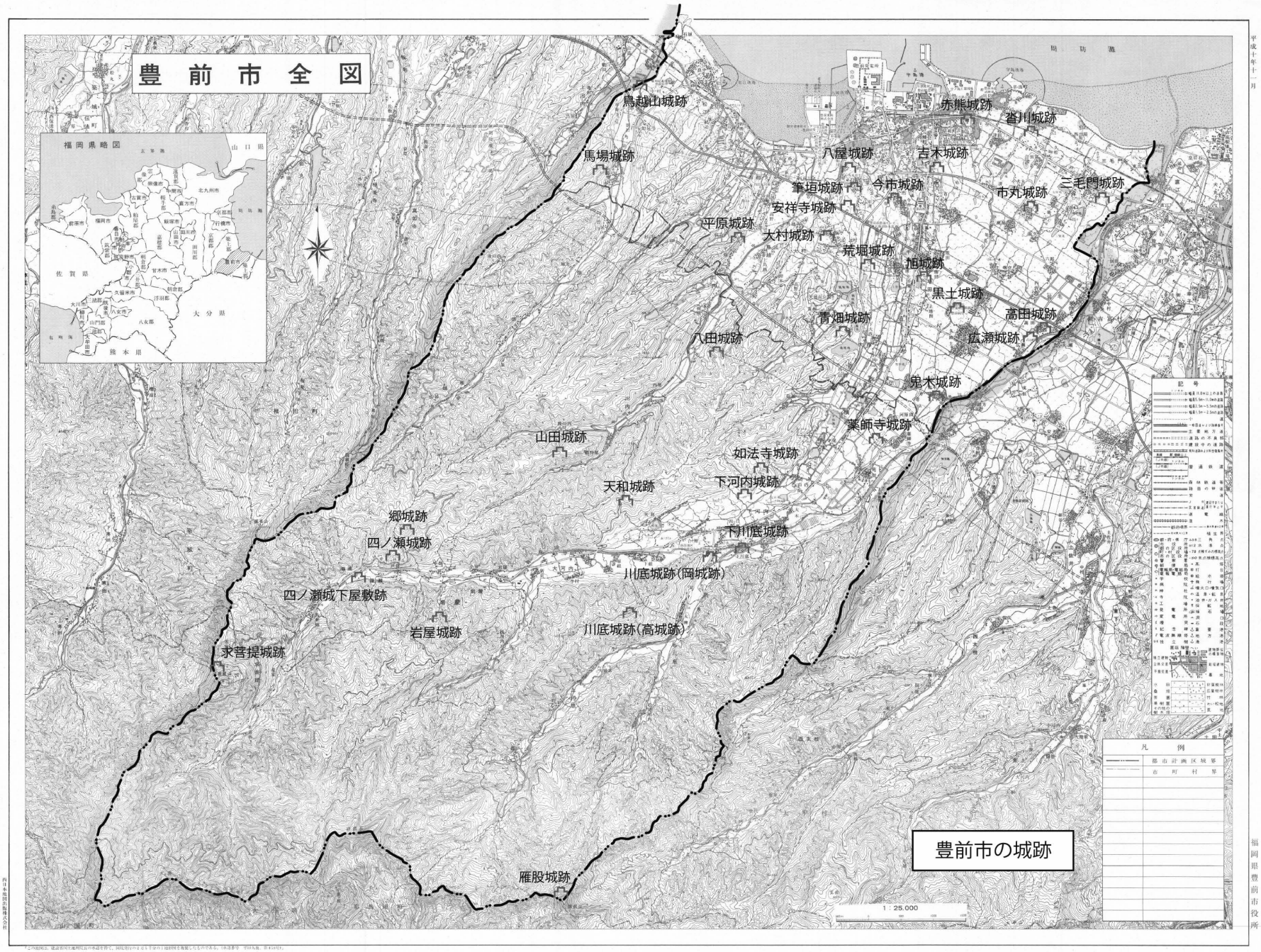
遺跡番号	遺跡の名称	種別	時代
216	覚魔社社殿	神社(市指定)	近世
217	釣鐘窟	祭祀跡	中世・近世
218	(川底城の内)高城跡	城館跡	中世
219	阿弥陀堂石塔群	石塔	中世・近世
220	寺村廃寺跡	寺院跡	中世
221	菩提窟	祭祀跡墓地	中世
222	岩洞窟	祭祀跡(県指定)	中世・近世
223	薬師堂石塔	石塔・仏像(市指定)	中世・近世
224	岩屋遺跡	祭祀跡	中世
225	友松家庭園	庭園	近世・近代
226	中畑庄屋屋敷跡(渡辺晴見氏宅)	屋敷跡	中世・近世・近代
227	枝川内の窟	祭祀	中世・近世
228	日吉神社	神社	中世・近世・近代
229	天和城跡	城館跡	中世
230	泉水寺跡(千手観音堂)	寺院(国・市指定)	古代・中世
231	白山神社と大樟1本	神社仏像天然記念物(県・市指定)	中世
232	須佐神社と大樟1本	神社・天然記念物(県指定)	中世・近世
233	海老名城跡(下川底城)	城館跡	中世
234	(川底城の内)岡城跡	城館跡	中世
235	大河内の広葉杉(大河内伝次郎生家跡)	天然記念物(県指定)	
236	御旅所清原神幸所	祭祀	
237	下河内城跡	城館跡	中世
238	如法寺城跡	城館跡	中世
239	山内柳ケ坪遺跡	集落跡	中世
240	嘯吹八幡宮	神社	中世・近世
241	山人石	祭祀	
242	挟間宮ノ下遺跡	集落跡	古代
243			
244	流泉寺廃寺と窟	寺院跡	近世
245	求菩提山(修験道遺跡)	祭祀跡(県指定)	中世・近世
246	国玉神社(旧護国寺)	寺院跡神社	中世・近世・近代
247	弁財天窟(群)	祭祀跡	中世・近世
248	火追窟(群)(大迫窟・大箱窟)	祭祀跡	中世・近世
249	不動窟(群)	祭祀跡	中世・近世
250	大山祇神社裏の窟	祭祀跡	
251	夫婦木石塔群	石塔	中世
252	夫婦木の窟	祭祀跡	近世
253	屋根ノ堂(ヤネンドー)	祭祀	中世・近世
254	轟のフジ(貴船神社)	天然記念物(市指定)	
255	轟の窟	祭祀跡	
256	六字名号の窟	祭祀	
257	松尾川内の窟	祭祀	近世
258	コトゲ(古峠)の窟①	祭祀跡	近世
259	コトゲ(古峠)の窟②	祭祀跡	
260	犬ケ岳ツクシシャクナゲ自生地	天然記念物(国指定)	
261	雁股城跡	城館跡	中世

小石原泉遺跡（2 次調査 3 号住居跡）

荒堀中ノ原遺跡


豊前市全図
福岡県略図
遺跡位置図
凡例
1 25,000

		城名	時代	所在	城主	出典・文献	
八屋地区	1	八屋城跡	中世	大字八屋前川宝福寺の南側	谷（八屋）蜂屋隠岐守　八屋（蜂谷）刑部	『宇佐郡記』『両豊記』『陰徳太平記』『黒田家譜』	
	2	筆垣城跡	中世	大字八屋字今吉の筆垣	不詳	八屋城の後方を固める城塞	
	3	安祥寺城跡	中世	大字八屋字今吉の立家舗	宮尾安芸守親長　宮尾織部	『豊前古城記』『有延文書』『築上郡誌』	
大村地区	4	大村城跡	中世	大字大村の永寿寺一帯	山名親祝相模守氏昌	『西州軍談』『宇佐郡誌』	
					山田常陸介親実	『黒田家譜』	
宇島地区	5	赤熊城跡	中世	大字赤熊正明寺の南方	不詳		
角田地区	6	馬場城跡	中世	大字馬場集落の西背後	中八屋一族		現在は城山公園
	7	鳥越城跡	中世	大字中村の城ヶ鼻	則行主計正鎮実、中村某	『豊前志』『豊前古城記』『則行青木家譜』	
	8	寒城跡	中世	豊前松江駅の南山稜	不詳		
山田地区	9	山田城跡	中世	大字川内字櫛狩屋（櫛狩屋城）	山田氏、山田大膳正輝家	『太宰管内志』『黒田家譜』	
	10	八田城跡	中世	大字川内字八田の東山上（山田城）	山田氏	『豊前古城記』『太宰管内志』『黒田家譜』	
	11	平原城跡	中世	大字川内字平原の集落西山頂部	八田城の城砦	『築上郡誌』	
三毛門地区	12	沓川城跡	中世	大字沓川正念寺の南の世永	不詳		
	13	市丸城跡	中世	大字市丸明徳寺の裏に上屋敷	野田氏		
	14	三毛門城跡	中世	佐井川沿　小字久留米	緒方氏	『中津興廃記』	
黒土地区	15	黒土城跡	中世	大字久路土　小字門田・笠懸	黒土氏	『応永戦覧』『宇佐郡記』	
	16	広瀬城跡	中世	大字広瀬～高田	広瀬氏	『応永戦覧』	
	17	高田城跡	中世	大字高田　バイパス南側の集落	有吉内記（高田左衛門忠次？）	『築上郡史』『豊国紀行』『有吉系図』	
千束地区	18	鬼木城跡	中世	大字鬼木　門田？	鬼木掃部頭惟宗	『黒田家譜』	
	19	旭城跡	明治	大字塔田　千束神社	小笠原貞正		千束陣屋・千束藩庁
	20	荒堀城跡	中世	大字荒堀殿屋敷	不詳		
	21	吉木城跡		大字吉木の乙女八幡宮と赤熊長願寺山の間にある小森	小森某	『築上郡史』	
	22	今市城跡		大字今市堀の内	津野田氏	『津野田家文書』	
横武地区	23	薬師寺城跡		大字薬師寺　八幡神社・東光庵	薬師寺氏	『応永戦覧』	
	24	狭間城跡		大字狭間由井田	不詳		
	25	引地城跡		大字山内如法寺・大字才尾　字引地	山内如法寺城の出城		
	26	如法寺城跡	平安～中世	大字山内　南山上の山の神　東麓に城の腰	浄法寺氏、如法寺倉政一、如法寺孫次郎輝則	『築上郡史』『求菩提文書』『黒田家譜』『宇都宮家譜』	
	27	青畑城跡		大字青畑殿山、的場	不詳		大村城の背後を防備する出城岩屋
合河地区	28	下河内城跡		大字下河内歳出の坂　古城	如法寺氏の本城・出城		
	29	天和城跡		大字天和殿山	不詳		
	30	川底城跡		大字川底　岡の山（岡城）	宇都宮一族　城井弥七郎	『築上郡史』『西州軍談』	
	31	下川底城跡		大字下川底　城山（貴船神社社地）（海老名城）	城井氏（城代：遠藤源兵衛）	『豊前古城記』	
	32	小畑城跡		大字下川底　小畑	小畑氏	『築上郡史』	
	33	雁股城跡		大字松尾川内	友枝隼人佐	『豊前古城記』『友枝文書』	
岩屋地区	34	岩屋城跡		大字岩谷字中畑　稲積山	岩谷和泉守		
	35	郷城跡		大字篠瀬（畑城）	世良大膳太夫→宇都宮氏	『豊前古城記』『太宰管内志』	
	36	日ノ瀬城跡		大字篠瀬字戸部　火ノ浦	渡辺右京進	『太宰管内志』『城井軍記』	
	37	求菩提城跡	中世	求菩提山杉谷西の尾根道	塩田内記	『太宰管内志』『豊前志』	



平成十年十一月
福岡県豊前市役所

（８）植物・動物・地質鉱物

①植物

豊前市は周防灘に面した海岸から標高 1,131ｍの犬ヶ岳まで多様な自然環境があります。犬ヶ岳から尾根伝いに経読岳までのツクシシャクナゲ、900～1,000ｍを超す山地には直径 1ｍを超えるブナの巨木がうっそうと茂り、山腹にはシオジ林、シデ類が生えており、これらの尾根からゆるやかに下る山地の林はアカマツ、リョウブなどが生えています。恐ケ淵の渓谷にはシデ林が沿っており、求菩提山にはアカガシの巨木が林を形成しています。

平野部にはスダジイ、クスノキ、クロガネモチ、ヤブツバキなどが見られます。

特色がある植物として、犬ヶ岳には国指定天然記念物のツクシシャクナゲ自生地、求菩提山には県指定天然記念物のボダイジュ、市指定のクワ、草本では県指定天然記念物のヒメシャガがあり、その他樹木ではアスナロなどがみられます。さらに山伏達が持ち込んで栽培したとされる草本のワサビ、樹木ではトチノキ、ミツマタがありあります。

山合から平野部にかけては、県指定天然記念物である「大河内の広葉杉（こうようざん）」、「白山神社の大樟」、「須佐神社の大樟」、市指定の「水神社の大樟」があり、その他に七社神社のボダイジュ、山内のケンポナシなどがあります。「大河内の広葉杉」は高さ 28ｍ、樹径 1ｍと日本一の大きさを誇ります。この広葉杉がある大河内は一世を風靡した俳優の大河内傳次郎の生まれ故郷でもあります。

平野部の集落内の屋敷地では、高橋家の豊後ウメと矢野家のモッコクが市指定天然記念物となっています。

また、約 400 年前にポルトガルから大分の大友宗麟に献上され、その後、豊前の緒方氏がそれを持ち帰って、栽培をされるようになった三毛門カボチャがあります。平成 30 年（2018）に市指定天然記念物に指定されました。三毛門カボチャは最古の渡来種カボチャとされており、三毛門南瓜保存会などによって栽培・生産・販売されています。

求菩提のボダイジュ

大河内の広葉杉

ツクシシャクナゲ

ヒメシャガ

求菩提のワサビ

三毛門カボチャ

②動物

求菩提山・犬ヶ岳は自然公園の特別地域に指定されており、部分的にはスギ、ヒノキの人工林や伐採後の萌芽林も見られますが、アカガシ林、ブナ林、シデ林等に囲まれ、野鳥にとっては四季を通じてすばらしい生息環境となっています。近年その数が減少しているオオアカゲラ、アオゲラのキツツキ類やホトトギス、カッコウ、ツツドリ、ジュウイチの多種類の野鳥が見られます。特定の地域でみられる野鳥は、禊(みそぎ)場周辺のオオルリ、シデ林に囲まれた恐渕(おそろしぶち)流域のミソサザイ、中腹以高のブッシュで多く見られる中国原産のソウシチョウ大竿峠(おおさおとうげ)のコマドリ等があげられます。

オオアカゲラ

ミソサザイ

その他の動物として、ニホンザル・ムササビ・タヌキ・テン・ニホンイノシシ・ニホンジカなどがあげられ、地域の山地全体を生息域としています。

オオルリ　　コマドリ　　ソウシチョウ

③地質鉱物

犬ヶ岳から北東に伸びる山地は主として凝灰角礫岩によって形成され、河川によって削られた山裾の岩間などから伏流水が浸み出しています。市内には挟間の千手観音堂「乳の霊水」や畑の水神社「冷泉」などが古くから信仰の場所とされ、市指定天然記念物となっています。

千手観音堂がある場所は、かつて岩屋山泉水寺というお寺がありました。泉水寺の名は、岩洞窟の左右の岸壁から二条の流水湧水がほとばしることから名づけられたと言われます。

この水は霊水として古くから庶民信仰を広く集め、乳のでない人がこの水を汲んで飲むと乳がよく出ると言い伝えられています。

畑の冷泉は樹齢 820 年ともいわれる大樟の下から湧出しており、水量が極めて豊富で、1 日の湧出量は約 25 万リットルとみられています。大干魃のときは川下の部落までの田を潤したと伝えられていて、冷水の温度は 14～16℃に保たれています。

古代より人々は農耕の神霊を水に求め、水分神（みくまりのかみ）・水神が派生したとされます。水神は生活のための神と農耕神に区別され、ここ水神社は、水神の信仰の形態がよく保たれ今に至っています。昔は求菩提山の山伏や、近くの神官が禊をするほかは聖なる水とされていましたが、明治 30 年代に畑村出身の神官、島田政平が禊場を露天の浴場に改造して一般に開放し、「畑の冷泉」として有名になりました。

千手観音堂「乳の霊水」

水神社「冷泉」

求菩提山中興の祖・頼厳の高弟で、銅板法華経執筆僧の一人である円城坊厳尊は、如法寺の住持を務めていました。境内には今なお写経水が残されていて、平安時代末期から中世にかけて、この寺が豊前地方の写経活動の中心を担ったであろうことを窺わせます。写経は如法行といわれ、寺号は写経に由来したものと言われています。この写経水は市天然記念物に指定されています。

如法寺「写経水」

（９）文化的景観

求菩提山の麓にある鳥井畑地区と求菩提の産家地区は、「求菩提の農村景観」として平成 24 年（2012）国の重要文化的景観に選定されました。平成 30 年（2018）現在福岡県内の重要文化的景観はこの 1 件のみとなっています。

求菩提資料館に収蔵されている求菩提山の近世の姿を描いた明和元年（1764）の『豊劦（州）求菩提山絵図』には、修験道の堂舎群や行場である岩窟群が点在し、山麓の川沿いには修験者の生活を支えた村人の居住地・農地が帯状描かれています。求菩提山の伽藍をはじめ、修験者

豊劦（州）求菩提山絵図（求菩提資料館蔵）

の居住地であった七か所の「坊中」、修験者が薬用として栽培したのが起源とされる特産の茶畑、茅切り場、山麓の村落およびその周辺の棚田など、山中および山麓の一帯の土地利用の在り方をうかがい知ることができます。

鳥井畑の村落周辺の岩岳川沿いに広がる棚田は、玉石の野面積みの畦畔によって区画され、岩岳川の豊かな水をせき止めて用水路により導水する「堰上げ」と呼ぶ水利方式のほか、山域から岩岳川へと流れ込む沢水を利用した水利方式もみられます。特に「堰上げ」は 11 か所に存在し、用水路を経て水田に導かれた水は、「田越し」によって隣接する水田に給水され、最後に岩岳川へと放水されます。また、三方を囲む石積擁壁の上に簡易な屋根を掛けた「ツチ小屋」と呼ぶ農作業用の小屋も点在し、棚田とともに、修験者が伝えたとも言われる石積の技術の名残を示す独特の農地景観を形成しています。集落の典型的な屋敷構えは母屋と馬屋（まや）からなり、そのうち母屋の 8 割には表向きおよび内向きにそれぞれ三つの部屋が並行する六間取の平面形式がみられます。

集落に伝わる伝統行事は、修験道の祭礼である「松会」の流れを汲む「お田植祭」をはじめ、盆踊り、観音様祭、収穫祭、神楽など、季節の節目をなす伝統行事も伝えられています。

求菩提の農村景観は、岩岳川上流の谷間に共通して営まれた農耕・居住の土地利用の在り方を示し、この地域の里に住む人びとと山との関係を表す文化的景観となっています。

求菩提山と鳥井畑集落

棚田の中にあるツチ小屋

（10）街道・信仰の路

近世に整備された中津街道や宇佐神宮へ向かう勅使道、求菩提山につながる求菩提道など市内には歴史的な主要道があります。

中津街道は一部新たな道に変わっていますが、概ね近世からの線形が残り、道沿いには歴史を感じさせる建物も残っています。

＜街道＞

豊前道は、古代の律令官道西海道東路（豊前－豊後・日向・大隅）の一部であり、古来から利用されていました。天平 12 年（740）の藤原広嗣の乱においても、朝廷に対する反乱軍が通った道と言われています。

江戸幕府が提出させた豊前国絵図と豊後国図（元禄 13 年（1700））では、以下の名称、ルートとなっていました。

豊前道は小倉領や中津領では小倉道と呼び、四郎丸から分岐し、荒堀－塔田－岸井－高田を通り宇佐までの道を、「上往還」あるいは「勅使道」と呼ばれ、いわば最短コースを通るもので、豊前市内は直線の道となっていました。一方、小倉道は四郎丸－八屋－宇島－沓川－三毛門－中津のコースとなっており「下往還」あるいは「中津道」と呼ばれ、周防灘の海岸線に近いところを通っていました。この上往還は、現在では国道 10 号に踏襲されています。

下往還は 17 世紀初頭の江戸時代に、時の領主である細川氏によって拡幅・新設され、領内の主要道には一里塚が設けられ、桜が植林され、松江、八屋は宿駅が設けられました。

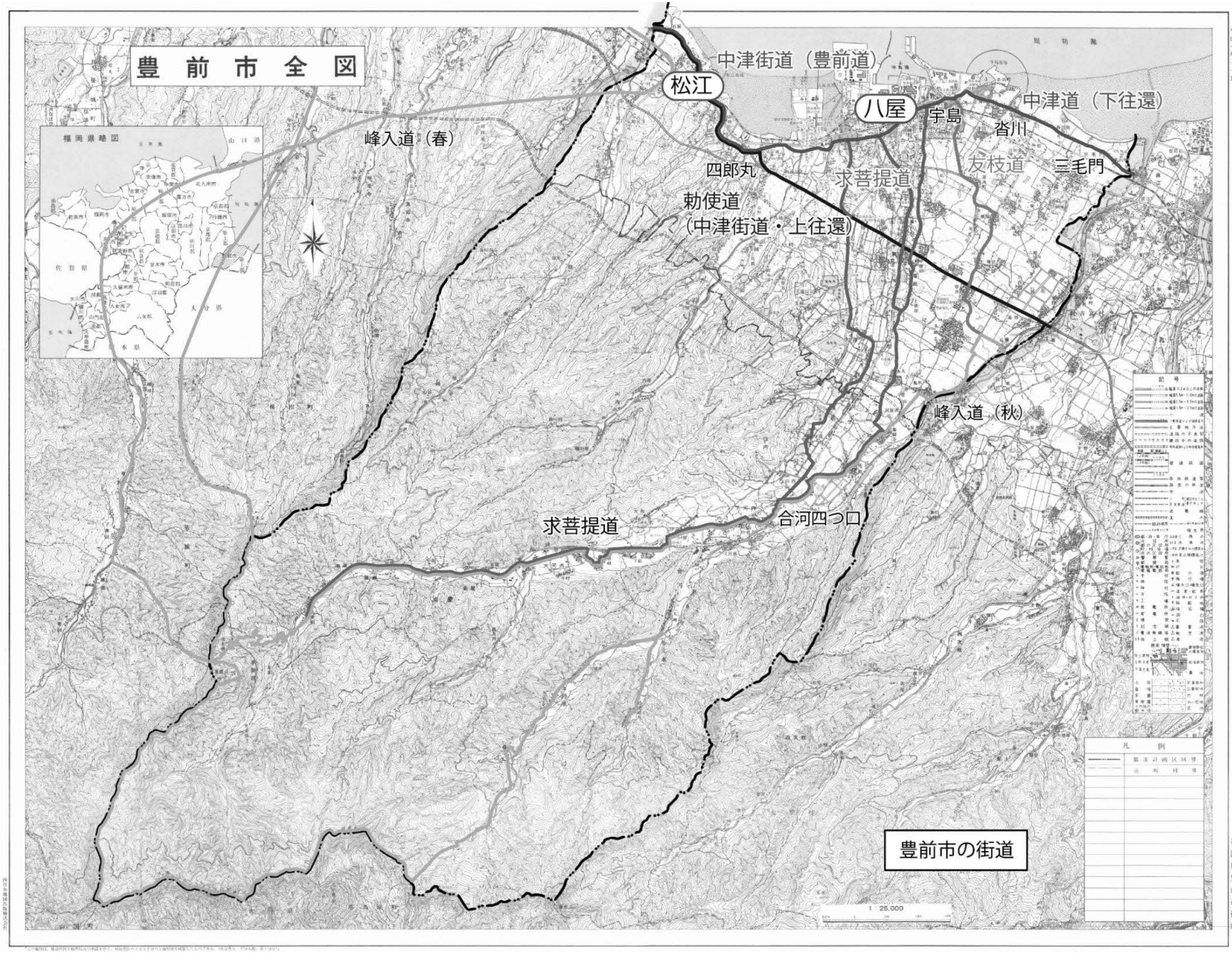
勅使道（上往還）はその名の通り、宇佐神宮最大の祭りである放生会に際して、勅使が通った道です。

＜信仰の路＞

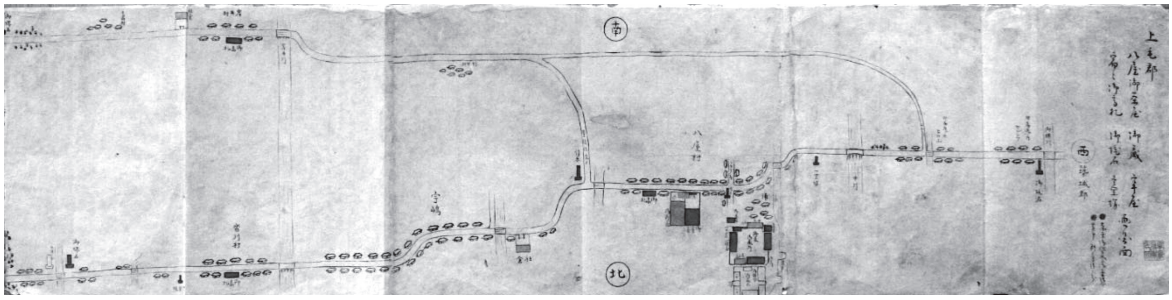
中津道の宿場であった八屋、宇島から地域の信仰の対象である求菩提山へ向かう登山口があります。中津道からは幾つかの道があり、南に上っていくと合河四つ口にて合流し、さらに広津から鬼木を通る道も合河四つ口に出て、そこから、岩岳川沿いに上流に向かうと、求菩提に至る、いわば、豊前を南北につなぐ道となっています。

また、求菩提へ向かう道には主に山伏が修行のために通る「峰入道」もあり、西は松江から畑を通り、尾根沿いに求菩提山へ向かう道があります。

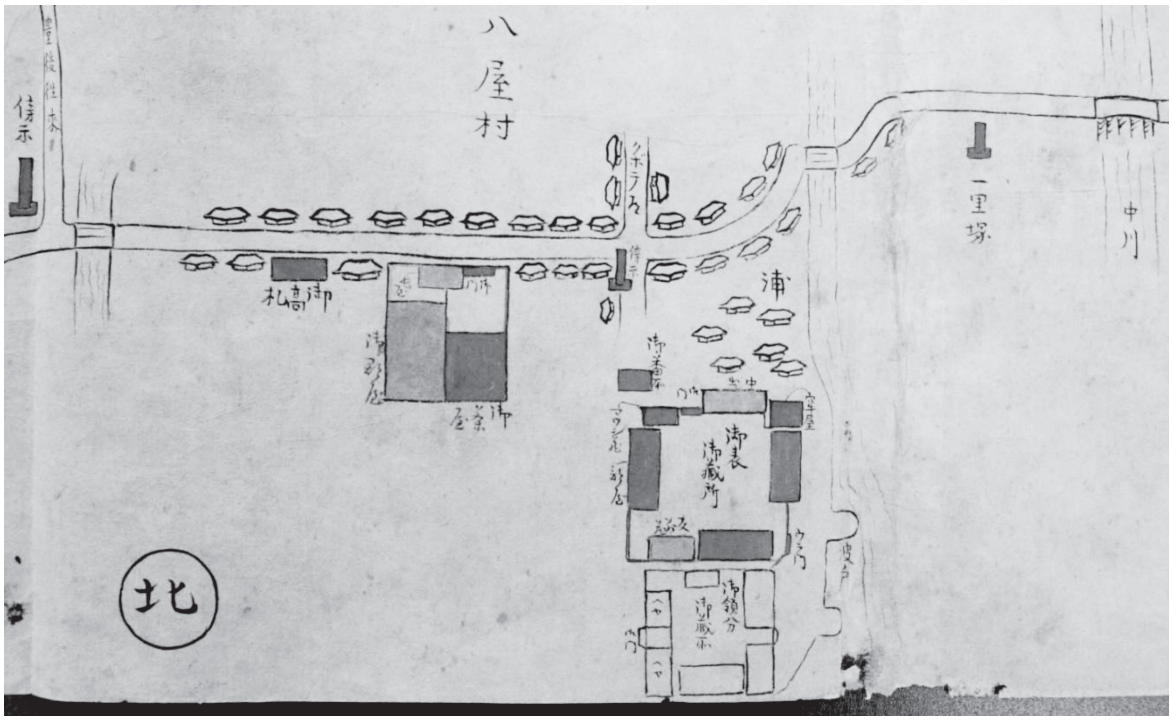
東には宇島から黒土の間に友枝道が通り、黒土から合河四つ口を通って求菩提山へつながる峰入道があります。


豊前市全図
福岡県略図
中津街道（豊前道）
松江
八屋
宇島
中津道（下往還）
峰入道（春）
四郎丸
勅使道
（中津街道・上往還）
求菩提道
友枝道
三毛門
峰入道（秋）
求菩提道
合河四つ口
豊前市の街道
1：25,000

近世絵図に描かれた街道



上毛郡八屋御茶屋・御蔵・牢屋・宿々御高札・御境石・一里塚の図



一里塚跡

道標（求菩提道始点）

御茶屋跡

千束藩屋敷絵図

(11) 町並み

中津街道沿いの、明治から昭和初期にかけて建てられたと思われる家屋を中心に外観調査を行いました。

旧街道沿いの民家の多くは、戦後に新しく建て替わっていますが、現在もいわゆる伝統的な民家も残存しており、旧街道の風情を感じることができる町なみとなっています。

中津街道や中津道（下往還）の沿道には松江と八屋に宿が置かれ、その他に四郎丸、宇島、沓川などの集落がありました。松江、八屋、宇島にはかつて宿場町であったことから町屋を中心とした町なみが見られます。俳人である種田山頭火も放浪の途中で宇島に宿泊したことを『行乞記』に記しています。その他は農家の形態を残した町なみとなっています。それぞれの地区の民家に見られる特徴や町なみは以下のようになっています。

松　江：入母屋 2 階建て瓦葺き下屋付き平入、2 階の階高が低く外壁は漆喰塗り、1 階は開口部が多く、木製格子
宿場町を思わせる直線的な道路と整然とした町なみとなっています。
JR 豊前松江駅は切妻屋根に外壁は下見板張りで昭和 7 年築造。

四郎丸：寄棟瓦葺き 1 階建て下屋付き平入、玄関は奥まっている
寄棟トタン葺き 1 階建て下屋付き平入、茅葺にトタンで覆っている
地形に沿った道で、沿道の家屋には道路に面して庭があるなど、農家的な屋敷構えが多く見られます。

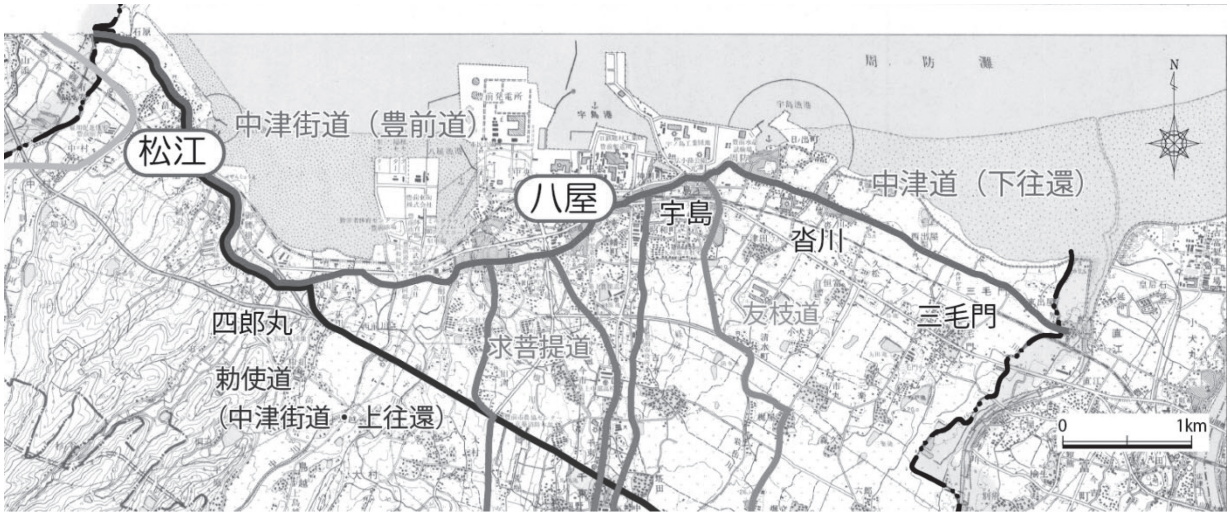
八　屋：寄棟 2 階建て瓦葺下屋付き平入、2 階は階高が低く外壁漆喰塗り
前面に格子を付けた町屋も見られ、間口が狭く建て込んだ町なみには、宿場町の風情があります。

宇　島：切妻、入母屋、寄棟　1 階建て、2 階建て、いずれも平入
宇島港周辺は船宿など旅館を営業していた建物も残り、街道沿いの民家も商店などが建て込んでかつてのにぎわいを感じさせる町なみとなっています。東側は街道も曲がり、宿場町の入口を思わせる町なみです。

沓　川：切妻 2 階建て下屋付き、一部突出しその屋根は入母屋
海岸から約 300m離れた直線的な道となっています。敷地は街道に面して庭がありゆとりがある屋敷構えの町なみが続いています。

松江や八屋、宇島などかつての宿場町や港町では道路に面して間口が狭く、建て込んだ町なみとなっていますが、宿場を外れると、四郎丸や沓川などは、間口も広く道路に面し庭があるなど敷地に余裕が見られ、地区によって街道の町なみに特徴がみられます。

家屋は全体的に平入が多く、豊前地域の農家などに見られる玄関部分を、半間下げた位置に設ける家屋も見受けられます。



松江

松江

JR 豊前松江駅

四郎丸

四郎丸

四郎丸

四郎丸

八屋

八屋

八屋

宇島

宇島

宇島

沓川

沓川

沓川

三毛門

(12) 港

中津街道を通る宇島には、江戸時代後期に小倉藩により宇島港が築港されました。当初の築港目的は中津藩との間で帰属を巡った山国川河口の小祝地区（現在は中津市内）の漁村の移転のためで、八屋浦と沓川浦の間に計画し、文政 3 年（1820）に幕府へ申出ました。翌年から工事が始まり、文政 8 年（1825）に完成しています。築港後は廻船業を営む者が増え、宇島の経済発展のきっかけとなりました。明治後期には石炭の積み出しも行っていました。

明治維新後も港として栄え、大阪・宇島間の航路が開かれ貨客船が運行されました。

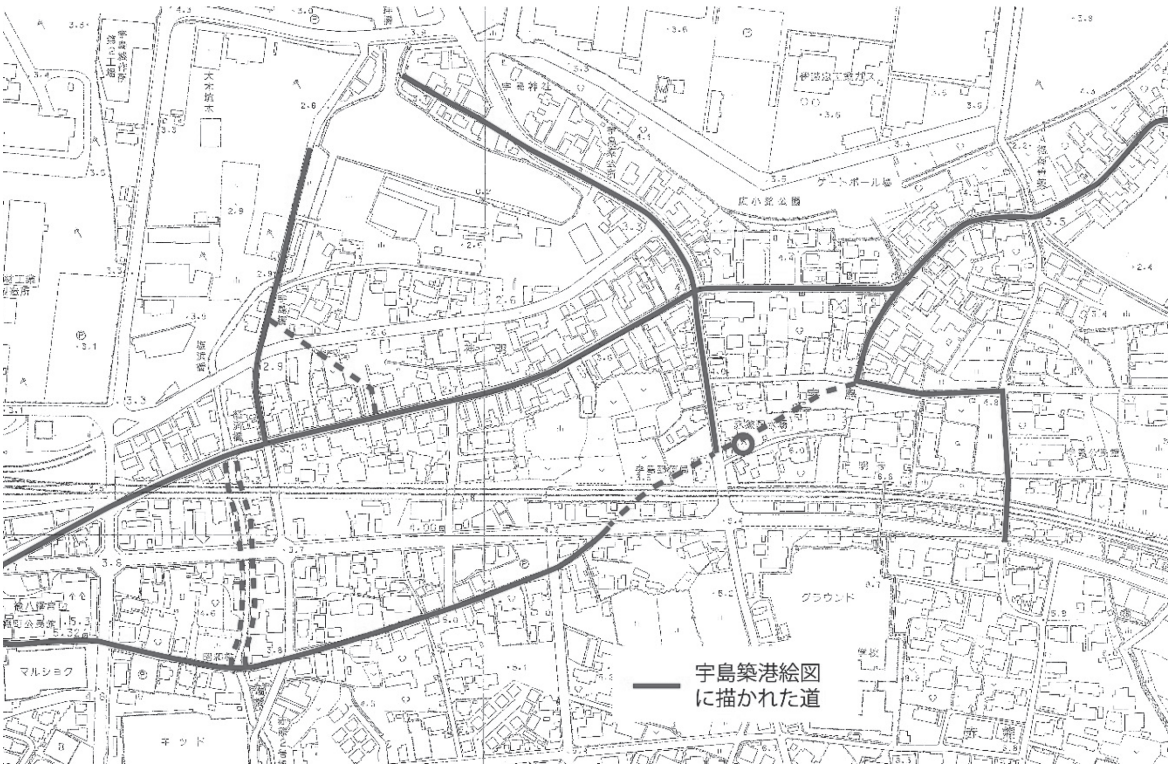
福沢諭吉も宇島からの航路を利用していました。宇島の船宿に泊まった夜は、諭吉を暗殺する計画がありましたが、無事に神戸へ旅立っています。

絵図に描かれた宇島港周辺は現在埋め立てられていますが、船溜まりを取り囲む道路の形態や、船宿を思わせる建物など、当時の面影を残しています。

宇島築港絵図　文政 13 年（1830）

現在の船溜まり

船溜まりに面した町並み



現在の地形図に見られる旧道

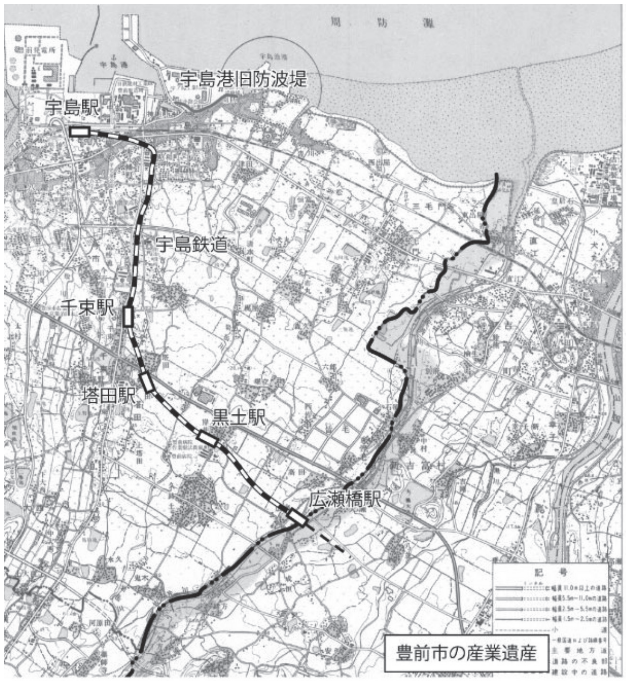
（13）産業遺産

旧宇島鉄道

同鉄道は、当時の鉄道省日豊本線宇島駅から分岐して、宇島駅（起点）～千束駅～塔田駅～黒土駅～広瀬橋駅を経て大分県の耶馬渓駅（終点）まで結ぶ鉄道路線（軽便鉄道）でした。

大正 3 年（1914）に開通し、22 年間の営業の後、昭和 11 年（1936）廃止されました。

市内の路線は、宇島駅から西へ延び、求菩提道に沿って南下、千束駅に到達し、勅使道（現国道 10 号）を横切って、その道にほぼ平行して東南に行き、岸井の黒土駅を経由して、佐井川の広瀬橋駅まで、この間約 4.6km（図上計測）となっています。



現在でも石材を積み上げた鉄道の橋脚跡が残っていますが、場所によってはほとんどその遺構を見出すことが難しく、わずかに一部線路の盛土が残っていたり、草の生えている様子などから線路跡と推察されるようです。

宇島鉄道の橋脚跡

線路が通されていた盛土

旧豊州鉄道

豊州鉄道は明治 22 年（1889）に行橋から柳ヶ浦（現材の宇佐市）間を本線とし、行橋から大任間が支線として計画され明治 30 年（1897）に行橋から宇佐間が開通しました。市内には松江駅と宇島駅が設けられました。田川からの石炭輸送が主でしたが、沿線には大きな石炭積み出し港がなく、明治 34 年（1901）に門司への路線を持つ九州鉄道と合併しました。その後の明治

旧豊州鉄道の橋脚

40 年（1907）には国鉄に買収され、国有鉄道となりました。城根川の河口に架かる JR 日豊本線の橋脚は、旧豊州鉄道開通の際に築造されたものです。

宇島港旧防波堤

明治末に石炭積み出し港として栄えていた頃に築かれた防波堤で、かつての海岸線に沿った鉄筋コンクリートの堤です。現在は、港は埋め立てられ、その多くが第 1 号広小路緑地となっています。地上から 1.5～2m余り出ており、全体が外に向かってわずかに湾曲しています。この全長は約 630mの長さとなっています（図上計測）。

この堤の東には新たな漁港が整備され、漁船などが係留されています。

第 1 号広小路緑地沿いの旧防波堤

旧防波堤の東端

４．豊前市の歴史文化の特徴

前述したように豊前市域でのこれまで先人諸氏の様々な調査研究成果や、行政による文化財調査の実施を元に本地域の歴史文化の特徴を記せば以下のようになります。

古代においては奈良時代における朝鮮半島との国際的な緊張関係の中、多くの渡来人が我国にわたってきたことが知られています。本地域では朝鮮半島で特徴的な床下暖房の構造を持つ類似した竪穴住居跡がまとまって確認される等、考古学的な成果によってその内容を知ることができ、その結果「正倉院」に残された大宝２年（702）の豊前国戸籍帳には秦部、勝など多くの渡来系の氏を認めることができます。

こうした歴史的背景の中、豊前国には八幡信仰を生む土壌が形成され、その後の宇佐八幡神宮の創建へとつながり、本地域はその影響下で様々な歴史文化が醸成されていきます。

中世初頭、それまでの山岳密教は日本古来の自然崇拝と融合し神仏習合という我国独特の宗教形態が体系化されます。所謂修験道の成立で出羽三山、熊野、彦山を代表する修験道の山が全国各地で展開してゆきます。その一つ、彦山（英彦山）の主要な末寺として成立したのが求菩提山で、宇佐郡出身の天台僧頼厳によって 12 世紀に山中に伽藍をはじめ求菩提修験の基礎が整備されました。その後、求菩提山は周辺の修験の山とともに「一山五百坊」と称される豊前修験道の一大拠点となり、明治 5 年（1872）の修験道禁止令によりその活動を終わるまで大きな勢力を誇りました。また、山麓には人的に又物理的に山を支える集落が発達し、その後の豊前市の文化財保護の原点となりました。

さて源平の争乱以降、豊前においても地域の有力豪族が次第にその勢力を強める一方、関東から宇都宮氏が鎮西奉行として九州に勢力を持つようになりその土着化が進みます。その後暫くは宇都宮一族による領国支配が進みますが、戦国の時代を背景に本地域でも守護大名の争乱と豊臣秀吉による天下統一の中、激しい戦いが繰り広げられ地域には詰城としての山城が多く築かれます。そして徳川家康による江戸幕府の開闢によりその後 200 年に及ぶ近世の武家社会がスタートします。

豊前国は黒田孝高による領国支配に始まりその後、細川忠興、小笠原忠真と領主が変わる中、小倉藩による統治の仕組みが整えられてゆきます。その中で古代からの官道を基本とした街道の整備か進められ、小倉から中津（大分県）までの中津街道を軸とした地域社会が形成されてゆきます。但し、本地域は一部が小倉藩の支藩として小倉新田藩という位置づけがなされ、そのことが幕末の千束藩の成立につながります。

いずれにせよ、こうした近世の社会状況を背景として街道を中心とした町家の形成と様々な文化が醸成され、それらが祭礼や民俗芸能、その他多様な文化財として今に伝えられてゆきます。

その中で特筆すべきは宇島港の築港で、結果的にそのことが本地域の近代化への礎となってゆきます。文政年間に小倉藩の政策として築かれた宇島港は当初は隣の中津藩との領民支配に対処するための漁港でしたが、明治以降、瀬戸内海を媒介した関西との商業港として地域経済

の発展に寄与します。その結果、交通、産業などにかかわる様々な事業が展開されそれらは今、近代化遺産として評価されています。

さて、小倉藩の領国支配の中でその支藩として成立した小倉新田藩は実態を伴わないものでしたが、幕末の動乱の中、長州藩と小倉藩の所謂長州征討に際し改めて千束藩として実質的な地域支配が試みられます。その結果、明治 2 年（1869）の版籍奉還後に新たに築城（旭城）がおこなわれ、それに伴い城下町が形成されるという全国でも例を見ない政策が展開されます。日本で築かれた最後の城郭という歴史的な評価はその後の地域社会の形成に少なからず影響を与えたことは言うまでもありません。

こうした豊前市の歴史的な特徴が今に伝えられる豊富な文化財群の形成に寄与したことは明らかであり、今後の文化財の活用における基本的な理解に繋がると考えられます。

４章　豊前市の関連文化遺産群

１．関連文化遺産群のテーマの設定

（１）基本的な考え方

関連文化遺産群とは、有形・無形、指定・未指定に関わらず、地域に存在している様々な文化財を歴史的に地域との関連性に基づいて一定のまとまりとして設定するものです。

これまで個別に認識されてきた文化財を、地域の歴史文化を物語る群として捉え、一定的かつ総合的に保存･活用していくことで個々の文化財の価値をさらに高め、地域の魅力を発信し、まちづくりに貢献していくことが可能となります。

豊前市の長い歴史のなかで、時代ごとの歴史文化、さらに時代を超えて現在まで維持・継承されている文化遺産のうち、以下の条件に適合する文化財のまとまりを関連文化財群と設定します。

ただし、位置的に面として捉えられないもので、共通のテーマに属するものは、保存活用計画の中で個別に取り上げます。

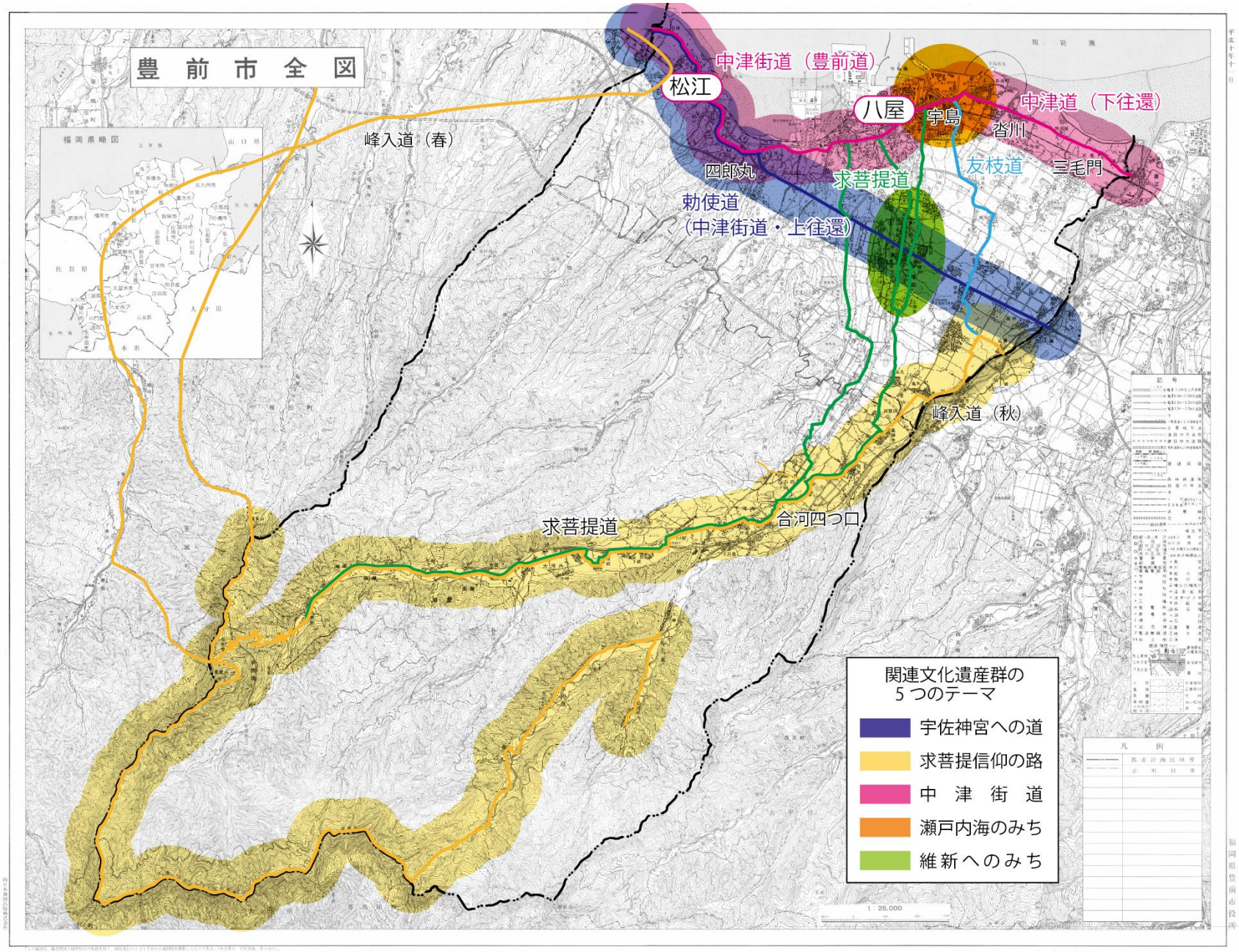
・共通のテーマを有している。
・豊前市の歴史文化を物語るストーリー性がある。
・市民が文化遺産群を再認識でき、誇りとして思える。
・文化財群の保存・活用が豊前市のまちづくりに寄与すると想定できる。

（２）関連文化財群の５つのテーマ・ストーリー

豊前市の関連文化財群として、以下の 5 つのテーマ・ストーリーを設定します。

テーマ名	ストーリー	構成する主な文化財
宇佐神宮への道 **－勅使街道－** 朝廷使者と八幡信仰	勅使街道は宇佐八幡宮へ天皇の使者が通った道で、宇佐八幡宮の荘園があった豊前市には八幡信仰と深い関わりがある。 豊前市域の勅使街道は松江から四郎丸を通り、現在の国道 10 号とほぼ同じ線を通り上毛町へ続いている。	街道、寺院、神社、石造物、郷土芸能祭り
求菩提信仰の路 －修験者を支えた路と里－	峰入道は山伏が修行を行うための道であると共に、山伏と里の人々が係りをもつ場でもあった。また、多くの人々も求菩提山へ参詣するため、山伏と同じ道を通っていた。修験道は豊前市の歴史文化を語るうえで欠かせない要素であり、伝統芸能も伝え残されている。	求菩提山、街道、寺院、神社、石造物、町なみ、郷土芸能祭り、農村景観

テーマ名	ストーリー	構成する主な文化財
中津街道 －往来と交流－	近世の豊前市域には小倉から中津を結ぶ街道が整備され、多くの人やモノが行き交った。 中津街道沿いの八屋、松江には宿場町や在郷町があったことが知られ、街道沿いにはかつての面影や雰囲気を残している町なみや神社祭礼なども多く伝えられている。	街道、寺院、神社、石造物、町なみ、郷土芸能　祭り
瀬戸内海のみち **（海路の出発点宇島港）** 地域に貢献した 小今井潤治	八屋に隣接する宇島には近世に築かれた港があり、瀬戸内海を通り、大阪など近畿とをつなぐ海路の拠点となった場所。海運で栄えた宇島には大阪商船事務所跡、種田山頭火が逗留した宿の跡、漁師町が今もその面影を残している。	港、街道、神社、石造物、町なみ、郷土芸能、祭り、（旅館・海）
維新へのみち **幕末の動乱と千束藩** －武家屋敷の出現－	小倉藩の支藩として成立した小倉新田藩。幕末には千束藩となったが 2 年後には廃藩置県により消滅した。豊前市内にはこうした幕末から明治にかけての足跡が残されている。 陣屋のあった千束地区には家老屋敷の門の跡や地割、当時の面影を残す建物などが残っている。	街道、神社、石造物、町なみ、郷土芸能、祭り 城跡、武家屋敷の地割


豊 前 市 全 図
福岡県略図
中津街道（豊前道）
松江
八屋
宇島
中津道（下往還）
沓川
友枝道
三毛門
四郎丸
求菩提道
勅使道
（中津街道・上往還）
峰入道（春）
峰入道（秋）
求菩提道
合河四つ口
関連文化遺産群の
5つのテーマ
宇佐神宮への道
求菩提信仰の路
中 津 街 道
瀬戸内海のみち
維新へのみち
凡 例
1：25,000

２．テーマとストーリー

（１）宇佐神宮への道　－勅使街道－　朝廷使者と八幡信仰

１）ストーリー

勅使街道は松江から四郎丸、大村、黒土、上毛町垂水、中津市高瀬を経て宇佐神宮へと通じる古代の官道で、近世以降は「上往還」と呼ばれました。天皇の使者である泰幣使(勅使)が宇佐神宮に参拝する際に通った道で「勅使道」とも呼ばれます。

松江から四郎丸までは中津街道と同じルートですが、四郎丸の広山から南に分かれて現在の国道 10 号とほぼ同じルートで上毛町に続いています。

宇佐神宮との地域のかかわりは勅使街道だけでなく、黒土にある石清水八幡神社や、かつては宇佐神宮の荘園であった角田荘や黒土荘が置かれていたと記録にあります。

また、現在も大富神社に奉納されている山田の感応楽は、宇佐神宮にも奉納されています。

角田八幡神社は貞観元年（860）に勧請されたといいます。長元四年（1031）には、宇佐八幡宮の本御荘一八本荘の一つとして角田荘が成立し、宇佐八幡宮と深いつながりを持つようになります。角田八幡神社では隔年で豊前楽が奉納されています。

宇佐神宮の社殿は式年造営で 33 年ごとに建て替えられます。このとき工事の安全を祈り、「杣(そま)始め」という儀式が行われます。豊前市内でも下川底の白山神社で大樟のもと厳粛に行われたと伝えられています。

２）構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
石造物	【角田地区】猛勇神社の両面板碑、角田八幡神社の狛犬 【山田地区】大富神社の神明鳥居、須佐神社の狛犬、大富神社の狛犬、庚申塔、猿田彦文字塔(4)、道祖神文字塔、郡界標、大富神社の燈籠 【黒土地区】石清水八幡神社の肥前系鳥居、庚申文字塔、領界標（藩界石）	神社境内 沿道 個人敷地	神社・氏子 地域住民 個人
指定文化財	県】黒部古墳群、宇佐神宮の杣始めの掛札および箱、白山神社の大樟　市】浄圓寺絹本阿弥陀来迎図、黒峰尾古墳群		所有者・行政
神社	七社神社、貴船神社、恵比須神社、四公神社、貴船神社、大歳神社、五社神社、大己貴神社、千束八幡神社、角田八幡神社、足切神社	境内 集落等	神社・氏子
寺院	正法寺、浄圓寺、願行寺、選仏寺、願成寺、永寿寺、正円寺、徳善寺	境内 集落等	寺院・檀家
祭礼・祭り	大富神社神幸祭、山田の感応楽、豊前楽	奉納神社等	保存団体 地域住民
伝説	野田の馬洗池の話、拝みの松	語りの場	語り部

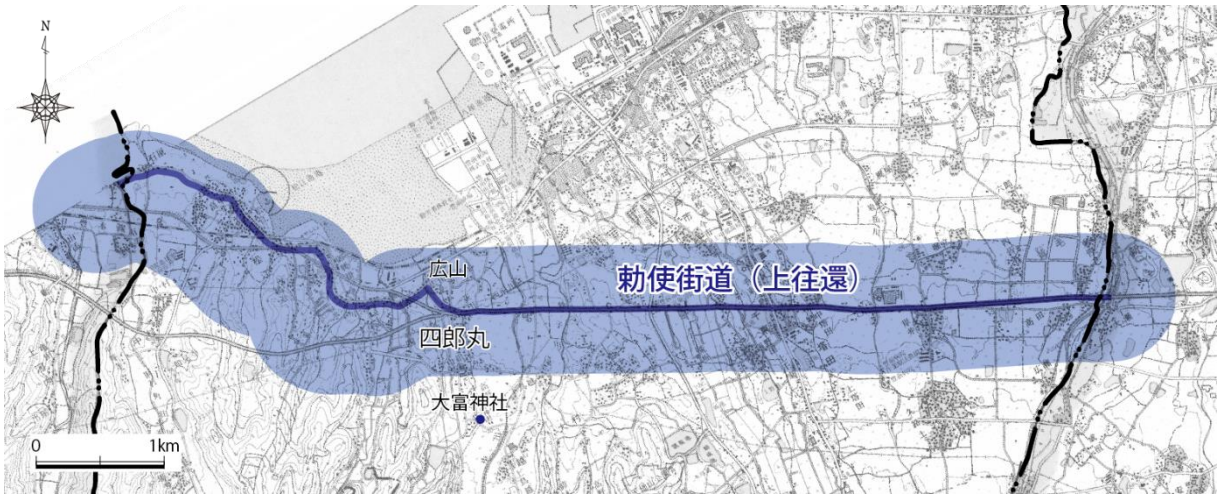
国】：国指定文化財　県】：県指定文化財　市】：市指定文化財

３）現況と課題

・当時の道路が廃絶することなく現在も幹線道路や生活道路として利用されています。

・道路の線形などは残されていますが、拡幅や地形の改変などが行われています。

・国道 10 号はかつての勅使街道の趣はなく、また、古代官道や勅使が通ったという案内解説サイン等もないため、歴史的な価値が伝わりにくいものとなっています。



勅使井（大富神社）

石清水八幡

山田の感応楽

（２）求菩提信仰の路　－修験者を支えた路と里－

１）ストーリー

「求菩提山縁起」によると継体天皇20 年（526）の猛覚魔卜仙による開山、慶雲元年（704）の役行者の入山、養老4 年（720）の行善による求菩提山護国寺の創建などが伝えられますがここまでは伝説の域を出ません。初めて史実として登場するのは保延年間（1135～1141）に入山し、求菩提山中興の祖とされる頼巌上人です。頼巌は護国寺の伽藍を整備し、教義に基づく修行の方法を整え、さらには銅板法華経の勧進を行うなどし、求菩提山は本格的な天台修験の山となりました。

以来求菩提山は信仰の山として人々と係わってきました。求菩提山へ向かう道は、市域北部を通る街道から分かれ、南西に位置する求菩提山へつながります。近世から求菩提山へ参詣する人々が増え、その多くはこの路を通り、岩岳川沿いに求菩提山へ向かいました。

求菩提山信仰において、修験者が修行を行うために通るルートは峰入道といわれ、求菩提山を起点として山間の路からしだいに平野部となります。求菩提山や犬ヶ岳へ山岳地は険しい山道ですが、求菩提山から谷に沿って平野部へ降りる比較的緩やかなルートもあります。峰入道には春と秋の２つのルートがあり、春の峰入道は求菩提山から尾根道を通って国見岳へ渡り、岩丸、椎田を経由して角田へ向かいます。角田からはまた築上町の小山田、本庄を通って寒田から求菩提山へ戻ります。

秋の峰入道は上毛郡を廻峰し、轟谷から両界岳、犬ヶ岳、経読岳の山岳地に入っています。廻路は求菩提山の麓にある鳥井畑から篠瀬、中畑、大河内、天和、下河内、山内、薬師寺、鬼木、緒方の順で、岩岳川や佐井川沿いの多くの集落を通ります。

また、峰入道は修験者の修行を行う道であるとともに、人々が求菩提山へ参詣に向かう道でもありました。峰入道が通る集落には修験道に関わる石造物や社寺、伝承などが多く残っています。

２）構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

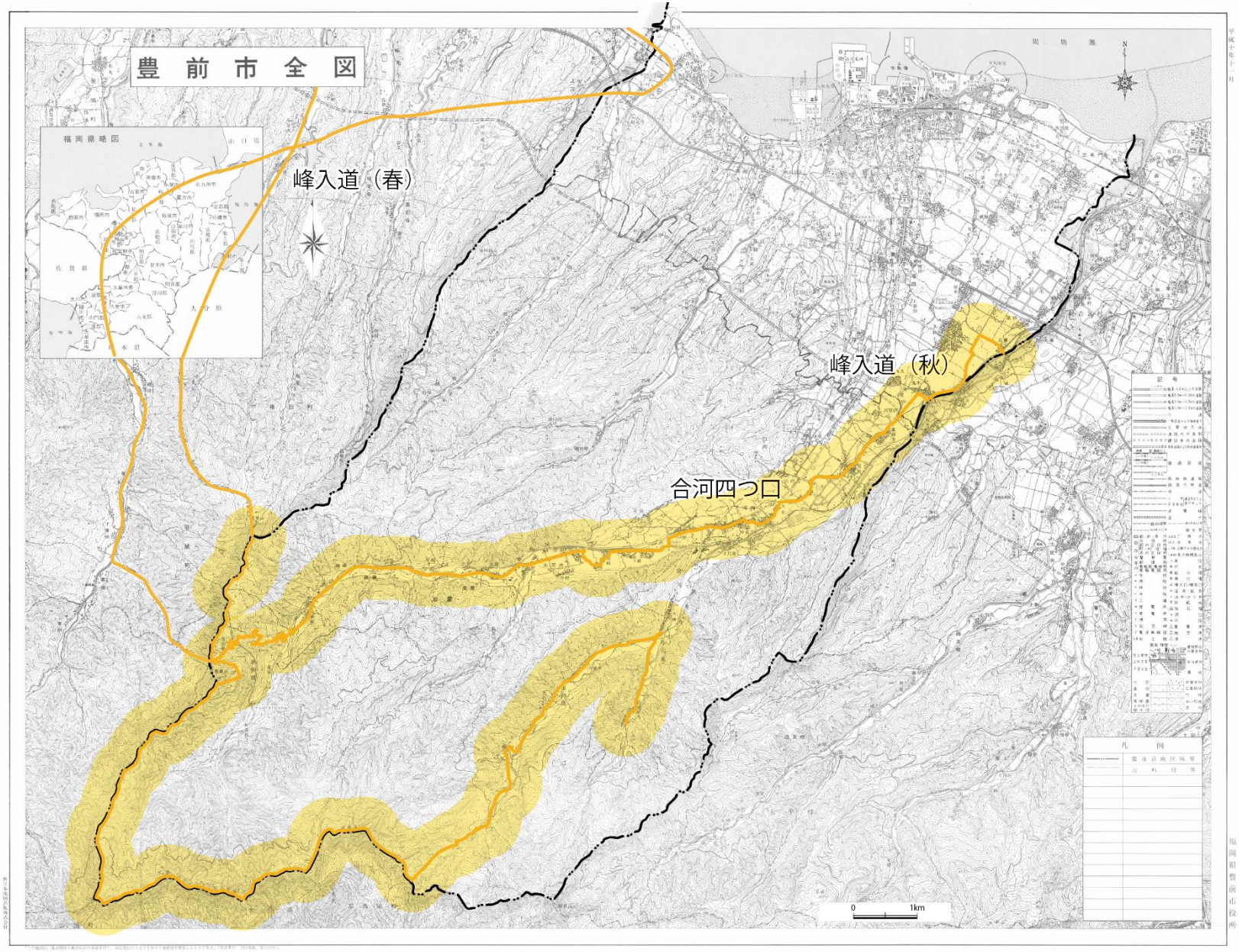
構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
町なみ	各集落	住宅・商店等	地域住民 道路管理者
石造物	【求菩提山】自然石碑(6)、磨崖碑(3)、角柱、石祠、求菩提山の五重塔、求菩提山の宝塔、求菩提山の宝篋印塔三基(山の神塔、国玉神社左の塔、日吉神社前の塔)、求菩提山の角塔婆、常行堂の自然石板碑、安浄寺跡の地蔵、たたき地蔵、求菩提山の六地蔵塔、求菩提山登山口の十三仏、求菩提山の八十八ケ所仏、求菩提山の燈籠、国玉神社の鳥居、庚申塔、笠付角柱碑、郡界標・領界標・道標 【岩屋地区】不動窟の三重塔、岩洞窟の宝塔、地蔵堂の宝塔、岩洞窟の諸仏、岩洞窟の妙見菩薩、七社神社の鳥居、大山祇神社の明神鳥居、角柱碑、庚申文字塔 【合河地区】夫婦木の宝塔、天和の板碑、雁股山の板碑、ヤネンドーの十一面観音、貴船神社の狛犬、猿田彦文字塔 【横武地区】道祖神社の宝篋印塔、如法寺の五輪塔、嘯吹八幡神社の燈籠、挟間の板碑、道祖神社の鳥居、猿田彦文字塔	社寺境内 沿道 個人敷地	神社・氏子 寺院・檀家 地域住民 個人

石造物	【黒土地区】石清水八幡神社の肥前系鳥居、庚申文字塔、郡界石 【山田地区】大富神社の神明鳥居、須佐神社の狛犬、大富神社の狛犬、庚申塔、猿田彦文字塔(4)、道祖神文字塔、郡界石、大富神社の燈籠 【角田地区】原井の両面板碑二基、猛勇神社の両面板碑、角田八幡神社の狛犬 【八屋地区】求菩提道の道標	社寺境内 沿道 個人敷地	神社・氏子 寺院・檀家 地域住民 個人
指定文化財	国】豊前市求菩提山経塚出土品、犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地、　求菩提山、求菩提の農村景観、豊前神楽　県】求菩提山文書、盲僧琵琶（ささびわ、付属品・文献 1 冊)、求菩提山修験道遺品、求菩提山のお田植祭（求菩提山松会)、蔵春園（恒遠塾跡)、大河内の広葉杉、求菩提のヒメシャガ、求菩提のボダイジュ、白山神社の大樟、須佐神社の大樟　市】木造不動明王像及び脇侍二童子像、木造地蔵菩薩像、覚魔社社殿、白山神社石造如来形座像（残欠)、蔵春園関係資料、日吉神社本殿、石清水八幡神社歌仙板絵馬、津野田文書、天狗曼荼羅絵図、角田八幡神社棟札、角田八幡神社の豊前楽、畑のどんど焼き、水神社「冷泉」、求菩提山のクワ（桑)、轟のフジ、水神社の大樟		所有者・行政
神社	七社神社、恵比須神社、貴船神社、角田八幡神社、雲見神社、塞神社、猛勇神社、水神社、八幡神社、国玉神社、須佐神社、大山祇神社、須佐神社、大山祇神社、七社神社、日吉神社、合八幡神社、二塚神社、須佐神社、貴船神社、嘯吹八幡神社、道祖神社、貴船神社、宗像神社、深山八幡神社、貴船神社、大西神社、石清水八幡神社、貴船神社、大山祇神社、貴船神社、貴船神社	神社境内 集落	神社 氏子
寺院	正法寺、浄圓寺、願行寺、来迎寺、満光寺、宝寿寺、法覚寺、応因寺、浄福寺、浄心寺、明照寺　如法寺、明泉寺、東光寺、長久寺	寺院境内 集落	寺院 檀家
祭礼・祭り	神楽（中村神楽保存会・大村神楽講・山内神楽講・黒土神楽講・三毛門神楽講) 豊前楽（角田八幡神社の豊前楽)　　清原神事 求菩提のお田植祭り（求菩提の松会)	奉納神社等	保存団体と地域
伝説	角田の生目八幡、求菩提の鬼の石段、大河内の日吉さる、挟間の乳の観音	語りの場	語り部

国】：国指定文化財　県】：県指定文化財　市】：市指定文化財

3）現況と課題

・平野部から山間部にかけて沿道には農地や集落があり、地域の生活に溶け込んだものとなっています。また、平地や谷間など沿道の景観や雰囲気に変化があります。
・当時の道路が廃絶することなく現在も生活道路などとして利用されています。
・道路の位置などは比較的残されていますが、生活道路として利用されているが故に拡幅や舗装化など当時の路面などの遺構が残されておらず、趣は薄れています。


豊 前 市 全 図
福岡県略図
峰入道（春）
峰入道（秋）
合河四つ口
凡 例
0
1km

求菩提道の道標

求菩提道の道標

求菩提路（大河内）

求菩提路（下河内）

（3）中津街道　－往来と交流－

1）ストーリー

江戸時代になると小倉藩は下往還とよばれる街道を拡幅し、小倉と中津を結ぶ中津街道を整備しました。一里毎に一里塚が設けられていました。

小倉から中津までの間に、苅田、大橋、椎田、松江、八屋の 5 つの宿場がおかれ、豊前市内には松江と八屋があります。八屋には近世に描かれた絵図にもみられるように、御茶屋、御蔵、牢屋、高札などが整えられていました。かつて伊能忠敬が日本全国を測量した際に八屋に泊まったことが測量日記にも記されています。

現在も松江から三毛門までのかつての街道の線形がよく残っており、道幅も狭い部分があります。沿道は歴史を感じさせる民家や商家も残っています。

2）構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
町なみ	宿場町周辺の町なみ：松江・八屋・宇島 街道の町なみ：四郎丸・沓川・三毛門	住宅・商店等 宿場町	地域住民 道路管理者
石造物	【角田地区】猛勇神社の両面板碑、角田八幡神社の狛犬 【山田地区】大富神社の神明鳥居、須佐神社の狛犬、大富神社の狛犬、庚申塔、猿田彦文字塔(4)、道祖神文字塔、郡界標 【八屋地区】宝福寺の地蔵、菅原神社の狛犬、四公神社の狛犬、厳島神社の鹿、求菩提道の道標、大阪屋橋、一石五輪塔 【宇島地区】松本家具製作所の地蔵、猿田彦文字塔、大富神社の燈籠 【三毛門地区】六郎公民館前の板碑、賀茂春日神社の鳥居、沓川神社の明神鳥居、春日神社の狛犬、猿田彦文字塔	神社境内 沿道 墓地 個人敷地	神社・氏子 地域住民 所有者
指定文化財	県】大富神社神幸祭（八屋祇園）市】浄圓寺絹本阿弥陀来迎図、上毛・築城の郡界石、宇島祇園		所有者･行政
神社	七社神社、恵比須神社、四公神社、塞神社、四公神社、厳島神社、若宮八幡神社、宇島神社、堂山神社、恵比須神社、小笠原神社、沓川神社、足切神社　貴船神社　菅原神社　春日神社	各神社の 立地環境	神社の所有者と氏子
寺院	正法寺、浄圓寺、願行寺、選仏寺、願成寺、宝福寺、賢明寺、正明寺、教円寺、正念寺、善正寺	各寺院の 立地環境	寺院の所有者と壇家
祭礼・祭り	大富神社春季神幸祭（八屋祇園）宇島祇園（宇島神社春季神幸祭）	奉納神社等	保存団体と地域
伝説	足無川、前川のかっぱ伝説、久松の夜泣き松	語りの場	語り部

国】：国指定文化財　県】：県指定文化財　市】：市指定文化財

3）現況と課題

・近世の街道として線形が良く残っており、部分的に新しい道などで途切れていますが、ほぼつながっており、当時の街道として歩くことができます。
・沿道の民家や社寺、石造物など歴史的な趣があるものも多く残っています。
・旧街道であることや宿場町であったことを示すサイン等が少なく、市民にも伝わりにくくなっています。
・建物自体は古いが、外壁を現代風に改修しているものもあり、町なみの連続性が途切れています。

松江の町なみ

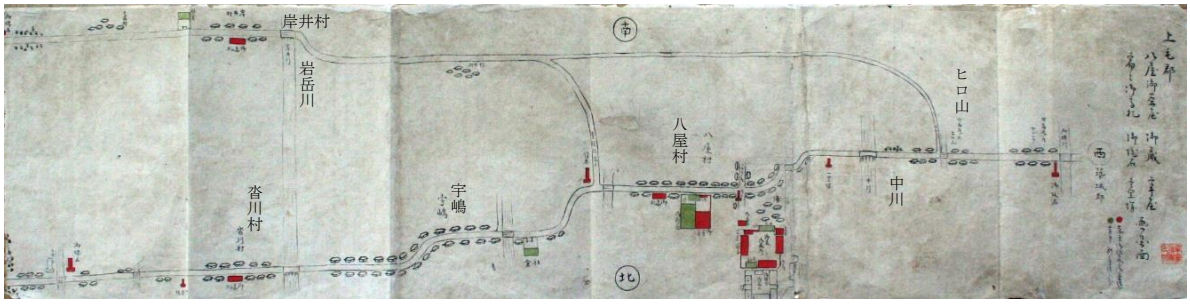
八屋の町なみ

沓川の町なみ

沓川神社の鳥居

浦野醤油醸造元（八屋）

宇島の一里塚



上毛郡八屋御茶屋・御蔵・牢屋・宿々御高札・御境石・一里塚の図

（4）瀬戸内海のみち　－海路の出発点宇島港－　地域に貢献した小今井潤治

1）ストーリー

宇島は宿場町である八屋の東隣にあり、文政 8(1825)年に小倉藩により宇島港が築港されました。江戸末期から明治にかけて商人である小今井潤治が私財を投じて、港としての機能を充実させていき、関西との海運業の要となりました。現在でも、大阪商船の旧事務所や旅館などが残っています。明治以降の宇島港は荷旅客のほか、穀物や雑貨をはじめ、鉄道が敷設されると、木材や石炭の積出港としても栄えています。

宇島には船宿も立ち並び、多くの人や物が行き交いました。中でも福沢諭吉や種田山頭火が泊まったことが記録に残っています。福沢諭吉は「福翁自伝」で自身が暗殺されそうになったとき宇島港にて難を逃れたと記述しています。また、種田山頭火は「行乞記」で宇島に逗留したことを記述し、「酔うて急いで山国川を渡る」など俳句を 5 首詠んでいます。

また、漁業においても漁港の発展と、遠洋漁業の漁業権の獲得など小今井氏や小畑平三郎の活躍がありました。

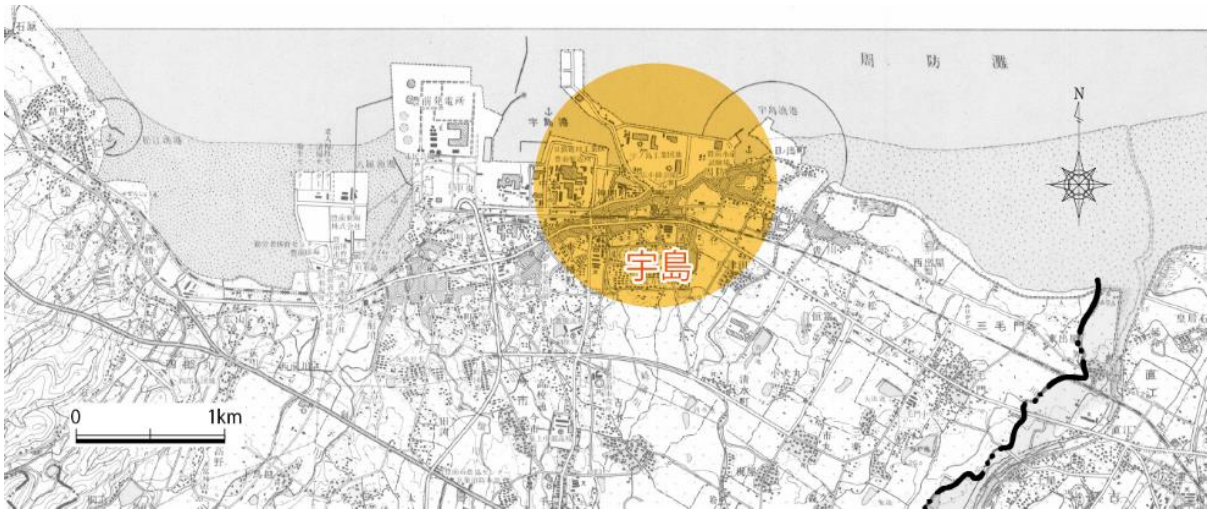
2）構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

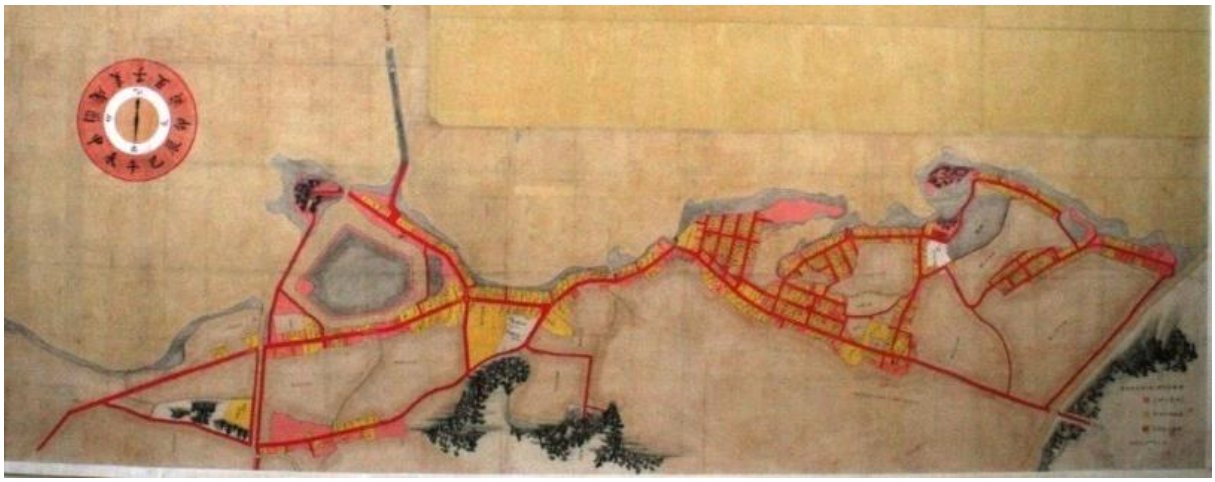
構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
町なみ	港周辺の町なみ・宿場町から続く町なみ	住宅・商店等	地域住民 管理者
石造物	【宇島地区】松本家具製作所の地蔵、猿田彦文字塔、大富神社の燈籠 【八屋地区】宝福寺の地蔵、菅原神社の狛犬、四公神社の狛犬、厳島神社の鹿、大阪屋橋	社寺境内 沿道 個人敷地	神社・氏子 寺院・檀家 地域住民 個人
指定文化財	市】宇島祇園、辛島家宇島築港関係資料		保存団体と地域・行政
神社	宇島神社、堂山神社、楡八幡宮、恵比須神社、小笠原神社	神社境内 集落	神社 氏子
寺院	正明寺、教円寺	寺院境内 集落	寺院 檀家
祭礼・祭り	宇島祇園（宇島神社春季神幸祭）	奉納神社等	保存団体と地域

国】：国指定文化財　県】：県指定文化財　市】：市指定文化財

3）現況と課題

- 北側のかつての海は埋め立てられ、中心部分は船だまり公園として整備されていますが、築港当時の地割や町なみは歴史的な雰囲気を残しています。
- 宇島を通る中津街道沿道の民家や社寺、石造物など歴史的な趣があるものも多く残っています。
- 宇島港築港を解説するサインが船溜まり公園に設置されていますが、その他の場所や、宇島港の歴史等を紹介するサインが未整備です。
- 宇島港が発展した経緯や、福沢諭吉、種田山頭火など著名人に関するエピソードが多く残されていますが、あまり知られていません。





宇島築港絵図　文政 13 年（1830）

宇島神社

現在の船溜まり

宇島の町なみ

旧大阪商船事務所

木材会社事務所

小畑平三郎記念碑

（５）維新へのみち　－幕末に現れた千束藩と武家社会－

１）ストーリー

小倉新田藩は小倉藩の支藩として寛文 7 年(1667)に成立しましたが、藩主の居所は小倉城下にありました。小倉藩は明治 2 年(1869)の長州戦争（第 2 次長州征伐）に敗れ、香春から豊津へと拠点を移す過程で小倉新田藩から千束藩と改称しました。

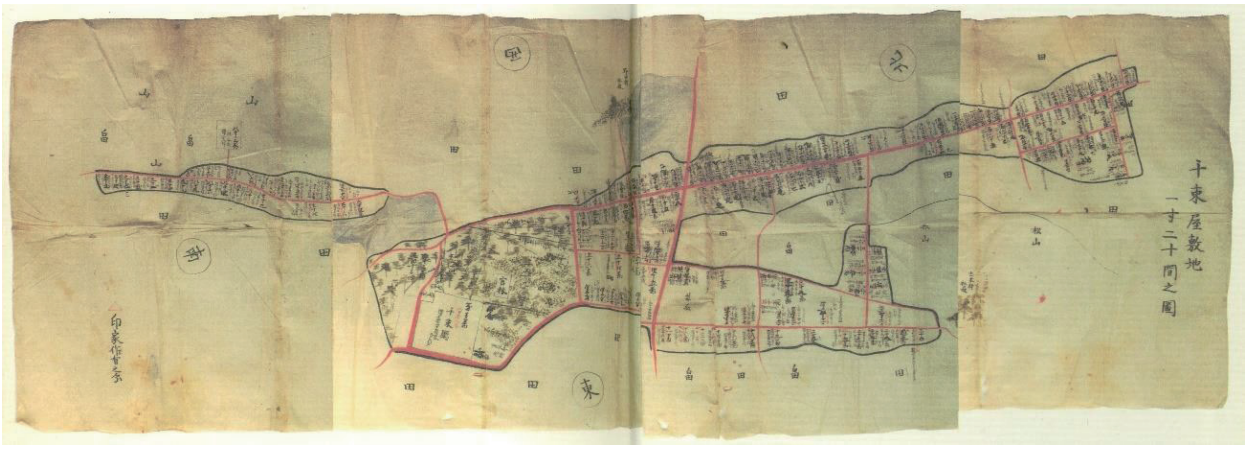
千束藩の藩邸跡は旭城として石垣が築かれ、旭城から南北に延びる道沿いには武家屋敷が並びました。しかし明治 4 年(1871)の廃藩置県により、築城後 1 年足らずで廃城となりました。日本で最後に築かれ、また最も短命な城と言われています。石垣は千束八幡宮の境内として残されており、周辺は現在も当時の武家屋敷の地割が残っています。

２）構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

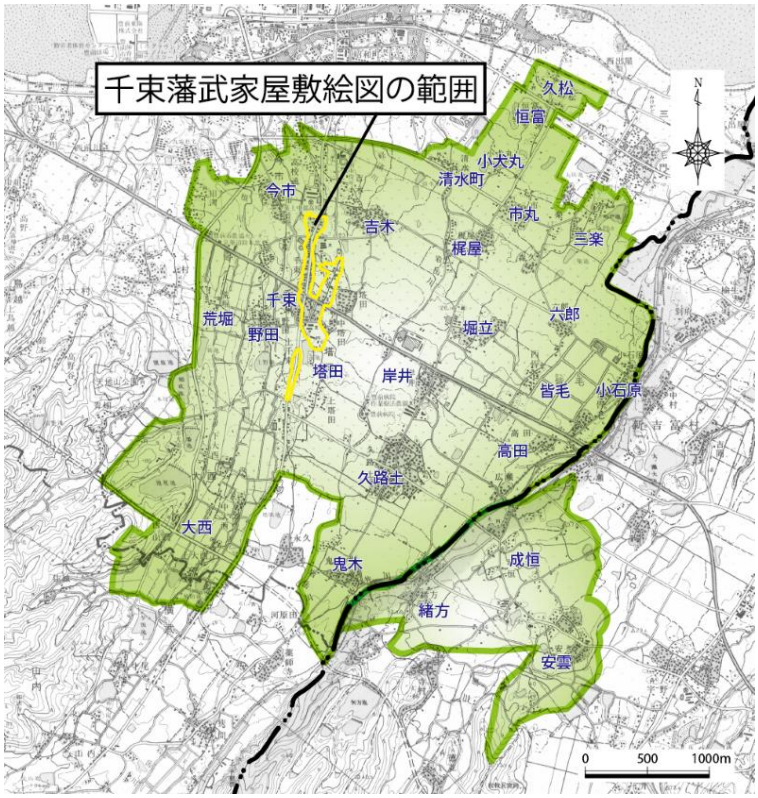
構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
町なみ	武家屋敷の地割・旭城跡（陣屋跡）	住宅･商店等	地域住民 管理者
石造物	【千束地区】丸山墓地の聖観音、笠付角柱碑	墓地・集落	管理者・地域
神社	事代主神社、貴船神社、千束八幡神社、石清水神社	神社境内 集落	神社・氏子
寺院	円光寺　正円寺	寺院境内 集落	寺院・檀家

３）現況と課題

・道路に面して塀や門があり、武家屋敷としての町なみの面影が残っています。
・当時の武家屋敷からと思われる古い建物自体も残っていますが、外壁を現代風に改修しているため、当時の雰囲気を感じる建物は多くはありません。
・千束八幡の境内には千束藩の歴史解説サインがありますが、その他には案内もなく、武家屋敷跡としての町なみが分かりにくいものとなっています。



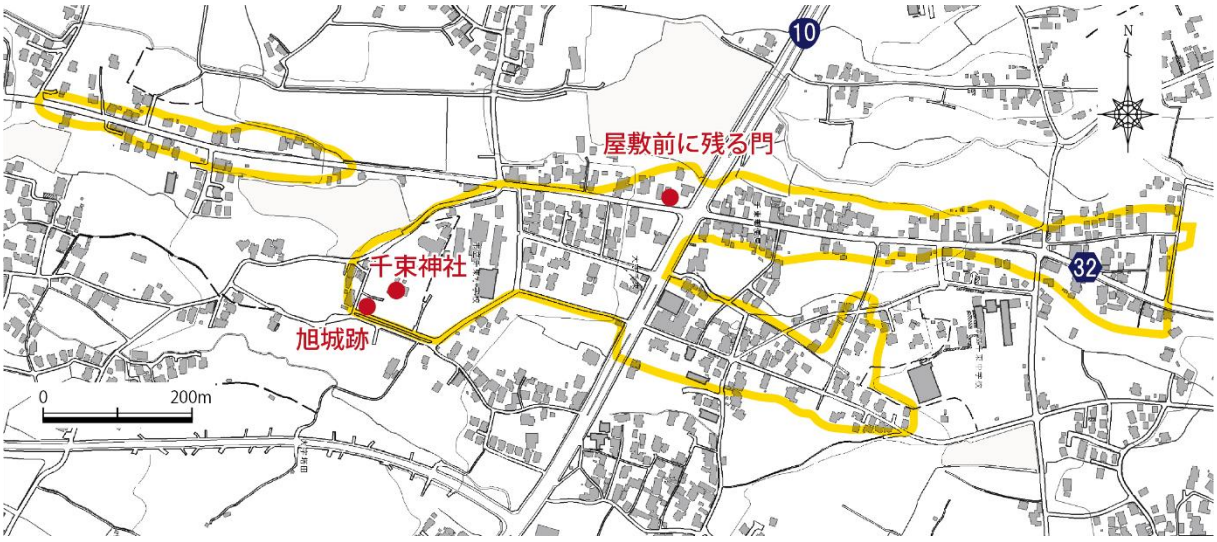
千束藩屋敷絵図



地名による千束藩の範囲

屋敷前に残る門

旭城跡の石垣



３．歴史文化保存活用区域の考え方

（１）文化財の保存・活用の基本理念

豊前市の文化財の多くは「求菩提山」を中心とした修験道文化にかかわるものと、古代官道や近世の中津街道にまつわる「道（路）」に関連するものにその特徴を見出すことができます。本基本構想ではこのような地域の特徴を踏まえつつ、住民が文化財をより身近なものとして触れることができるよう、また郷土に誇りと愛着が持てるようその取組みを進めることとします。

その一つとして「豊前市教育基本構想」に示すように小中学校段階で郷土の歴史・文化の素晴らしさを知り、ふるさと豊前を誇れる子ども育成のため「ぶぜん 9 年プログラム」を作成し、学校の授業のなかでの位置づけを明確にして実施することとします。

また、現在各地域で推進している「地域づくり協議会」による地域づくり計画の策定の中では、地域を知ることで地域課題の抽出に繋がるという考え方の基、地域の歴史文化についても改めて考えてもらうよう課題として提案をしています。その結果、地域の歴史文化を生かした取組みの提案が成される傾向にあり、今回、本基本構想をその基礎資料として示すことで更なる取組みの推進を図ることとします。

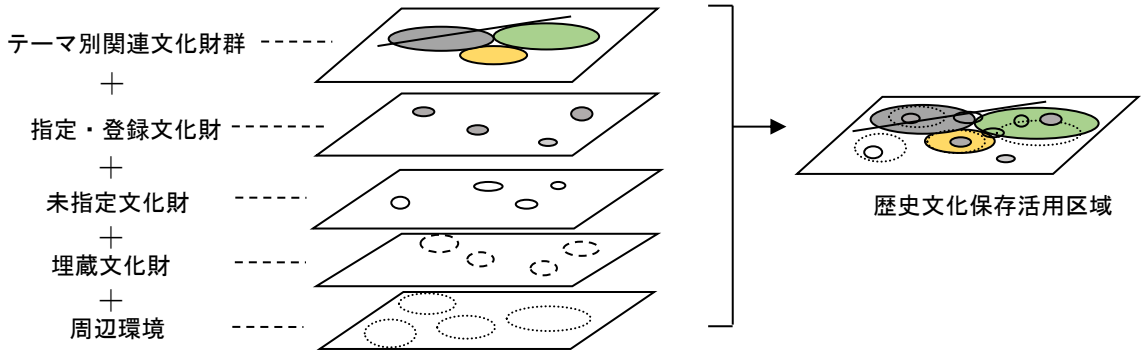
さらに、人口の減少と高齢化が進行する中、地域のコミュニケーションの活性化を図る取組みとして、所謂祭りや伝統芸能を積極的に評価し、地域活性化の方策として位置づけたいと考えます。特に市内全域で奉納される神楽や、神社祭礼など地域で心かようふれあいの場が提供できるよう本基本構想で位置づけたいと考えています。

このような取組みをとおして豊前市では市内に残される文化財群の保存・活用の基本理念として整理したいと思います。

（２）区域の必要性と要件

主要な文化財などとその周辺環境を一体的に保存活用の対象として捉えるために、一定の区域を定めると、具体的な保存活用（管理）計画の策定や、その活用などの効果も分かりやすくなります。これらは、本構想において「歴史文化保存区域」として位置付けることができます。

豊前市の歴史的特徴を表すテーマに沿った文化財が集積した地区、関連する文化財をつなぐ範囲などを基に、そのテーマとなる指定文化財などを中心として、その文化財の周辺地域にある関連した未指定文化財などと、地域を含めた周辺環境をまとめて、豊前市の歴史文化の特徴を示す区域を設定するものです。



区域抽出の考え方

（３）歴史文化保存活用区域

関連文化財の主要な構成要素の場所をもとに、近接している地区や同質の地区をまとめます。

今後の各種事業の推進や実現をめざすため、様々な歴史文化資源、地理的環境、景観特性を基に、歴史を重層する資源や地域性から市内を**宇佐神宮への道ゾーン**、**求菩提信仰の路ゾーン**、**中津街道ゾーン**、**瀬戸内海のみちゾーン**、**維新への道ゾーン**の５つのゾーンとして地区区分を行います。

ゾーン設定については、道の沿線を中心に地形や水系など地理的条件、時代ごとの資源分布状況から、各時代を重ね合わせ、複数の時代にまたがる歴史文化資源の分布状況を把握します。

中津街道から分かれ内陸部を通る**宇佐神宮への道ゾーン**は、豊前市に残る八幡信仰を物語るもので、道・農地・集落と神社等が残っています。

また、平野部から南側の山間地にかけては求菩提山を中心とした信仰につながる道が通る**求菩提信仰の路ゾーン**では道沿いの集落とそれぞれの集落にある神社やお寺、路傍の石造物などの歴史的資源が見られ、修験道の影響が残る地区となっています。

周防灘に面した市北部の**中津街道ゾーン**は特に近世江戸時代に発達した宿場町や港町、沿道の町なみなどをはじめ、街道沿いの神社仏閣、石造物など市の特徴となる歴史文化資源が多く見られます。

瀬戸内海のみちゾーンは中津街道沿いにある宇島港を中心に、近世から近代にかけて大阪とをつなぐ航路の発着点であり、港に係る歴史文化資源が見られます。

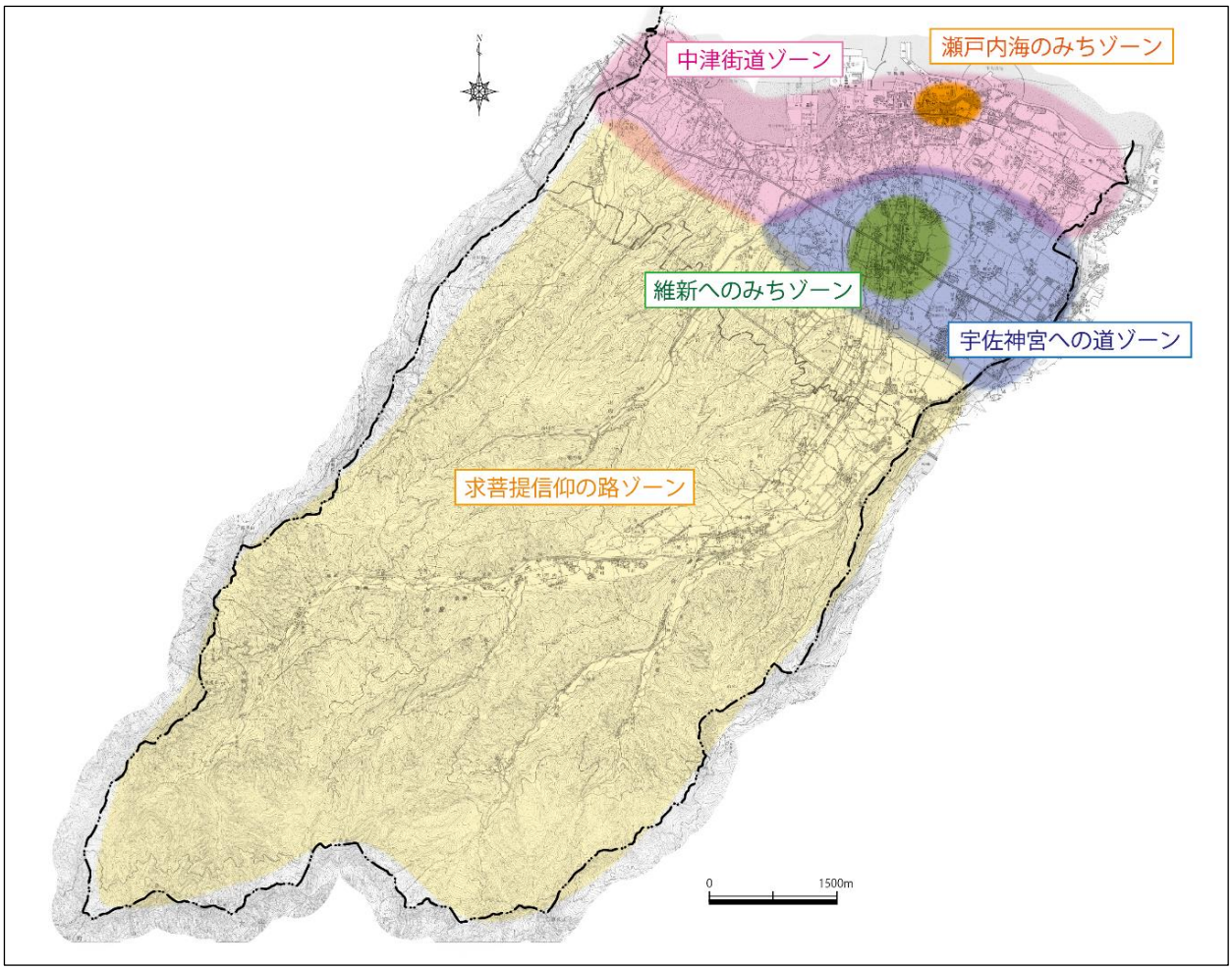
維新への道ゾーンは宇佐神宮への道ゾーンの中程に位置します。市内にも藩庁及び城下町が存在した跡として、陣屋の石垣や武家屋敷の地割が残るなど、歴史文化資源が見られます。

各ゾーンにおいては、先に示した基本方針に従い、保存と活用の基本的な方向を示します。施策を全体として推進します。また、それぞれのゾーンの役割や特徴を活かした活用計画を示します。

保存と活用の基本的な方向

○地域の歴史資源は、これまで地域の人々が受け継いできたものであり、広く市民に対して周知を図り、それらを市民全体で護り、次世代に継承します。

○指定文化財の他、未整備、未活用の歴史資源についても解説板設置や案内情報の発信など包括的な保護を図る整備を検討し、活用を図ります。



（４）区域毎の整備活用等の方向

各区域では区域ごとに重点的な整備活用を進めますが、豊前市全体の文化財に係る事項として以下の項目の整備を進めます。

１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

指定文化財をはじめ、有形の歴史文化資源を良好な状態で保全します。
また、すでに解説板を設置している資源のほか、特に重要なものなどは新たな解説板の設置を行います。また、神楽をはじめ各イベントやまつりを通して、文化財や歴史文化資源を広く市民にアピールします。
各地の民話や伝承も後世に伝えていきます。

２．地域の文化財を整備し、活用する

地域内や他の地域をつなぐ散策や回遊ルートの設置を行います。
解説サイン等にはＱＲコードを表示し、周辺文化財の紹介や他の地区の紹介を行う市文化財サイトへ案内します。

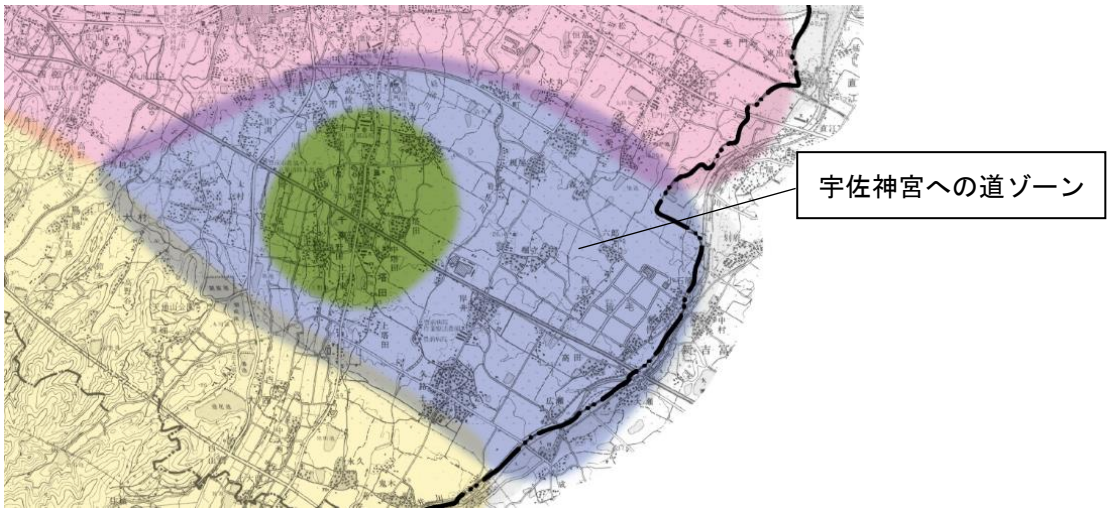
①宇佐神宮への道ゾーン

１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

大富神社や石清水八幡などを中心に伝統的な有形・無形の歴史文化資源が伝承されているため、保護を図ります。

２．地域の文化財を整備し、活用する

勅使街道沿線の環境整備を行い、街道散策ルートの設置を行います。岩岳川上流に位置する白山神社と連携した回遊ルートや、荘園の面影が残るまちなみの回遊ルートなど、複数のルート設定も検討します。
勅使街道や荘園領地の解説案内サインの整備を行います。



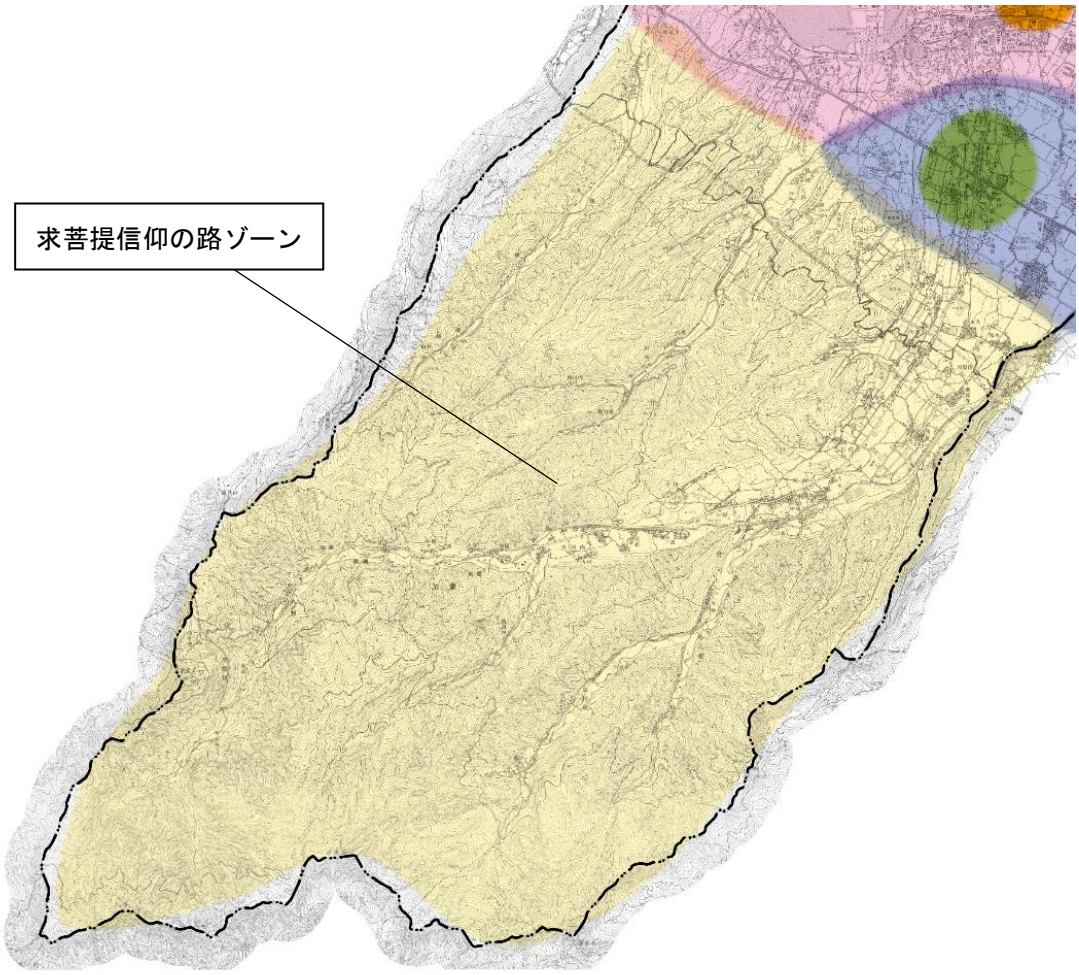
②求菩提信仰の路ゾーン

１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

各集落などは中山間の豊かな自然とともに多くの伝統的な有形・無形の歴史文化資源が伝承されているため、保護を図ります。

２．地域の文化財を整備し、活用する

各集落は昔からつづく景観としての保存と整備を図ります。特に修験道に関するものや、山伏の生活を支えてきた地域としての環境整備を行います。峰入り道のルート整備や案内の設置を行います。また、各所に残る石造物や神社などの回遊ルートの設定を検討します。
求菩提資料館は修験道に関する史料を展示しており、山伏の修行や生活をより理解して頂くため、積極的な案内や情報発信を行います。



③中津街道ゾーン

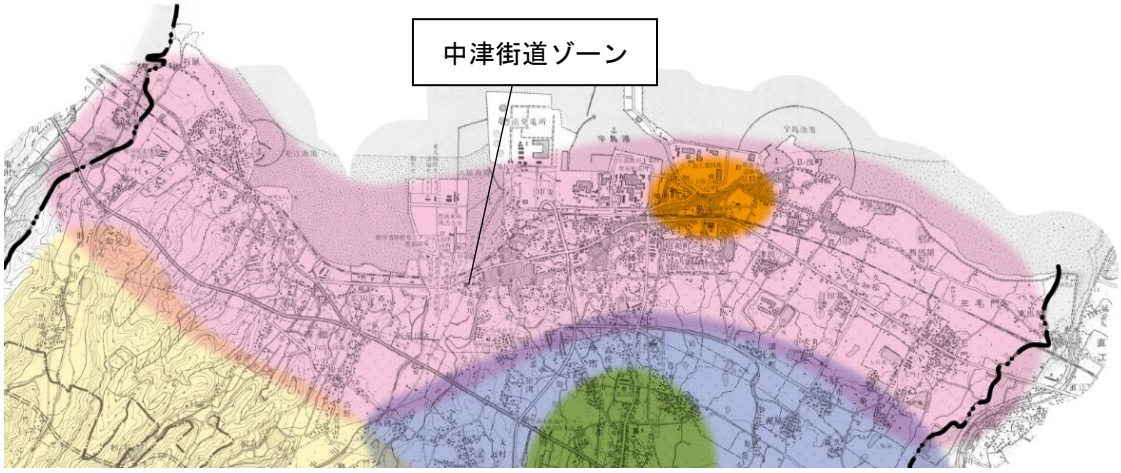
１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

松江や八屋など宿場町であった地区は歴史的な町なみが残り、伝統的な有形・無形の歴史文化資源が伝承されているため、保護を図ります。

２．地域の文化財を整備し、活用する

かつて街道であった道の線形がよく残っており、各所には歴史を感じさせる建物も見られることから昔からつづく景観としての保存と整備を図ります。特に松江や八屋の宿場町の景観を活かすよう、環境整備を行います。

指定文化財や主要歴史資源、町なみ景観のスポット等には解説案内サインの整備を行います。当時の宿場町の町なみなどスマートフォンやタブレットで見ることができるＶＲやＡＲの整備の検討も行います。



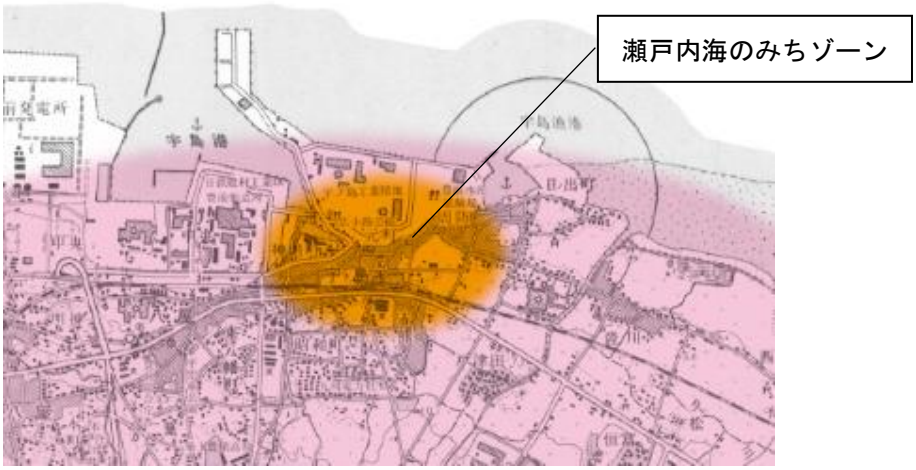
④瀬戸内海のみちゾーン

１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

宇島港周辺地区は旧大阪商船事務所や旅館など歴史的な町なみが残り、伝統的な有形・無形の歴史文化資源が伝承されているためその活用を図ります。

２．地域の文化財を整備し、活用する

宇島港の船溜まりは公園として整備されていますが、周囲の道の線形や歴史を感じさせる建物や神社も見られることから昔からつづく景観としての保存と整備を図ります。特に港としての景観を活かすよう、環境整備を行います。将来的には旧大阪商船事務所など歴史的な建物を活かした地域のガイダンス施設としての整備を検討します。
指定文化財や主要歴史資源、町なみ景観のスポット等には解説案内サインの整備を行います。また、かつての宇島港の賑わいをスマートフォンやタブレットなどで見ることができるＶＲやＡＲの整備の検討も行います。



⑤維新へのみちゾーン

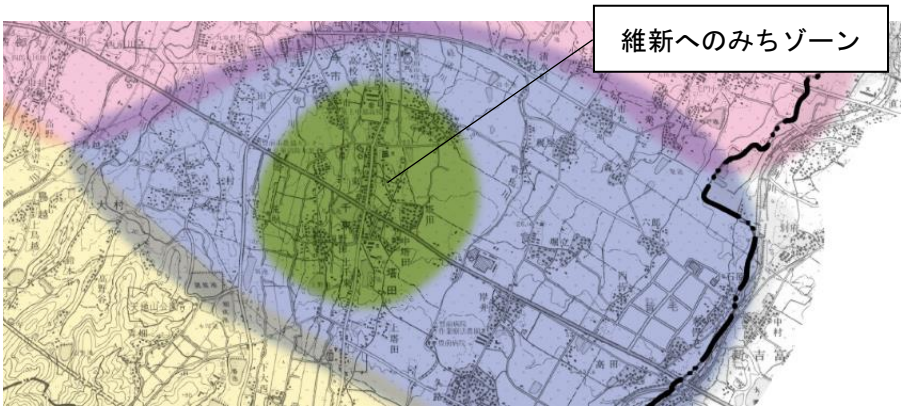
１．地域の文化財を守り、次世代に継承する

千束藩の武家屋敷跡は当時の地割が残り、旭城跡の石垣や屋敷門など歴史的な資源が残されているため保護を図ります。

２．地域の文化財を整備し、活用する

武家屋敷の地割が残り、歴史を感じさせる建物や神社も見られることから昔からつづく景観としての保存と整備を図ります。市内にも武家社会があったことが分かる様環境整備を行います。スポット的に残る歴史的な建物を活かすなど、武家屋敷としての景観づくりのための様々な整備を検討します。

町なみ景観のスポット等には解説案内サインの整備を行います。また、武家屋敷の町なみをスマートフォンやタブレットで見ることができるＶＲやＡＲの整備の検討も行います。



５章　保存活用（管理）計画の考え方

１．基本的な考え方

文化財の保存活用（管理）計画とは、文化財の価値を保存し、その活用するための詳細な計画であり、本構想とは別に策定する必要があります。

本構想では、対象となる文化財（群)、保存活用（管理）計画を作成する主体（所有者や管理者等)、文化財（群）とその周辺環境に関する整備の方針、その他の保存活用（管理）計画に定めることが望ましい事項等についての考え方を示すものとします。

（１）基本的枠組み

具体的な計画策定を進めためには、以下の項目について検討が必要となります。

・計画対象となる文化財の総合的な把握
・文化財の計画策定の主体
・文化財の保存活用（管理）の方針
・周辺環境の整備方針
・体制整備の方針
・具体的な事業計画

文化財を総合的に把握するために、それぞれの文化財の保存の現状や課題、保存対策や活用の方向性を把握するための「文化財カルテ（仮称)」を作成します。また、市民などの活動団体の情報を入手・整理して、データベース化の推進を図ります。データベースから各文化財の活用と活動団体のマッチングを行い、埋もれていた文化財も有効に活用できるようにします。

表　保存活用（管理）計画のための文化財カルテの項目一覧

共通事項	名称	所在地と地図	分類と写真
	指定・登録、未指定等	成立・設立時期	所有者・管理者
	公開非公開、アクセス	周辺環境	関係団体・個人
	情報発信状況（担い手・内容等）	調査の履歴（時期・内容等）	学校教育・生涯学習との関連
	まちづくりとの関連	その他（対象独自の内容に関連して、課題等）	カルテ作成者と情報提供者・作成日
	テーマ別関連文化財群	歴史文化保存活用区域	
有形文化財	関連行事、清掃・見回り等（時期・回数・内容等）	修理・補修の履歴（時期・内容等）	周辺環境整備の状況（時期・内容・担い手等）
無形・民俗文化財	参加人数	開催時期・頻度	開催場所
	装置・道具・衣装等	費用	維持されている主な理由

：文化財共通　：主に有形文化財の場合　：主に無形・民俗文化財の場合

表　保存活用（管理）計画のための活動団体（個人）の活動実績の項目一覧

名称	主要構成員・世代	主な対象文化財
設立時期	主な活動内容	活動場所・年間活動回数
他団体との連携の有無	活動費	情報発信状況
存続している主な理由	その他（問題と課題、今後の計画）	作成者・作成時・連絡先

（２）保存活用（管理）計画を策定する主体

主に有形文化財の保存活用（管理）計画を策定する主体者は所有者若しくは管理者となります。その主体に応じた進め方として以下の表に示します。

ここで民間とは個人または組織（町内会や集落、法人など）となり、所有者などの意向が重視されますが積極的な文化財の保存活用の協力が求められます。

無形文化財の場合は、下表のように考えることができます。

表　有形文化財の所有・管理別の計画策定主体と進め方

所有者	管理者	計画作成主体	作成の進め方
公共	公共	公共	・公共内の優先順位 ・関係団体を取り込む
公共	民間	公共	・管理者と協議
民間	公共	民間か公共か	・主体の調整が必要
民間	民間	民間	・公共からの働きかけと依頼 ・メリットの提示と計画策定費用の検討

表　無形文化財の主催者別の計画策定主体と進め方

主催者	計画作成主体	作成の進め方
公共	公共	・公共内の優先順位 ・関係団体を取り込む
民間	民間	・公共からの働きかけと依頼 ・メリットの提示と計画策定費用の検討

民間のメリットには、当該の文化財保存活用（管理）計画を策定した場合、公共からの管理・維持費等の補助や、広報活動の支援による集客力増加等の協力も得やすくなることが考えられます。

個別文化財や歴史資源を文化財群として捉える場合、それぞれ個別文化財の計画主体による相互調整が必要となります。

（３）文化財（群）とその周辺環境の整備方針

既に実施済みの整備情報を整理し評価を行い、まちづくりなど関連行政計画における今後の周辺環境整備に関する情報収集などを行い、整備方針に関する前提条件を整理します。

整備方針では、目的、方法、主体と関係部局、時期、予算措置などを明確にして、今後の保存活用（管理）計画の基本的な条件を示します。

共通の整備方針として、文化財（群）の価値を周辺環境とともに高めていき、豊前市のまちづくりと魅力の向上につなげるものとします。

多種多彩に存在している豊前市の文化財（群）のうち、特に、第 4 章で示したテーマ別関連文化財群、歴史保存活用区域での整備方針と保存活用（管理）計画を優先して進め、新たな施設を整備や既存施設に手を加えることによって、魅力ある地域の空間へと変化させることが可能となります。これらは先導的なモデルとなり、市民が効果を実感できれば啓発効果も期待されます。

他にも、公開可能、学校教育・生涯学習、観光振興とつながる文化財（群）を選定して、整備を優先的に進めることで、まちづくりのための多くの拠点を設けることができます。

２．関連文化財群と歴史保存活用区域の保存活用（管理）計画に関わる事項

前項に示した基本的な考えの他に、本構想の関連文化財群及び歴史保存活用区域に関して、特に検討すべき事項を以下に示します。

（１）関連文化財群の保存活用（管理）計画に関わる事項

・計画策定の主体の設定

文化財別に計画作成の主体を検討することにより、主体が関連文化財群のなかで計画策定が可能な文化財を選定してすすめます。まず、行政が中心となり先行して計画を策定することで、他の個人や団体のモデルとなることが望ましいといえます。

・テーマを活かす保存活用（管理）計画

保存活用（管理）計画にあたっては、関連文化財群のテーマを活かすことを基本とします。豊前市の独自の歴史、文化の特徴を表すテーマは、保存活用（管理）計画の重要な柱となります。

・調査の推進、普及啓発、まちづくりへの関与

保存活用（管理）計画において、関連文化財群とその周辺環境の今後の調査の推進、それらの普及啓発、まちづくりへの関与を含めることが求められます。

（２）歴史保存活用区域の保存活用（管理）計画に関わる事項

・区域特徴のまとめ

本構想の記述をもとに、さらに以下を明確にして、計画の前提条件を整理します。

区域の設定
歴史文化の特徴
社会状況の概要

・保存活用の５つの方向性と方策を検討

区域の特徴と本構想で示した保存活用の方向性をもとに方策を検討します。

・区域の保護措置を検討する

保護措置のための認定基準、運用方法等を検討する場を設けます。

・区域の住民と協議する

区域が含まれている地域で住民説明会を行い、文化財（群）の保護、保存活用のあり方とその計画について協議を行い、情報の共有化、地域の協力を得て計画の実現を推進していきます。

・区域での保存活用（管理）計画の情報発信をしていきます。

６章　文化財の保存・活用を推進するための基本方針及び体制整備の方針

文化財の保存・活用を推進するためには、行政を含む関係団体や個人がこれまでの活動を基礎としつつ、さらに地域において相互の連携・協力体制を構築していくことが重要となります。そのためには、各活動を推進するための中心となる組織の確立が求められます。本章では、各関係団体の活動、中心となる組織、行政の役割をまとめ、体制整備に向けての連携の考え方を提示します。

１．関係団体の活動

（１）活動の方針

各文化財関連団体との連携や各団体相互の活動の連携を行い、それぞれ文化財や関連遺産など周辺環境を含めた保存・活用の推進を図ります。

（２）活動の状況

現在、市内には下表に示すように、地域の文化財の保存・活用に関係する団体があります。その他にも豊前市内にはまちづくりや地域活動を行っている多様な団体があります。

○豊前市内の文化財に関する団体

市内文化財の保存会	豊前感応楽保存会
	求菩提山お田植祭保存会
	蔵春園保存会
	如法寺史跡保存会
	千手観音保存会
	豊前岩戸神楽保存会
	畑どんど焼保存会
	八屋祇園連絡協議会
	宇島祇園保存会
	松江祇園保存会
森の案内人	
豊前市自然と文化財を守る会	
豊前市史跡ガイドボランティアの会	
豊前市観光協会	
ＮＰＯ法人　くぼて	

公的な組織では、求菩提資料館、豊前市立埋蔵文化財センター、豊前市立多目的文化交流センターなど教育委員会などが所管するものがあります。また各地区には公民館があり、各地区の活動のとりまとめ、行政との連絡の役割を担っています。

なお、豊前市の行政部局には、教育委員会生涯学習課の他に、総合政策課、観光物産課、都市住宅課、農林水産課などの各課が関係しています。

その他、豊前市観光協会の加入団体は、宿泊や観光の他、文化や食、特産品開発等に関する様々な活動を行っています。

２．中心組織の必要性と役割

（１）体制の方針

文化財の保存・活用の効率的な推進に当たっては、関連活動団体との調整を行い、とりまとめる組織体制づくりを行います。

（２）組織体制の整備

中心となる組織は諸団体の活動状況把握、人材育成の支援、市民からの窓口、行政との連携、新しい団体づくりの支援などが考えられ、そのための情報の収集と効果的な発信を行うとともに、諸団体の連携を推進していくことが望まれます。

特に、「豊前市文化財保存活用推進協議会（仮称）」において、テーマ別関連文化財群、歴史文化活用区域に存在している文化財（群）とその周辺環境の保存活用の活動が期待されます。

本協議会には専門家・学識経験者を含め、市民のみならず、市外のからもサポーターを募るなど、内外からの協力を得ることによって視野が広がると考えられます。

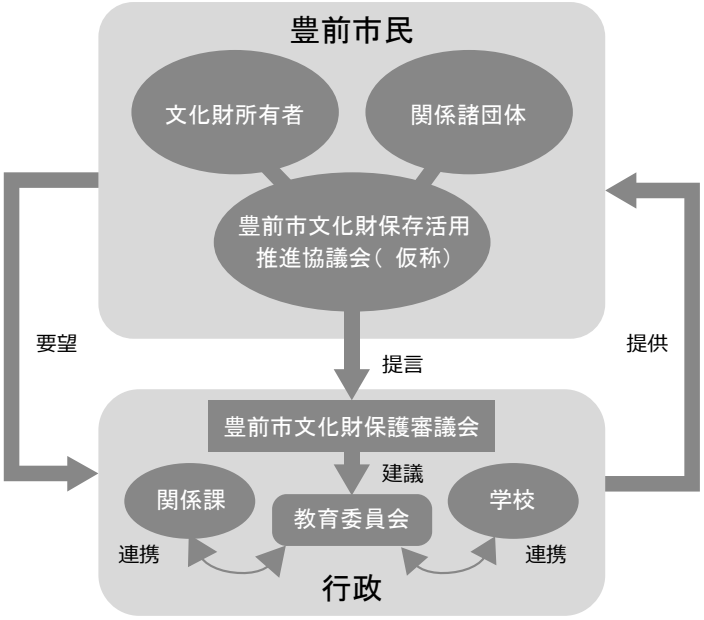


図　豊前市文化財保存活用推進協議会（仮称）を中心とする連携イメージ

３．行政や市民等の役割

（１）行政の役割

文化財保存活用の体制整備に向けて、行政として、特に文化財担当部局の役割は以下の通りとなります。

・豊前市行政内の横断的な体制づくり

各文化財の積極的な保存活用を推進するためには、担当する文化財担当部局の体制整備を行う必要があります。さらに関連する総合政策をはじめ、都市計画と連携した景観保全や、建設や農林水産業振興部局などと連携し、公共事業などから文化財とその周辺の環境を守ります。また、観光関連部局等との連携によって文化財を活用した観光やウォーキングコース、周遊ルートの整備、古民家の活用など地域振興を推進する行政内の横断的な体制づくりを行います。

・文化財の継続的な調査研究

指定文化財については、これまでの調査研究成果の蓄積を基に継続的に調査研究を進めます。未指定文化財については、存在自体が市民に認識されていないものもあるため、調査研究を行い成果の情報を発信します。学術調査については、大学などの研究機関や専門家のほか、市民グループなどとも連携を図り多方面からの調査も検討します。

・文化財を活かす学校教育プログラムの検討

学校教育では「ぶぜん９年プログラム」を導入し、子どもたちは人権や命の大切さとともに郷土の歴史や文化を学んでいます。さらに郷土愛を育む教材として様々な文化財を活用するため、学校教育部局と連携します。

・文化財を活かす生涯学習プログラムの検討

市民活動や各種講座が行われており、文化財や歴史の理解をさらに深めるなど市民の学習機会の充実を図るため生涯学習部局と連携します。

・他市町の文化財保存活用に関わる情報収集

５つの道をテーマとしていることなど、文化財は豊前市内に限らず周辺市町とのつながりを持っています。周辺市町と情報交換を行い、広域的な文化財の保存活用を図ります。

・関係機関との連携

文化財の適切な保存管理や活用整備など、施策や技術的な情報を把握するため、文化庁や福岡県などとも連携を図ります。

・「豊前市文化財保存活用推進協議会（仮称）」の発足

文化財の保存や活用を効率的に行うため、市民主導による組織的な体制として、文化財所有者や伝承者、学識者、地域住民、企業等民間団体、専門家などで構成する「豊前市文化財保存活用推進協議会（仮称）」の立ち上げを推進します。

・文化財とその保存活用情報の情報収集と発信、データベース化

これまでの文化財調査等で得られた情報、各文化財の担い手の情報などもベータベース化します。それらを情報発信することで共有し、今後の保存管理方法の検討をはじめ、観光資源や地域活性化などに利用します。

・『豊前市歴史文化保存活用計画』の策定

本基本構想を受けて実際に文化財を保存管理し、整備活用に向けた行動の指針となる計画を策定します。

・保存活用のための予算・制度の検討

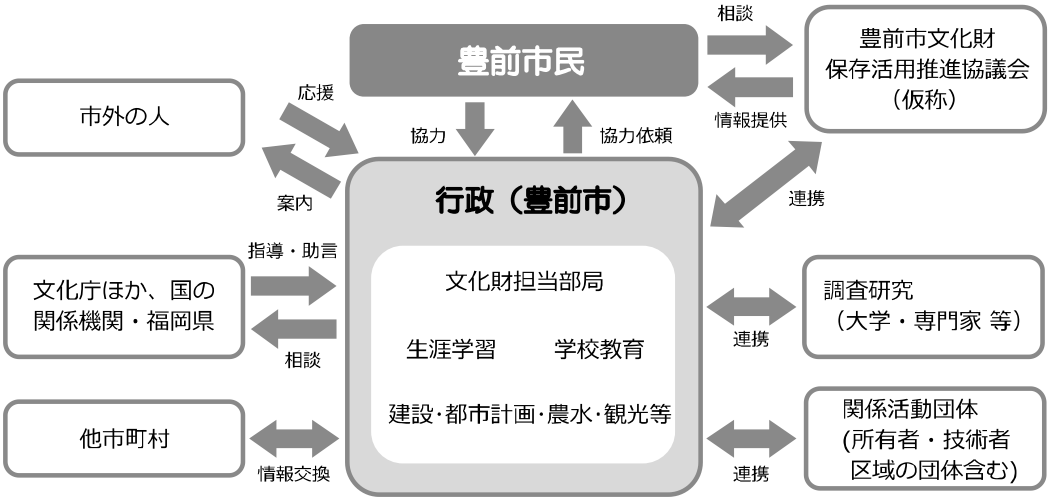
文化財の保存活用を継続的に推進するため、今後の事業を実施継続するための予算措置や必要な制度等を検討します。

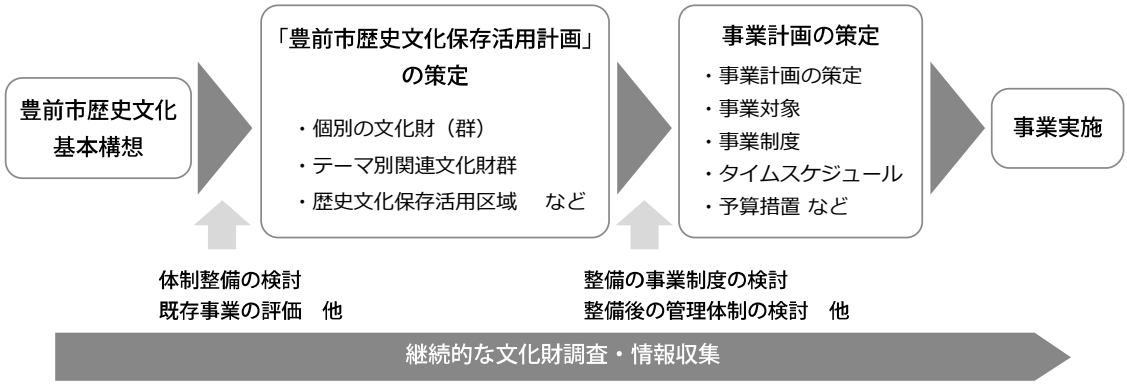
（２）学校の役割

豊前の歴史文化を学習し、地域の歴史や地域に残る文化財の愛護精神を育むことを進めます。

（３）市民の役割

居住地・周辺地域の歴史文化の見守り、またそれを活用した地域づくりを実践します。





４．防災・防犯

文化財においても自然災害による被害が想定されることから、被害の予防や、被災後の管理等も検討する必要があります。また、いたずらや盗難などの毀損（きそん）行為による被害を防ぐことも文化財の保存活用に必要であることから、前項の保存・活用を進める体制整備の中で役割を検討していきます。また、災害などで毀損した文化財の修理や修繕についても文化財の保存活用に必要とされるものです。

豊前市の主な災害は集中豪雨等による土砂災害と、高潮や津波による浸水が想定されます。地震については、豊前市に近い活断層は小倉東断層、福智山断層帯と大分県中部には別府－万年山断層帯があり、豊前市沖には海溝型地震の震源域はありませんが、南海トラフ沿いの巨大地震で被害を受ける可能性もあり、著しい地震災害が生じるおそれがあるため、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています。

（１）防災

文化財災害予防対策としては、「豊前市地域防災計画」（平成 30 年度改正）があります。

第 2 編災害予防計画には文化財を災害から保護するため、防災意識の高揚、防災施設の整備を図るとされています。具体的には主に火災に対する計画が記されています。

表　豊前市地域防災計画における文化財の防災

１ 文化財に対する市民の防災意識の高揚と愛護精神の普及徹底を図るため、「文化財防火デー」等を活用した広報活動を行う。	
２ 所有者等を対象とした文化財の防災に関する講習会等を実施する。	
３ 火災予防体制の確立等、次の事項に係る管理保護についての指導を行う。	
	(1) 防火管理体制の整備
	(2) 環境の整備
	(3) 火気の使用制限
	(4) 火災危険箇所の早期発見と改善及び火災警戒の実施
	(5) 自衛消防隊の組織の確立とその訓練
	(6) 火災発生時にとるべき初期消火等の訓練の実施
４ 防火施設等、次の事項の整備の推進とそれに対する助成措置を行う。	
	(1) 消火施設
	(2) 警報設備
	(3) その他の設備
５ 倒壊等の防止対策及び落下物等による破損防止対策により、文化財の破損防止を図る。	

文化財災害復旧事業計画では、「文化財が国民の貴重な財産であることにかんがみ、迅速かつ適切な復旧を促進する。」とされています。地震に対しても、まず耐震診断を行い、耐震補強など必要な措置を計画的に行う必要があります。

風水害や高潮、津波の危険性からも文化財を守る必要があります。指定文化財のほか、未指

定の文化財に対して所在確認を行うためにも、今後作成を検討する文化財リストにおいては危機管理マップ等の整備も目指します。文化財と災害情報を重ね合わせることにより、予期される被害状況を図上で把握しておくことも、防災の観点から重要となります。

前項で示した文化財の保存活用（管理）計画では、それぞれの文化財に及ぶ被害を想定し、建造物や有形文化財であれば地震時の倒壊や火災等に対する予防方策を検討し、史跡や天然記念物などは土砂の流出や樹木の倒壊など、風水害に対する方策を明記する必要があります。

（２）防犯

文化財の防犯については、住民の日常的な取り組みの中で協力を呼び掛けていきます。近年は全国的にも人為的な行為により文化財が被害を受けている事案や、盗難などの被害も増加する傾向にあります。未設置の箇所に防犯カメラ等の設備の整備を促していく事はもちろん、既設装置の更新などを進めることが望まれます。

指定文化財については、自動火災報知機、消火器具などの消防設備のほか、防犯カメラや防犯センサーの設置や定期点検の指導、財政支援を行います。

未指定については地域での見守りが重要となってきます。日常的に連絡や情報交換を行える体制をつくり、地域内の情報が迅速に行政に伝えられるよう体制整備を図ります。

（３）応急対応

災害時は市役所全体で、人命を最優先とし生活に支障がないよう復旧を進めることが優先されます。文化財の復旧はその後の対応となることから、被災状況の把握と復旧体制や方法の確立が優先課題となります。そのためには今後作成を検討する文化財リストを活用できるよう、情報の更新や関係各所との共有を図る必要があります。

（４）災害復旧計画

大規模災害が起きた際の復旧については、被災規模や状況によって様々な方法があります。しかし、文化財の復旧は、単に文化財の復旧修繕にとどまらず、地域コミュニティ復興のシンボルとしての役割もあります。平成 29 年の九州北部豪雨で市全体が大きな被害をうけた朝倉市では、九州歴史資料館などに文化財を保管するなど県をはじめ周辺地域と連携して文化財を護る事例もあります。

有事の際に、文化財復元の指針となる情報を備えておくことが重要となってきます。

５．文化財の毀損に係る修繕などの基本的な考え方

有形文化財は災害時に限らず、素材の経年劣化や使用時における損傷などが考えられます。

豊前市内に所在する指定文化財のうち、修理や修繕を行う際に特殊な技術を要するものは多くありません。

具体的な修理・修繕には

古文書、絵画、歴史資料など紙質のもの

仏像など木彫（木質）のもの

和楽器など民俗芸能関係

建造物や山車など
史跡のうち石垣などの構造物
天然記念物など植物に関するもの
考古資料（土器など）

などが考えられますが、いずれも豊前市として過去に対応した実績があり、今後とも関係事業者、関係機関と協力しながら修復等の対応は可能です。

ただし、特殊なものとして考古資料のうち金属や石、木質であるものまた、神社建築のうち桧皮葺の技術を必要とするものなどがあり、今後の課題といえます。

考古資料については県立九州歴史資料館または九州国立博物館に専門の部署があることから、必要に応じて連携しながら対応します。また神社建築に係る桧皮葺など特殊な技術については、大分県宇佐市にある宇佐神宮において専門の技術者が居ることから、協力を求めながら対応したいと考えています。

なお、東日本大震災の際には多くの文化財が被災し、改めて災害時の文化財保護のあり方が課題として突きつけられました。その対策として東京文化財研究所や関係機関による文化財レスキューという取組みが注目されており、豊前市においても今後予想される南海地震などで文化財が被災した場合は、こうした支援について念頭に置く必要があると考えています。

未指定文化財についても、個人や地域で所有するものなどは修理や修繕技術の相談に応じるなど、保存と活用を図ります。

豊前市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月 31 日
編集　豊前市
豊前市大字吉木 955
株式会社 修復技術システム
福岡市博多区奈良屋町 5－10 302

発行　豊前市

印刷　築上印刷(有)
福岡県豊前市大字岸井 201－1